Passo a Passo

Devoted to the Development of Socio-Intelligence
SENSHU UNIVERSITY

平成26年度　専修大学 資格課程年報『パッソ ア パッソ』

教 職 課 程
司書教諭課程
司 書 課 程
学芸員課程

vol.17

専修大学21世紀ビジョン
「社会知性（Socio-Intelligence）の開発」

社会知性（Socio-Intelligence）
専門的な知識・技術とそれに基づく思考方法を核としながらも、深い人間理解と倫理観を持ち、地球的視野から独創的な発想により主体的に社会の諸課題の解決に取り組んでいける能力
専修大学が創り育てる“知”

専修大学は、2009年、創立130年を迎えました。

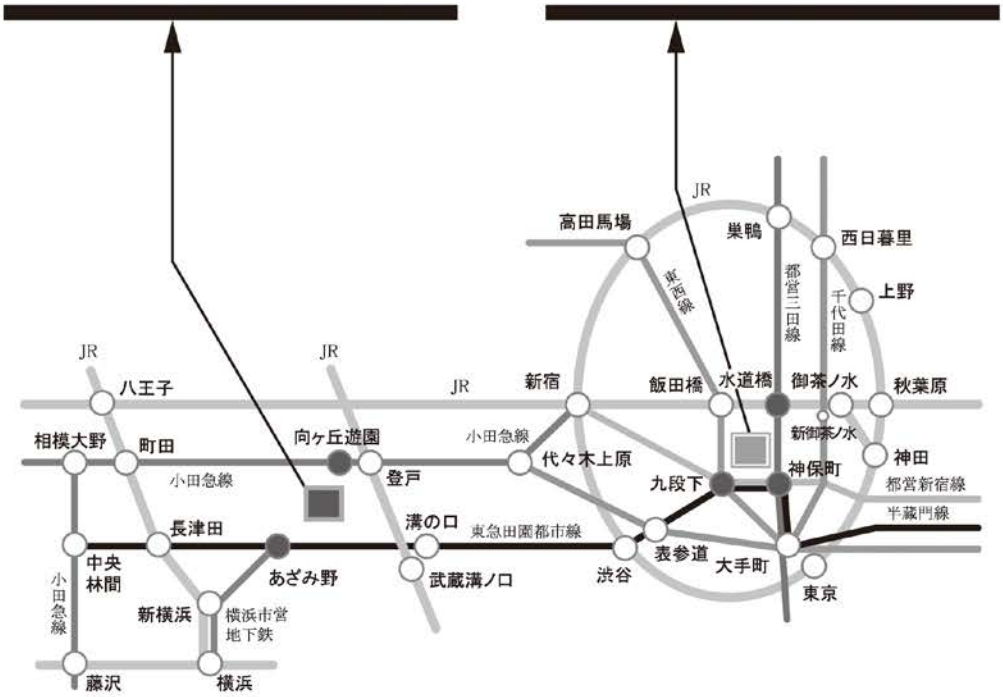
専修大学は、1880 年（明治 13 年）、米国留学から帰国した 4 人の若者により創立されました。相馬永胤、田尻稲次郎、目賀田種太郎、駒井重格の創立者たちは、明治維新後、アメリカのコロンビア、エール、ハーバード、ラトガース大学にそれぞれ官費や藩費により留学し、米国の地で「専門教育によって日本の屋台骨を支える人材を育てたい。そのことが海外で長年勉学する機会を与えてもらった恩に報いることだ」と考えました。帰国後、経済学や法律学を教授するため本学の前身である「専修学校」を創立しました。わが国があらゆる分野において新時代を担う人材を求めた時代にあって、留学によって得た最新の知見を社会に還元し、母国日本の発展に寄与しようとしたのです。時は 21 世紀に至り、この建学の精神「社会に対する報恩奉仕」を、現代的に捉え直し、**「社会知性（Socio-Intelligence）の開発」**を 21 世紀ビジョンに据えました。このビジョンは、創立者たちが専門教育によってわが国の人的基盤を築こうとした熱き思いを現代社会において実現することでもあります。

生田キャンパス

●小田急線
向ヶ丘遊園駅（新宿から急行で約20分）
北口よりバス約10分または南口より徒歩14分
●東急田園都市線・横浜市営地下鉄
あざみ野駅よりバス約35分
直通バス（学生専用）約20分

神田キャンパス

●JR 水道橋駅西口より徒歩7分
●地下鉄東西線・半蔵門線・都営新宿線
九段下駅「5」出口より徒歩3分
●地下鉄半蔵門線・都営新宿線・三田線
神保町駅「A2」出口より徒歩3分



「学制」

教職課程協議会委員長　商学部　教授　中野　育男

学制と言うと明治５年の我が国初の近代教育立法として有名な太政官布告を想起されることと思う。明治５年の学制は欧米近代国家の教育法制に倣い、明治国家の初等教育から高等教育にわたる近代学校の制度を構想した。しかし、現実には維新政府の抱える諸事情から学制が定めた学校種がすべて設置されたのはずっと後になってのことである。近代国家建設の必要性にもとづいて優先順位が付され、初等教育と高等教育の整備に重点が置かれた。今日の中学校、高校にあたる中等教育の諸学校の設置は大変に遅れた。学制が描いた我が国の近代学校制度は、その後、幾多の変遷を経て、今日の学校制度に引き継がれている。

現行の学制すなわち学校制度も、第二次大戦後に連合国の占領政策の下で制定されてから 70 年近い歳月が経過している。６・３・３制と一般に呼ばれる小学校、中学校、高校の在学年数と制度は国民の中に深く定着している。占領政策の下で制定されたとは言え、戦争の大きな犠牲の中から生まれた理想主義の考え方を土台にした自由と平和を志向する戦後教育立法の屋台骨を構成している。

このような６・３・３の学校制度も、長い時間の経過に伴う社会、経済、文化の変動に対応した変革を求められている。既に中等教育学校では３・３すなわち中学校と高校を一貫した中等教育が行われている。また、６・３の小学校と中学校すなわち初等教育から前期中等教育までを一括りにした義務教育学校の構想も具体化しつつある。今後、学校制度は大きく変貌を遂げて行くものと思われる。

少子・高齢化に次いで生じる人口減少社会に対応して、お互いに顔のわかる範囲の地域において９年間継続的に児童生徒の育成を担う義務教育学校と、６年間かけて専ら中等教育を行い社会の指導層を養成する役割を果たすことになる中等教育学校、そして３年間の後期中等教育を担当する高校を含めて３種類の学校種が今後、揃うことになるであろう。高校では、義務教育学校の修了者が入学し、一般的及び専門的な知識、技能を修得し社会の中堅層として巣立って行くことになる。このような学校制度はヨーロッパにおけるフォルクスシューレ、ギムナジウム及びハオプトシューレから構成されている制度に機能の面でも酷似している。

このような学校制度の歴史的ともいえる改革を控え、教育免許制度や教員養成の在り方も大きく変わろうとしている。新たな学制に対応した免許の体系と、これに即応した養成のシステムが求められており、近い将来において、大幅な改正が見込まれる。本学の教員養成は、戦後のオープン・システムと呼ばれる養成制度の下で、一般の学部において教職課程を履修することによって行われている。教員養成を専門とする大学、学部とはそのあり方を大きく異にしている。本学のような教員養成の強みは、学部の提供する専門科目の豊かさ、すなわち教科の専門性の深さにある。学生諸君には、教科の専門性を十分に意識した履修が肝要である。

Passo a Passo

表題はイタリア語でパッソ・ア・パッソと読み、「一歩ずつ」という意味です。
地道に努力して難関に挑戦し、突破してほしいという願いが込められています。

目　次

イタリアの「包摂共生教育制度の成立と展開」研究顛末記
経営学部　教授　嶺井　正也 …… 6
アメリカにおける青年期的アイデンティティ模索と心理療法
経済学部　講師　角田　真紀子 …… 8
教師修行　ー学び続ける教師にー
文学部　特任教授　神山　安弘 …… 10

教職課程

卒業生から …… 14
教員採用試験体験記 …… 18
教育実習を終えて …… 23
「なぜ数学を学ぶのか」に対する答えの先にあるもの
ネットワーク情報学部　兼任講師　大塚　慎太郎 …… 30
介護等の体験を終えて …… 32
専修大学教育学会に参加して …… 33
教職総仕上げ「教職実践演習」 …… 34
教科研修生体験レポート …… 35
多摩区・3大学連携事業「学校教育ボランティア」体験レポート …… 36
専修大学附属高等学校から　　将来を見据えて、今、学び続けよう
私立専修大学附属高等学校　教諭　安岡　充令 …… 37

司書・司書教諭課程

知ることの楽しさを一人でも多くの子どもたちに伝える
文学部　兼任講師　千代原　真智子 …… 40
図書館実習を終えて …… 42
卒業生から …… 43

学芸員課程

博物館と関連領域の連携
筑波大学大学院図書館情報メディア研究科図書館情報メディア専攻博士前期課程在学中　小貫　智晴 …… 46
博物館実習を終えて …… 48

データ編（平成26年度）

資格課程履修者数 …… 52
教員免許状取得状況一覧 …… 53
教育実習先一覧 …… 54
図書館実習・博物館実習先一覧 …… 57
主な就職先一覧（教職、司書・司書教諭、学芸員） …… 58
資格課程年間行事表 …… 63
教職公開講座開催結果 …… 64
司書課程就職（進路）懇談会開催結果 …… 65
資格課程教員紹介 …… 66
編集後記

■4つの資格課程

教職課程 … 中・高等学校の教員免許状取得

「教職課程」は、大学卒業後、国公立・私立学校の教育職員(教員)になろうとする者が教育職員免許状を取得するためのものであり、教員を養成することを目的としています。加えて、平成10年より「小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律」（介護等の体験法）が施行され、中学校の教諭の普通免許状を取得しようとする者には、介護等体験が義務付けられています。

公立学校の教員になるためには、教育職員免許状を取得（取得見込）した上で都道府県及び政令指定都市教育委員会の実施する「教員採用候補者選考試験」に合格しなければなりません。

<本学で取得可能な免許状>

学　　部	学　　科	種　類　・　教　科	
		中学校教諭一種免許状	高等学校教諭一種免許状
経済学部	経済学科	社会	地理歴史、公民、商業
	国際経済学科	社会	地理歴史、公民、商業
法学部	法律学科	社会	地理歴史、公民
	政治学科	社会	地理歴史、公民
経営学部	経営学科	社会	公民、商業、情報
商学部	マーケティング学科	社会	地理歴史、公民、商業、情報
	会計学科		商業
文学部	日本語学科	国語	国語
	日本文学文化学科	国語	国語、書道
	英語英米文学科	英語	英語
	哲学科	社会	地理歴史、公民
	歴史学科	社会	地理歴史、公民
	環境地理学科	社会	地理歴史、公民
	人文・ジャーナリズム学科	社会	地理歴史、公民
ネットワーク情報学部	ネットワーク情報学科	数学	数学、情報
人間科学部	心理学科	社会	公民
	社会学科	社会	地理歴史、公民

※「教員免許更新制」

平成21年4月の新免許法の施行に伴い、免許状には最長10年間の有効期間が設けられ、免許状を失効させないためには、10年毎に免許状更新講習を受講して、免許状の更新を行うことが義務付けられました。講習を受講しなかった場合や受講後の更新手続きをしなかった場合は、免許状が失効することになります。これが教員免許更新制です。受講資格は、現職教員の他、教壇に立つ予定にある者のみが持ちます。

司書教諭課程 … 学校図書館の専門職

「司書教諭」とは、小・中・高等学校等の教育に不可欠な学校図書館の専門的な仕事に携わる教員のことです。司書教諭は教育の現場で他の教職員と協力しながら、学校図書館の資料提供はもとより、児童・生徒に対して図書館利用や読書に関する指導をしたり、教員に対して図書館を活用した授業展開ができるように支援するといった役割を担っています。

司書教諭の資格は教育職員免許状を持たなければ有効にはなりませんので、司書教諭の資格取得を希望する者は教職課程と司書教諭課程の両方を履修する必要があります。

2003年度からは12学級以上の規模の学校には必ず司書教諭を配置することになりました。そのため、教育の現場では司書教諭有資格者のニーズが高まっています。

司書課程 … 公共・大学図書館等の専門職

「司書」とは、公共図書館、大学図書館、研究機関や企業の図書館・資料室などで、資料（図書、雑誌、ＤＶＤ等）を収集し、利用者に対して適切に提供する専門職のことです。

司書の資格を取得するには、司書課程を履修する必要があります。

司書課程では、図書館の歴史や仕組み、資料の選び方や整理の仕方、急速に普及している電子メディア（インターネットなど）の活用法、出版流通の仕組み、子どもや障害のある人に対する図書館サービスのあり方など、図書館に関連する幅広い知識・技術を学びます。

生涯学習社会・高度情報社会といわれる今日、司書の果たすべき役割は非常に大きく、熱意と素養のある人材が求められています。

学芸員課程…博物館の専門職

「学芸員」とは、博物館において、資料の収集、展示、保管、調査研究、その他これに関連する社会教育的活動などの専門的な仕事に携わる職員です。ここにいう博物館とは、美術館、歴史資料館、民俗資料館、民芸館、文学館、動・植物園、水族館などあらゆる分野の公・私立の施設を指しています。こうした博物館に勤務するためには、学芸員の資格を有することが必要です。学芸員の資格を取得するには博物館法第５条に、学芸員は「学士の学位を有する者で、大学において文部科学省令で定める博物館に関する科目の単位を修得した者」と規定されています。

学芸員の仕事は人気が高いうえ、募集もわずかなので、実際に学芸員の職につくのはきわめて難しいといわれています。ひとくちに博物館と言っても、歴史資料や考古資料、美術品など、扱う資料によって種類はさまざまです。学芸員を目指すなら専門知識を高めておくことも大切です。

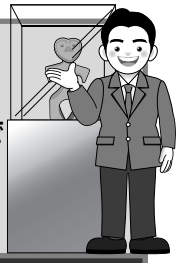
好きなこと、チャレンジしたいことが、キャンパスで楽しく身につくなんて！！

教員を目指すあなたへ

教職課程

本が好き
図書館で働きたいなら

司書課程・司書教諭課程



博物館・美術館で働きたいなら

学芸員課程

教職・司書・司書教諭・学芸員課程ガイダンス

教職課程	司書課程	司書教諭課程	学芸員課程
1～4年次 教職課程履修登録 4月上旬	1～4年次 司書課程履修登録 4月上旬	1～4年次 司書教諭課程 履修登録 4月上旬	1～4年次 学芸員課程 履修登録 4月上旬
3・4年次 介護等の体験 （中学校教諭免許状取得希望者） 5月下旬～3月上旬			
4年次 教育実習 5月～11月	4年次 図書館実習 （希望者） 8月～11月		3・4年次 博物館実習 （館務実習） 7月～9月
卒業時（事前に申請した者） 教員免許状の交付 3月	卒業後（希望者） 司書課程単位 修得証明書の 申請および交付	卒業後（事前に申請した者） 学校図書館 司書教諭講習修了証書 の交付	卒業時（事前に申請した者） 学芸員資格取得証明書 3月

司書・司書教諭課程サポート

司書課程就職（進路）懇談会　12月開催

図書館関係者をゲストに迎え、図書館関連の就職や大学院進学について懇談をしています。

学芸員課程サポート

文化財セミナーを開催

平成20年10月に専修大学130周年記念文化財セミナー「発想転換」を開催しました。

教職課程サポート

玉川大学との連携による小学校教員養成特別プログラム

本学では、これまで小学校教諭の免許状取得の道はありませんでした。ニーズの高まりに応えるため、玉川大学と連携し、2007 年度より小学校教員養成特別プログラムをスタートさせました。本学に在学したまま玉川大学通信教育部の科目等履修生となり、免許状取得に必要な科目を受講し、卒業と同時に小学校教諭二種免許状の取得をめざすものです。

ただし、免許状取得には本学の卒業要件単位と、中学校教諭一種免許状及び高等学校教諭一種免許状を取得するための教職課程の単位を充足した上、さらにこのプログラムの諸科目の単位を修得しなければなりません。ゆえに、プログラム参加学生は、多大な努力が求められることを十分に認識し参加してください。

※このプログラムは小学校教諭二種免許状の取得を保証するものではありません。
※商学部会計学科は除きます。

教職公開講座　10月上旬開催

教職公開講座は、教職をめざす学生を対象にした入門講座です。年に 1 度、10 月上旬の土曜日に開催します。教員に採用された本学の卒業生を講師として招き学校の様子や教員採用試験の対策について話していただきます。また採用試験官の経験者を招き試験の傾向や求められる教師像などについて話していただきます。受講することで採用試験の準備がしやすくなるだけでなく、教員になるための学生生活の送り方も理解することができます。

多摩区・3大学連携事業学校教育ボランティア

多摩区・3 大学連携事業として、川崎市多摩区と日本女子大学が取り組んでいる「学校教育ボランティアによる学校サポート事業」に本学も参加しています。学生が川崎市多摩区内の小・中学校に週 1、2 回程度ボランティアとして出向き、学校をサポートするものです。

活動内容は、教科指導中の個別指導の補助、部活指導の補助、サポート学級の補助などです。学校や児童生徒の理解、授業力の向上など教員としての資質の向上に役立ちます。今や教員志望者にはボランティア経験が不可欠で、その貴重な体験の場となります。

教科研修生制度

本学と連携協定を結んでいる高等学校及び専修大学附属高等学校で、教科担当教員の指導の下、教育活動に関する様々な研修を行うのが教科研修生制度です。現在、国語、英語、社会、情報、数学、そして学校の特色に応じて設定される学校設定科目などで研修が行われています。教育実習前に学校現場を体感し、教科等の指導を体験できる「教職版インターンシップ」と言える貴重な制度です。

研修期間は、半期間で特定の曜日に研修を行う形か、春期休暇期間中の一定期間に集中して研修を行う形があります。

教員採用試験対策講座（エクステンションセンター主催講座）ガイダンス:4月、5月開講

教員採用試験の勉強を始めても、どのように対策を進めればよいか戸惑うことが少なくありません。本学では、本気で教員をめざす者を対象に、低廉な受講料で教員採用試験対策講座を開設しています。対象者は、本学学生と大学院生、本学の科目等履修生および卒業生です。毎週土曜日に開講されます。受験指導予備校と提携し、1 年間を通した計画的な指導が徹底して行われるため、合格の可能性を高めることができます。

※上記のプログラムや講座は、希望する学生のみを対象とするもので、教職課程を受講するすべての学生が対象となるものではありません。

イタリアの「包摂共生教育制度の成立と展開」研究顛末記

経営学部　教授　嶺井　正也

2014（平成 26）年 4 月 1 日から 9 月 18 日まで、自宅にて、専修大学中期研究員として研究する機会をえた。長年のテーマである「包摂共生教育制度の成立と展開」に関し集めた資料や文献にもとづきまとめることとした。すでに 2006（平成 18）年度の国内研究の時にも同様のテーマで研究を行い、大きな流れを整理していたこともあったので、半年という短い期間ではあるが本としてまとめることができるだろうとの見通しをもっていた。その見通しで始めた中期研究であったが、しかし、開始まもなく挫折をすることになった。ただし、イタリアの学校教育及び障害児教育の制度に関する研究をすすめる新たな視点を得ることになったので、その意味では大きな成果を得ることもできた。本稿は中期研究の顛末記である。

中期研究に至るまで

1992 年 4 月から翌年の 3 月まで、私はイタリアのミラノ大学で長期在外研究の機会を得た。その時の研究テーマは二つだった。

一つのテーマは 1970 年代他のヨーロッパ諸国と同じように参加民主主義の考えに基づいて制度化された「学校協議会（consiglio d' istituto）」の詳細と実態を明らかにすることであった。二つ目は、スウェーデン以上に進んでいるが、日本ではその制度と内容がそれまでほとんど明らかになっていなかった「統合教育（イタリア語では integrazione scolastica）」を知ることであった。

この長期在外研究にむけてまず取り組んだのはイタリア語の修得であった。大学、大学院時代にイタリア語を学ぶ機会はなかったため、まず必要となったのがこれだったのである。そのため長期在外研究が決まってからすぐにイタリア語の学習を始め、第一次中東戦争で行くのが危ぶまれた 1990 年 3 月にはフィレンツェのイタリア語学校でホームスティしながら学ぶこともした。

こういう有様であったから、この二つのテーマに関しては先行研究にあたっただけで、自ら集めたデータや資料に基づいて自分なりの知見を持って長期在外に臨むという余裕はなかった。しかも、日本ではイタリア教育の研究者が少なく文献もあまりなかったこともあり、イタリアの教育そのものについても詳細を把握することも叶わなかった。そこで研究期間の当初はイタリア語そのものの学習と並行して、日本語のできるイタリア人チューターの助けを借りて基本文献を読むこと、さらにミラノ大学で受け入れていただいた日本語・日本文学の教授、西川一郎先生とその伴侶であるマリア先生（高等学校の校長）にあれこれ質問しながらイタリアの教育の制度と内容を日本語で理解することが主な課題であった。日本語の学年と学級にあたる言葉がイタリア語では classe 一つであることを理解するのにも時間がかかったほどである。

第二のテーマに関する研究にとって極めて重要な位置を占める「ハンディキャップ者の援助、社会統合及び諸権利に関する基本法（Legge quadro per l' assistenza, l' integrazione sociale ed i diriti delle persone handicappate）」が筆者のイタリアでの研究開始直前の 2 月に制定されていたこともつゆ知らず、この法律の存在を知ったのは研究期間が半年も過ぎた頃からである。

その後可能な限り資料を集め、概要をつかみ、帰国した。帰国後数回にわたってイタリアを訪問する機会があり、学校訪問や資料収集を行った。2006（平成 18）年度に機会を得た国内研究ではそれらを基にして「イタリアにおける包摂共生教育制度の成立と展開に関する試論」（専修大学人文科学年報第 39 号　2009 年 3 月）をまとめた。

この試論で、「統合教育」ではなく「包摂共生教育」という言葉を用いたのは、イタリアでも英語の inclusive education に該当する istrzuione inclusiva、educazione inclusiva、あるいは inclusione scolastica という言葉が研究論文などで 2000 年以降ようやく使われるようになっていたし、筆者自身、イタリアの制度は完全ではないが、しかし、inclusive education system になったものと判断したからである。

国際的にはすでに、1994 年 6 月にユネスコが当時の事務総長マヨールの出身国であるスペインのサラマンカで開催した「特別教育ニーズ世界会議」で採択した「サラマンカ宣言」とその行動枠組みで明示した以降、障害などによる特別なニーズを持つ子どもを原則として通常学校で受け入れてその学習を保障する教育を inclusive education として表現するようになっていた。

イタリアが inclusive education のイタリア語訳となる上記の istrzuione inclusiva、educazione inclusiva、あるいは inclusione scolastica を使うのが遅れたのはなぜか。筆者は、イタリアは統合教育（integrazione scolastica）の先進国として歩んできという自負から integrazione scolastica という言葉を使い続けてきたものと推察している。

しかし、国際的な会議や条約、さらには研究交流などを通して inclusive education に該当する言葉を使わざるを得なくなった。もっともインパクトを与えたのは 2002 年から国際連合で始まった障害者権利条約制定に向けての具体的な検討作業とその結果による 2006 年 12 月の国連総会での同条約の採択であった（この作業には各国の政府代表だけでなく国際的な当事者団体組織の代表も参加）。周知のように同条約の第 24

条の教育条項では inclusive education と inclusive lifelong learning が規定されている。

もはや障害のある子どもの教育に関して inclusive education という言葉を使わないことは、国際的にはできなくなってきたのである（日本でもようやく中央教育審議会が「インクルーシブ教育システム」なる言葉を使うようになっている）。イタリアは 2007 年 3 月に署名し、2009 年 5 月に批准した（日本は 2007 年 9 月署名、2014 年 1 月批准）。

こうした背景があったので、当然、イタリアではこれまでの統合教育を inclusive education の観点から整理する、あるいは跡付けるといったことが予想された。しかも、筆者自身、前述したようにイタリアの統合教育は完全ではないが inclusive education として理解し得るし、位置づけられると考えていた。であるならば、これまで集めた文献、資料やデータを詳細に読み、分析すれば研究テーマにそった研究がうまく行き、あわよくば一冊の本にまとめることができると算段したのであった。

出鼻をくじかれる

「然うは問屋が卸さない」とはまさにこのことであった。中期研究開始そうそう写真にあるこの本を入手した。メインテーマの”Inclusive Education in Italy“に惹かれて購入したのであるが、よく見るとサブテーマは ”A Critical Analysis of the Policy of Integrazione Scolastica” となっていた。inclusive education と integrazione scolastica とはいったいどういう関係にあるのだろうか、と興味を覚えすぐに読み始めた。本書の筆者はかつてイタリアで支援教員をした後、ロンドン大学大学院にすすみ、そこで障害学研究をしたシモーナ・ダレッシオ（Simona D’Alessio）という女性である。

彼女の研究動機は「統合教育政策という進歩的政策が実施されて 30 年以上も経過しているのに、なぜイタリアでは通常学級にいる障害児に対するミクロレベルでの排除や差別の事例がいまだに見られるのだろうか。イタリアの統合政策はインクルージョンに結び付くことができるのか」という点にあった。彼女の結論は「教育における障害児の排除と差別とは学校段階で統合教育政策がきちんと実施されなかったからではなく、障害を個人的欠陥としてとらえる支配的な言説が依然として影響力をもっているからである。反差別政策の後に引き続いたイタリアでの進歩は否定できるものではないが、inclusive education の発展の歩みを押しとどめている主導的な能力主義文化（the hegemonic abilist culture）や障害や学校教育に関する伝統的視点を問う必要がある」というものであった。

その彼女の視点からすると、イタリアにおける包摂共生教育（inclusive education）の一里塚としてイタリアでも位置づけられ、私自身もそう考えていた 1992 年法律第 104 号は、社会的障壁という観点も見られるが、基本的には障害を個人の欠陥としてとらえる見方を保持しており、したがって特別教育パラダイムとの連続性を有しており、これは inclusion の考え方ではない、ということになる。

これを読み、私の当初の目論見は崩れてしまった。そもそも障害学研究を基盤とする inclusive education の観点からしてイタリアの統合教育政策をどう評価し、位置づけなおしていけばいいのかという根本に立ち戻らざるを得なくなったのである。

そして路線変更に

障害学研究にもとづく inclusive education の理論的系統性をも明らかにしている本書は、イタリアの教育だけでなく、inclusive education そのものをどう考えるのかも論じる内容となっているので、彼女に「きわめて興味深い研究であり、興奮を覚える」と、いった内容の短いメールを出した。するとイタリアで inclusive education についてのイタリア語と英語の二言語雑誌を出しているので、日本の inclusive education に関する原稿を書いてくれないかとの要請があった。筆者はその要請にのってしまった。英語で書くかイタリア語で書くか悩んだすえ英語で書く事にしたのだが、戦後日本の障害児教育をめぐる制度、理論、実践を網羅しなくてはならず、大変な作業となってしまった。賢明なる読者は容易にその結果を想像できよう。

最後になったが、中期研究のテーマにした「包摂共生教育」は inclusive education の嶺井訳である。文部科学省は最近、これを「包容する教育」と訳している。

イタリアの中学校・左に障害のある生徒

アメリカにおける青年期的アイデンティティ模索と心理療法

経済学部　講師　角田　真紀子

はじめに

私は、専修大学平成 24 年度相馬学術奨励基金海外研究員として、平成 25 年 3 月 29 日より平成 26 年 3 月 30 日までニューヨーク市立大学シティカレッジ（CCNY）大学院臨床心理学専攻博士課程において、臨床心理学、特に統合的心理療法がご専門の博士ポール・ワクテル教授のもと、アメリカにおける心理療法の動向に関する研究を行わせていただきました。24 年秋に NY を直撃した台風サンディの影響で様々な連絡が取れなくなり一時は渡航不能かと思いましたが、関係各位の迅速な対応のおかげで無事にビザが下りたのは渡米 3 週間前でした。まずは、このような機会をいただいたことと、すべての日程を終えて帰国することができたことを皆様に感謝します。

アメリカと私

アメリカはもともと良く訪れる国です。アメリカ全土も車で 4 周ほど回っています。ニューヨークは 20 代中～後半に良く来ていた街ですが、最近は専らロサンゼルスから入って中西部を廻り、ただひたすら変わらない景色のフリーウェイを走って赤い大地を無心で歩くことが好きでした。

そもそも私が初めてアメリカというか海外に出たのは学生時代に遡ります。2 年次に、専修大学の夏期短期語学研修で当時提携校であったイリノイ大学を訪れ、広さと自由さに圧倒されたのが最初の印象です。先生達はそれぞれのクラスの始まりに教卓に座って自己紹介を始め、そのまま授業をしました。自分達で変わったあだ名をつける課題が出され、配られるレジュメの色はショッキングピンクや紫で、時には芝生の上で授業をするなど、あらゆることが驚きの連続でした。ルールやマナー、モラルといった「常識」と思われることは文化や社会に依存しており、自分がいかに日本のことを知らないかを知りました。その鮮烈な印象のある当時から今まで、私はアメリカの社会や人々が「青年期的」であると思っています。

秋の CCNY

冬の CCNY

青年期的性格を持つアメリカ

E.H.エリクソンによると、青年期の発達課題はアイデンティティの確立であり、そのためには仲間関係が大切です。アメリカの成立は日本や他の国と比較しても、歴史的に浅いと言えます。そのためなのかは分かりませんが、色々なことが青年期的であるように感じられます。ただ、これも日本の「常識」に比してのことであるため、彼らからすれば日本のほうがもっと青年期的であると考えるかもしれないし、それよりもまず私の個人的見解であることを先に断っておきます。

例として挙げるとすれば、彼らが日本人に比べて自己主張が強いのは周知の事実ですが、その強さが半端ないことです。自分がどんな人間であるかを、彼らはまず外見で主張します。日本人は流行りに合わせて洋服を着る人が多く、特に服でアイデンティティを主張するということまで考える人は少ないような気がしますが、例えば誰かや何かの T シャツを着ているとアメリカ人は当然それを着ている人はその誰かや何かを好きだと考えます。仮に意味なく着ているとすると、そのことを理解しません。確かにアメリカでは服装によって趣味嗜好や社会的地位がはっきり分かるような印象があります。もちろん着たい服を着る、というのが一番で、60 代の女性でもミニのキャミソールワンピースを着ていたり、気に入った服は本当に穴のあくまで、というか穴が開いても着ていたりしますが、いずれにしても外見は彼らのアイデンティティを良く表しています。

外見はもちろんのこと、アイデンティティにかかわるすべての主張には努力を惜しみません。日本でも自分の意見を言いコミュニケーションが取れるようにという教育が重視されていますが、その教育方法はまったく違うように思います。例えばアメリカでは、幼児でも「誰が大統領としてふさわしいか」ということについて自分なりに調べて意見を発表したり、自分自身や家族のことなどについて表現する時間が設けられます。自分の権利を主張する場面も多々あります。年齢に限らず、人種や性別など大きなくくりから小さなことまで皆いつも議論しているので、本人達に「議論している」という感覚はあまりないようです。正直怒っているように見えますが、聞くと「ただ思ったことを言っただけ」で皆けろっとしています。そのため、逆に黙っていると「存

在していない」とみなされます。挨拶の仕方やチップひとつにしてもそうですが、すべての行動に自分の意志決定と主張が必要な感じがあります。

アメリカにおける心理療法

このように自己主張をいちいち必要とするアメリカでは、その主張のもととなる自己あるいは自我について考える機会は重要で、だからということでもないのでしょうが、アメリカでは心理療法はとても身近な存在です。テレビドラマでは心理療法を受けるシーンがたびたび登場し、日常会話でも良く耳にするし、実際に皆良く受けています。アメリカと日本でクライエントが持ち込む問題はかなり違います。もともと移民の国であることに関わる人種や宗教、異文化の問題に加え、薬物、DV（Domestic Violence、パートナー間の暴力）、性、LGBT（Lesbian Gay Bisexual Transgender、性的少数者）、離婚、貧困などの問題がアメリカでは一般的に話されているようです。一方でセラピスト自身も移民であったり自分自身がLGBTであったりするし、文化の違いを抱えながらクライエントに向かい合っています。そのため、誰もが「自分のアイデンティティを考えざるを得ない」という状況にあるとも言えます。

自由の女神

ちなみに日本では心理療法を心理療法としてひとくくりにすることが多いのですが、アメリカの心理療法は非常に細分化されています。臨床心理士の他に、カウンセラー、それも家族、結婚、学校、学習、職業、ガイダンスなどの対象・内容別カウンセラーがいる他、ソーシャルワーカーや心理学者、催眠療法士、精神科医などが相談を受けます。さらに問題別の自助グループなどもあります。

アメリカの心理療法の学習で大切にされていること

私はアメリカの臨床心理士資格を持っていないため、アメリカで心理療法を行うことができませんでした。教員でもなかったので、おかげで「私は何者か」というアイデンティティを問うこととなりました。そのことを考えつつ受けた大学院での演習では、心理療法を行う上で、あるいは心理臨床家としての学習を進めていく上で大切にされていると思ったことがいくつかありました。紙面の関係で3つ挙げます。

まずロールプレイです。学生は自分の体験をもとに仲間とロールプレイを展開し、セラピストとして、またはクライエントとして演じながら気づきを得ていきます。もともと役割演技は幼児期から行われている遊びですが、ロールプレイとして行い検討することで、学生はケースを追体験しながら理解を深め、実践に近い練習ができ、実践力を養いつつ臨床家としてのアイデンティティも確立していきます。ロールプレイの雰囲気は非常に青年期的で、わくわく感をともなったり涙を流したり色々なドラマが展開されます。日本の教職課程でも4年次後期に「教職実践演習」が配置され、そこではロールプレイが推奨されています。これは、昨今の教育現場における問題を理解し対応する力の養成に非常に役立つだけでなく、教員としてのアイデンティティの確立にも効果的だと思います。

次に「空間」への考慮が挙げられます。心理療法の場において心理的空間をどのように作るかということはとても大切ですが、私は、アメリカでは前に出ることによって空間を作り、日本では一歩後ろに下がることによって空間を作るというイメージを得ました。日常場面でもこの印象があります。

そして「プレイフルネス」（遊び心、面白い、楽しい感じ）についてです。日本の場合、たいていのセラピストは真面目です。真面目であること自体は良いのですが、プレイフルネスがないと心理療法の場に空間が生まれず、クライエントのみならずセラピストの自由度や面接全体の自由度も下がります。日本でプレイフルネスについて取り上げられることはほとんどないのですが、とても重要な視点です。このプレイフルネスを活用するためには、大人の部分を持ちつつ子どもの部分を発揮するという青年期的心性が必要になるかと思います。

おわりに

心理臨床家は、実際のケースや体験を理論と照らし合わせながら、セラピストとしてのアイデンティティとスキルを磨いていきます。そのため、どんなセラピストでありどんな仕事をするのかというアイデンティティを考え続けるのはとても重要です。今回の在外研究では、アメリカという、社会全体がアイデンティティを考え発信し続けている場所に身をおいたことで私はあらゆることに対してさまざまな刺激を受け、自分のアイデンティティを再考しました。あらためてアメリカは、青年期的な面白さ大変さ激しさを持った国だと思います。重ねてお礼を申し上げます。ありがとうございました。

教　師　修　行　ー学び続ける教師にー

文学部　特任教授　神山　安弘

１．教師への道

黄ばんだＢ５半分の小さな専修大学のレポート用紙があります。40 年以上も私の手元にあり、今も大切にしているものです。

このレポートは、専修大学の教職課程「社会科教育法」の講義で、課題であった『山びこ学校』を読んだ感想に、講義を担当されていた斎藤秋男先生がコメントを書いてくれたものです。

斎藤秋男先生は、中国の近現代の教育史をご専門とされ、「教育」について様々な角度からご指導をいただきました。また、『山びこ学校』は、中学校の社会科教師であった無着成恭氏が、1951 年に山形県山元中学校での実践をまとめた著作であり、戦後教育実践の金字塔といわれた作品です。

このレポート用紙には、私が書いた感想の「現実の生活と社会科学習」と「教師の限界」の部分に斎藤先生が赤鉛筆で下線を引き、『さらに深く、深く、考えよう』とコメントが書かれています。この「深く、深く」の言葉が、その後、「教育」への関心や「社会科教育」を学ぶ意欲を高める大切な言葉になりました。

大学３・４年の東洋史ゼミでは、「中国の近代史」を学ぶ中で、野原四郎先生、斎藤秋男先生の指導を受け、卒業論文は北京大学初代総長で著名な教育者である「蔡元倍」をテーマとしました。

教育者「蔡元倍」を通して、「中国の近代化」における教育の役割について学ぶことができ、改めて「教育」や「教師の可能性」について学び、生涯の職業として教師の道を選ぶことを決めました。

２．教師として生きる

いつの時代でも、学校は時代の変化とともに、教育改革の流れの中にあります。特に、近年は公立学校の目的や役割が根幹から問われる改革、国際社会で生きるための学力に関する課題、教師が子どもに向き合うための時間が困難になるという多忙感の課題等、様々な問題もあります。

また、子どもの変化も著しく、いじめ・不登校の問題、規範意識の低下、自尊感情・自己肯定感をもてない実態等、教師をとりまく環境は良好とはいえません。

しかし、このような学校環境の変化の中で、どの職場においても私が教師として大切にしてきたことが三点あります。

一つは、「原点」の確認です。『なんのため』に教師になったのかという原点を確かめながら前に進んできました。二つは、「情熱」です。目指す教師の姿を求め続ける情熱を大切にしてきました。三つは、「学び続ける」ことです。教師としての専門性や人間力を高める努力をしたことです。

その一つ一つが、教師になる道のりであり、教師であり続けるための確かな一歩一歩であったと思います。

学生時代に心に刻んだ「教師」という生き方。その教師の可能性を信じ、なりたい自分を探し、求め続けた教師の道。そして、多くの人と出会い、鍛えられ、磨かれ、励まされ、支えられ、歩んでき日々であったと思います。

３．教師の魅力

すべての子どもは、人生でその子にしかできないことがあり、それを自覚できた時、子どもの可能性の芽は、無限に伸びていきます。教師はその子どもの後押しをする仕事だと思います。

子どもに専門的な知識を伝える「文化の継承」だけでなく、人間と人間との心の触れ合いの中で人間としての生き方をともに考える人間の「生き方を創造」する仕事だとも言えます。

授業や部活動など、学校生活の様々な場面でのかかわりを通して、子どもの可能性を見つけ、信じ抜き、その可能性を子どもに気づかせ、自信をもち生きていくことの大切さを、実感させる根気のいる仕事といえます。

その意味で、教師は一人の人間の

専修大学「東洋史ゼミ」野原教授を囲んで

校長時代「子どもたちとの会食」

生涯にかかわる「生き方」に、大きな影響を与えるやり甲斐のある仕事なのです。

４．教師修行のなかで

教師として、多くの壁に直面しながら、迷い、悩み、歩み続けた教師人生。そして、「学び続ける教師」だけが「教師になれる」ことに気づき、そこから学んだことがあります。

一つは、『志』と『情熱』です。教師にとって『志』とは、教師としての「夢」であり「目標」です。教師としての「使命感」の具体化です。そして『情熱』とは、自分が掲げた「志」を実現するための「やる気」であり「意欲」です。なりたい自分への強い使命感をもち続け、実現する力だと思います。

そのためには、教師として「複眼的思考」をもつことです。あるべき姿をイメージし、自分の状況を俯瞰して見る『鳥の目』、現実の自分の実態を観察・分析・判断して見る『蟻の目』、時代や社会の変化、動向を受け止め客観的に見る『魚の目』、が大切だと思います。

そして、その時々の目標を達成する生き方として、教師として、「今の自分でいかに仕事するのか、将来どのような自分を目指すのか、そのために何が足らず、何がどれくらい必要で、どのくらい時間がかかるのか」という、問題意識をもつことだと思います。

二つは、『選択』と『集中』です。教師が行う「選択」とは、自分のキャリア形成を短期・中期・長期の優先順序を考え価値判断ができる力であり、課題に対する緊急性や重要性から何を「選択」するかを判断できる力だと思います。

そして『集中』です。目前の課題を明確にし、解決のためにエネルギーを「集中」させることで、充実した教育活動を展開することができます。

そのためには、教師としての基本を確実に習得し続けることです。まず基本の「型」を徹底して極めることです。そして、極めたその「型」を破り、新しい自分を創る挑戦が大切だと思います。この「型」を極め、「型」を破ることの繰り返しが「学び続ける教師」だと思います。

具体的に仕事を行う上で心がけた姿勢は、「シンプル」「シャープ」「スピード」です。課題をシンプルに焦点化する力。焦点化された課題をシャープに捉え、本質を見抜く力。そして、スピードを重視した対応する力だと思います。

三つは、『智』の管理と『情』の管理です。教師にとって「智」の管理とは、法的根拠や原理・原則に精通して職務を遂行することです。教師には様々な服務義務だけでなく、社会的な信用も重要になります。自分を律することができる「智」の管理です。

そして、『情』の管理です。教師の仕事は「同僚性」が強い職業です。それは、学校は教師集団が組織として子どもを育てる協働の場であるからです。教師は互いに人間としての信頼関係を構築することが仕事の前提になります。そのために、「傾聴」や「共感」などを大切にした、人間理解に基づく対話力を身につけ信頼関係を構築することです。そして、互いの個性や特性を理解し、ともに教師力を高め合うことだと思います。

５．結びに

このように教師として幾つかのことを学んできましたが、学生時代にいただいた「教師の限界」を『深く、深く、考えよう』の言葉を読み返すとき、私の「教師修行」は、まだまだ遠い道のりだと感じ、今も「教師」になる歩みを続けています。

最後に、指揮者である小林研一郎氏が自らの苦難の人生を振り返り書かれた「未来を生きる君へ」というメッセージの一部を紹介し、「教師」を目指し、「教師」になる、皆さんへの贈る言葉とさせていただきます。

『夢は見るもの、見続けるもの。そして、いつかは叶うもの』。

どんな苦難も夢を手繰り寄せるために用意された試練にすぎないのだから。

教 職 課 程

卒業生から（国語）
ー教師を目指す方々へー

私立専修大学附属高等学校　非常勤講師　中村　明日香（平成25年度文学部日本文学文化学科卒業）

私は今、専修大学附属高等学校で非常勤講師をしています。まだ教師になって一年目ですが、この短い期間の中でも学んだことはたくさんありました。

その中でも特に大切だと思ったことは、「チャレンジ精神」と「時には生徒に任せる」ということです。教師は常にチャレンジをしていくことになると私は思っています。これから学ぶことも多い新人の時期は特にそうだと思います。実際、私もまだなかなか自分に合った授業スタイルが見つからず、板書の仕方を変えてみたり、生徒がただ聞いているだけにならないようにワークシートを作ってみたり、とにかく試せることは試してみることにしています。しかし、チャレンジをするということは未知の世界へ足を踏み入れることでもあるので、上手くいかなかったらどうしようという不安もついてきます。特に、たとえ新人であっても生徒にとっては「先生」であり、完璧にやらなければならないという責任感もあって余計に不安になることがあります。最初は特にそう思いがちで、生徒の反応が気になったり、一度の失敗で落ち込んでしまったりすることが多くありました。しかし、経験を積んでいく中で、失敗したとしてもそれにどう対処しどう今後に活かすかどうかが大切であると思えるようになった今では、気持ちを楽にして新しいことに挑めるようになってきました。また、自分の成長が生徒の役に立つとも思うようになりました。教師も生徒と一緒に成長していくことの大切さが身に染みた瞬間でした。だから、これから教師になる方々には失敗を恐れずチャレンジ精神をもって経験を積んでいってほしいと思っています。また、授業ではわかりやすい説明をしなければならず、答えを導いてあげなければならないと思うと、すべて教師が説明してあげなければならないと思いがちですが、時には生徒の発言や考え方に任せることも必要であると私は感じました。教師が思っている以上に生徒は授業でやったことに関して自分なりに考えているのだと、教師になってから思うようになりました。例えば、国語でいうと物語を扱えば、登場人物の人物像を文章から読みとって教師がもともと用意していた答え以外のものも発言してくれることがあります。そうすると、生徒だけでなく教師の世界も広がるので授業が双方にとって楽しくなるだけでなく、これからの学習の役に立つことにもなります。しかし、やはり生徒に任せるというのも難しいことではあります。十分に生徒とのコミュニケーションがとれていない、または信頼がえられていない時期にやるのは不安なことであると思います。授業をしていく中で、発問で生徒とコミュニケーションを取ることや、休み時間で交流をとるなど、教師から生徒に近づいていき、信頼をえていくことが大切です。

私は、生徒に道をしいてあげるというより、一歩進むためのきっかけ作りをして背中を押してあげるのが教師の役割であると考えています。その役割を果たすためには、教師がチャレンジ精神をもって日々努力を忘れないことや、教師がなんでもやってあげるのではなく生徒の力に任せることも必要だと思っています。これは教師をやってみてわかったことです。実際に教師になってみないとわからないことはこれからもたくさんあると思います。非常勤講師は授業しかやりませんが、だからといって生徒との関わりがないというわけではありません。自分から歩み寄ろうとすれば生徒も段々交流してくれるようになりますし、より生徒のためになるようなことがしたいと思うようになりました。教師になる前にやれることも、教師になってからやれることもたくさんあるので、教師を志望する方々には、やれることはとにかくやってほしいと思います。

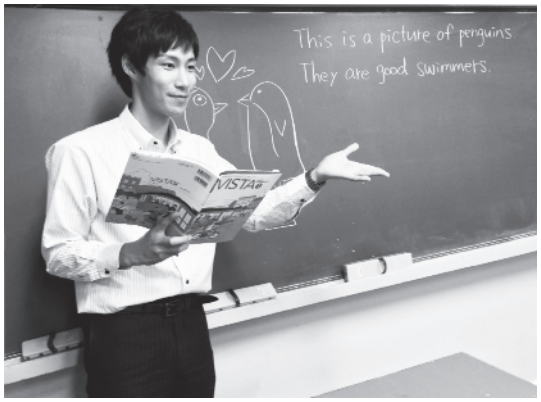
卒業生から（英語）

神奈川県立小田原城北工業高等学校　教諭　**吉野　慶太**（平成22年度文学研究科英語英米文学専攻修了）

私は、神奈川県の公立高校に外国語科（英語科）の教員として勤務しております。臨時的任用職員であった期間も含めると、学校現場も４年目になりました。現在は、クラス担任や部活動の代表顧問を任せていただき、教員の仕事に今まで感じていた以上のやりがいを感じています。日々の忙しさに埋没する毎日ではありますが、様々な方々からの支えの中で、充実した毎日を過ごしています。今回は私が日頃、教員として考えていることについて綴らせていただき、教職を志望する方々に何かしらのメッセージを受け取っていただければ幸いです。

教員の仕事は様々ですが、中心となるものはやはり教科教育、つまり授業であると思います。前述の通り私は英語科を担当しているのですが、振り返ってみると、これまでに出会った生徒たちの大半が英語に対する苦手意識を持っていました。毎年、自分が受け持つクラスの初回授業で行うことにしている授業前アンケートでは、英語学習に対する否定的な回答が大半を占めています。中には授業に取り組もうとしない生徒がいることもあり、何とかして生徒たちの英語に対する苦手意識を減らそう、また、授業に参加させようと試行錯誤をしています。教材研究を入念に行い、生徒の関心を引き付けようと授業を行うのはもちろんですが、時には授業を中断し、生徒との対話を取り入れることにしています。その際は自分が一方的に話をするのではなく、生徒の話に耳を傾けるようにしています。そのようにしてゆっくりと時間をかけて生徒との信頼関係を結び、最終的に「また先生の授業が受けたい」、「英語が好きになった」などの言葉を聞けたときは心から嬉しく思い、それまでにかけた時間や労力が報われた気持ちになれ、更に精進をしようという意欲が湧いてきます。

教科教育以外にも、クラス運営や部活動等、生徒を指導する機会は様々です。クラス運営では、担任として生徒ひとりひとりの個性を尊重しつつ、生徒の自己実現への支援をすることを心がけています。生徒理解のために授業時間だけではなく、ホームルームや休み時間、掃除の時間等を使って、なるべく多くの生徒とコミュニケーションを取るようにしています。また、様々な事情を抱える生徒もいるため、各教科担当者や保護者との連携をして、生徒ひとりひとりがより良く学ぶことが出来るように環境を整えていくことも大切にしています。



また、部活動では野球部を担当しています。この秋から監督を任されることとなり、生徒と共にチームを作っていくことの喜びを日々感じています。部活動においても授業やクラス運営の時と同じように、生徒ひとりひとりとの対話を通してコミュニケーションを取り、人間的な成長を促すことを意識しています。もちろん、勝敗がある競技ですので勝利を目指して日々の練習に取り組むのですが、技術的な指導だけではなく、目標へ向かって努力すること、仲間との協力、挨拶、礼儀、マナーや言葉遣い等、社会に出た時に必要なことを身に着けさせることも心がけています。時には厳しい指導が必要な場面もありますが、部活動で身に着けたことが必ず将来役に立つと生徒たちに繰り返し説いています。

教員という職業の魅力は、自分が生徒の自己実現のきっかけになり得ることや、生徒の笑顔や一言で苦労が報われるということが挙げられます。決して楽しいことばかりではなく、忙しさや困難な問題に挫けそうになることもあるのですが、生徒が笑顔でくれる「ありがとう」の言葉が全てを洗い流してくれます。何よりも、未来の主役である生徒たちと出会い、共に笑い、共に泣き、お互いに成長していくことが出来る毎日を送ることが出来る素晴らしい職業です。次はどんな出会いがあるのかと思うと楽しみでなりません。教員を目指している皆さんと同僚として出会い、この気持ちを分かち合うことが出来る日を心待ちにしています。

卒業生から（社会）
次代を担う子どもたちを育成するために

宇都宮市教育委員会　副主幹・管理主事　**麦倉　克英**（平成元年度法学部法律学科卒業）

1　はじめに

講師経験を含め約 15 年間の小、中学校教員生活を経て、現在は管理主事として教職員の人事、服務監督、評価、学級編制等の業務をしています。なかでも最近は、主に教職員の不祥事、メンタルヘルス、研修派遣などを担当しています。特に不祥事の中でも体罰は、学校教育法第 11 条によって禁止されていますが根絶しないのが実情であり、平成 24 年 12 月、大阪市の高等学校での部活動における体罰事件は記憶に新しいところです。また、文部科学省は平成 27 年 1 月 30 日、平成 25 年度に体罰で懲戒や訓告などの処分を受けた公立学校の教員が過去最高の 3,953 人に上ったと発表しました。そこで本稿では、本市で体罰防止策に取り組む担当の立場から、教員を志望する方が身に付けてほしい力について述べたいと思います。

職場風景（手前が筆者）

2　過去 10 年間（H15～H24）にみる本市の傾向

どこの教育委員会でも体罰を防止することは喫緊の課題です。平成 25 年に担当として体罰防止研修資料を作成しました。過去の事例を分析してみると、体罰をしたのは男性のベテランが多く、感情的になった結果、平手で叩くケースが多い傾向にありました。もう少し具体的にみると、校種別では約 7 割が中学校教員です。発生月別にみると、10 月、6 月、5 月が多い傾向にありました。これは、児童生徒指導上問題が多く起きてくる時期と一致し、部活動においては、大会と関係しているケースが複数ありました。体罰に至った理由の約 4 割は、行為自体が「体罰だとは思っていなかった」、「人間関係ができているので許されると思った」など、誤った認識を持っていることが分かりました。

3　体罰を起こす要因

そこで、管理職、PTA 代表者、人権擁護委員、臨床心理士などと共に体罰の発生要因を検討したところ、個人的要因と環境的要因によると考えました。前者は、人権感覚の欠如を基底として体罰に対する認識不足、指導力不足への不安、慣れやおごりからくる独善的な指導法、期待に反する子どもに直面した際の感情抑制の欠如などです。後者は、学校組織上の問題として、力に頼る指導体制、部活動における勝利至上主義、同僚への遠慮、危機意識の欠如などが挙げられます。そして、保護者、地域社会を含めた体罰容認の意識が少なからず見られることも課題の一つです。

4　身に付けたい資質・能力

体罰を含め不祥事を未然に防止するためには、教職員が互いにコミュニケーションを図りながら、一人で問題を抱え込まないような体制づくり、問題を複数で解決していくチームづくり、抱えている悩みや不安を相談できる環境づくりなどが必要です。これらは、学校の管理職や教育委員会の責任が大きいと考えられます。また、自身の授業力の向上、課題や悩みを抱えた子どもへの指導、支援や保護者対応などのノウハウは、課題意識があれば経験とともに身に付くことでしょう。そこで、日々の学校教育活動に情熱をもって取り組むために、セルフマネジメント力を有することが重要な鍵だと考えます。心掛けたいことは次の 3 点です。第 1 に人の話をよく聞くことです。子どもたちを指導するには自分の主張をしっかり伝えることも必要ですが、一人一人の話を真剣に聞いて、相手を理解することが大切です。学級・学年を経営するリーダーには聞き上手であることが求められます。第 2 に情報はできるだけ公開することです。ベテランでも小さな悩みを抱えながら職務に当たっています。課題は一人で抱え込むことなく、組織的に対応して早期に解決することが大切です。第 3 は冷静な気持ちで接すること、セルフコントロールと言ってもよいでしょう。相手は常に自分の期待どおりの言動をするとは限りません。何事も感情的にならないで対応することが肝要です。これが一番難しいかもしれませんが、訓練次第です。

体罰防止研修資料（平成25年12月に筆者が作成し、市内公立学校へ配布したもの）

ぜひ、今だからこそ価値観が違う多様な人と関わり、研鑽を積んでください。そして、気概のある教員として活躍することを願っています。

教員としての仕事

伊勢崎市立あずま小学校　教諭　**吉田　友里**（平成23年度法学部政治学科卒業）

私は今年の３月に群馬大学の大学院を修了し、４月から小学校教諭として働いています。現在２年生の担任をしており、全力で子どもと向き合う毎日を過ごしています。教員になりたての私ですが、今回、教員を目指す方々へ少しでも教員の仕事や職責についてお話できたらいいなと思います。

小学校教員を目指したわけ

私が初めて教員になりたい！と思ったのは、小学校３年生の時でした。３年生の時の先生は子ども一人ひとりをみてくれて、その子らしさを大切にしてくださる先生でした。子どもながらに自分の存在価値や生き方について悩んでいた私は、その先生によって夢を持ち、頑張り続けることを決意できたと感じています。「私も先生のように誰かのためになりたい」と考えたことがきっかけでした。それから専修大学に進学することが決まり、中学校か高等学校の教員になろうと思っていましたが、蔭山教授との出逢いで大きく変わりました。ゼミや授業で蔭山教授から小学校段階で人間としての基礎・基本を身に着けることが重要となること、また、社会に生きていく中で個人がよりよい社会の形成者となるための素地を小学校段階でつくるべきだということを学びました。そこで、やはり小学校の先生になりたいと思うようになりました。

小学校教員になるために

専修大学では教職課程の履修でしか教育学を学んでいなかったので、教育についてもっと学びたいという気持ちと、小学校免許を取得したいと思い群馬大学の大学院に進学しました。大学院で教育学と社会科とを深く学び、研究を進めていく中で、以前にも増して小学校の教員になりたいという気持ちが強くなりました。しかし、地方の教員採用試験はなかなか受からないという蔭山教授からのお言葉を思い出し、不安を抱えながらも受験勉強を研究の合間に行いました。小学校の実習も行っていない時期に教員採用試験を受験することは、わからないことだらけでしたが、今までお世話になった教育に携わるお仕事をしている方々に話を聞いたり、文献で小学校の教育について調べたり、自分で出来る限りのことをしました。その結果、大学院修了と同時に小学校教員としてのスタートを切ることができました。

小学校の先生のお仕事

念願叶っての小学校の先生になることができました。しかし、それはもう想像とはまるで違うものでした。私は教育実習でしか現場を知らなかったのです。そのため、教員の仕事量の多さ・勤務時間外での教材研究・いつでも教員としての行動を求められること…など職責の重さに押しつぶされそうになったこともありました。自分が教員にならなければわからない仕事がたくさんあります。勤務時間が過ぎても教室や職員室で仕事をし、帰宅しても授業準備をし、休日出勤だって…。義務付けられているわけではありませんが、「もっと子どもにわかりやすい授業をするにはどうすればいいのか」「もっとこの子たちのために何かできるのではないか」と考えるとキリがないのです。勤め始めた頃は自分の中で仕事とプライベートの区切りがつけられずに、プライベートはほぼ無い状態でした。「これが一生続くのかな…」と思い悩むことも多々ありました。ここに書ききれない程の毎日です。

でもやっぱり教員を続けたい！

教員の仕事についてマイナスイメージを持ち始めていました。しかし、私が甘かったのです。なぜなら、教員という仕事は未来を担う社会の形成者を育てる仕事です。生半可な気持ちでは務まるはずがありません。「私が悩んでいることで、目の前の子どもたちの成長の機会を奪ってしまってはいけない、私が成長を手助けする役割なのだ！」と、教員になろうと思ったきっかけを思い出し、前向きに仕事ができるようになりました。

こう思うようになれたのも、やはり周りにいる方々のおかげでした。職責の重さに押しつぶされそうになったとき、いつも話を聞いてくださり、私には見えない方向から意見をくれる恩師や同僚、友人がいてくれました。その多くは専修大学の時に関係を築いた人でした。専修大学には全国各地からさまざまな人がいろいろな思いを持って進学してきます。だから、そんな素晴らしい環境にいるみなさん、今を大切にしてください。たくさんの人とかかわって、視野を広げてください、考え方を豊かにしてください。それができるのが専修大学です。大学生の時に培った視野の広さや考え方の豊かさは、教員になったときに子どもを救う手立てになります。人間として大きくふとることが、教員として大切なことだと感じています。

最後になりますが、教員という仕事は正直申し上げて過酷です。追求しようと思えば思うほど，終わりがみえません。でも，目の前にいる子どもの笑顔をみるだけで「やってよかった」と思えます。どうか自身が熱い思いと確かな信念を持ち続けてください。同じ仲間として働ける日を楽しみにしています。

教員採用試験体験記

文学部日本文学文化学科4年　齋藤　若菜

１．はじめに

平成 27 年度採用予定の横浜市・愛知県公立学校教員採用試験（平成 26 年実施）に合格することができました。春から、横浜市の中学校で国語科の教員として教壇に立たせていただくことができそうです。小学校の卒業スピーチで「先生になりたい」と発表してからちょうど 10 年、夢を叶えられたのは諸先生方のご支援のたまものと深く感謝しております。大学 2 年の冬までは、教員以外の進路を考えたこともありませんでした。しかし留学やボランティア等さまざまなことに挑戦する中で、「目標を達成したいだけなのではないか…」と悩み、就職活動という回り道をしました。それでもこうして合格を勝ち取れた経験が、少しでもお役に立てばと思いこのたび筆を執らせていただきます。

教育実習での生徒からのプレゼントのひとつ

２．一次試験

私が、教員採用試験の受験を決めたのは教育実習直前の 5 月中旬でした。就職活動を終え一息ついているところに、採用試験説明会の知らせが舞い込んできたことがきっかけです。6 月に教育実習、7 月中旬に横浜市の一次試験、7 月下旬に愛知県の一次試験と立て続けのスケジュールでしたので、私が試験勉強をした期間は３週間足らずでした。実習を終えて、「今年はダメで元々。来年以降も頑張る覚悟で試験に臨もう」と決意したのを覚えています。それくらい、試験勉強のスタートは周りに比べて遅く、合格の“ご”の字も見えませんでした。それでも一次を通過できた理由は、4 年間続けてきた塾講師のアルバイトと教育新聞だと思っています。一次の一般教養は中学・高校レベルの学力試験であったため、普段から塾で教えている私にとってはさほど難しく感じませんでした。そこで、短期間集中して取り組んだのは教職教養の勉強です。教育法規の暗記が苦手だという自覚があったため、2 冊の参考書を 2 周ずつ解きました。また、教育新聞を購読することで、教育時事問題もカバーすることができました。過去問から、自治体特有の教育施策が出題されやすいこともわかっていたので、それぞれの自治体の教育施策の記事をスクラップしておきました。愛知県は一次から面接がありましたが、何も対策せずに臨みました。臨時任用者との答え方の差を目の当たりにして後悔したことを覚えています。

３．二次試験

二次試験対策としては、特別な勉強もせず「想いを伝える準備」のみ行いました。集団/個人面接・集団討議・模擬授業・場面指導・論作文…すべてにおいて、自分の伝えたい軸がぶれないように結論を一つだけ準備しておき、どんな質問・論題が出ても最終的にその結論に結び付けられるようにしたかったのです。面接や集団討議は、就職活動で何十回も経験していたため緊張もせずに話せました。愛知県の二次で感触を掴めたことで、横浜市の二次ではさらに自信をもってお話することができました。ダブル受験してよかったと思っています。心配していた模擬授業では、“教える内容・技術”ではなく、“笑顔を引き出す楽しい授業づくり”を意識し、乗り切ることができました。個人面接では、ただただ熱い想いをぶつけました。場面指導は、練習のしようもないので、実習のときに先生方の対応や生徒の様子をしっかり見ておくことが最善の策だと思います。

ニュージーランド一人旅にて

４．おわりに

最後に、これから採用試験に臨む皆さんに私が伝えたいことは、『“勉強＝試験対策”だと決めつけず、様々な経験をして引き出しを増やしておくことの大切さ』です。私は試験官や臨時任用者の方々を前に、新卒だからといって物怖じすることはありませんでした。それは、大学４年間で自分の“やりたいことリスト”にとことん挑戦し続けた経験が、自分の語ることへの自信につながっているからだと自負しています。だから是非、無駄に見えるようなこともたくさん経験して、それらを夢の実現につなげていってください。私自身も、厳しい教育現場のなかで新たな“やりたいことリスト”をつくり挑戦し続けていきたいと思っています。

教員採用試験体験記

文学部英語英米文学科4年　吉田　清香

１．はじめに

合格発表当日、「どうして今日ゼミナールと教職の授業があるのだろう。試験に落ちていたら合わせる顔がない…」と思いながらHPを開いたこと、自分の受験番号を見つけたときのこと、先生方や友人に良い報告ができたこと、そして「おめでとう」と言って喜んでくれた周りの人の表情、この日のことは今でも鮮明に覚えています。こうして私は平成26年度神奈川県教員採用試験に合格し、4月から教員として働かせていただくことになりました。これから記す私の体験談が少しでも多くの人の参考になれば幸いです。

２．一次試験

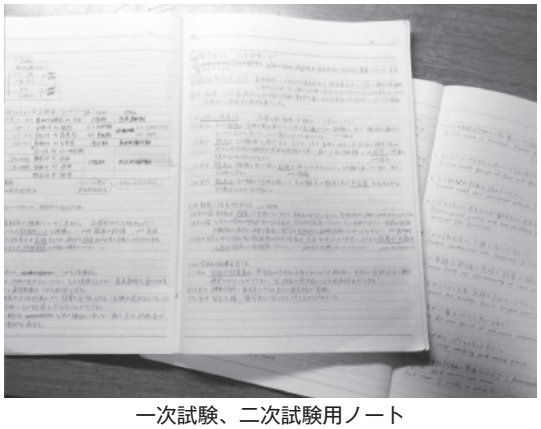
「一次試験の勉強を始めた時期は？」と聞かれると正直曖昧です。元々教員志望で大学に入学しましたが、大学１・２年生の頃は教職の授業や教職公開講座に参加する程度でした。大学３年生の４月に教員採用試験の過去問や参考書を購入し、勉強に身が入り始めたのは夏休み頃だと思います。最初は分野ごとに勉強をし、（例えば、一般教養なら国語、数学、理科、地歴公民など、教職教養なら教育原理、教育心理、教育法規など。もちろん専門科目の勉強も。）冬休み頃から過去問を解き始めました。それからは、過去問→間違えたところは参考書を見て理解→ノートにまとめる→また過去問という流れでした。とにかく過去問を何度も解きました。多くの人が口を揃えて言いますが、自分の受験する自治体の出題傾向を把握することは重要です。そして、一次試験は暗記事項が多いので、継続的に根気よく勉強する必要があります。早いうちから勉強をするに越したことはないようです。

３．二次試験

神奈川県の中学・高校英語の場合、二次試験は２日間に分かれています。１日目は模擬授業・集団討論・個人面接、２日目は実技試験（個人面接の英語版のようなもの）があります。二次試験に関しても方法は自治体によって様々なので、情報収集が必要不可欠です。（例えば模擬授業の場合、神奈川県は予めテーマが決まっており、それに基づいて試験当日までに授業の構成を考えたり指導案を作成したりします。しかし、試験当日に模擬授業のテーマを知らされて即興で授業をする自治体もあります。）対策としては、面接用のノートを作ったり、友達や就職課の人の力を借りて面接や模擬授業の練習をしたり、大学や東京アカデミーで行われる二次試験対策の講座に参加したりしました。家で一人面接・模擬授業もやっていました。（笑）二次試験の対策を本格的に始めたのは、一次試験の終了後、期間は１ヶ月弱でしたが、もっと早くからやっておくべきでした。一次試験と二次試験の対策はバランス良くやるべきです。そして、日々をどのように過ごしてきたかということも大切だと今になって思います。勉強はもちろん、大学生のうちに様々なことを経験し、豊かな人間性を育むことも重要だと私は考えます。

４．最後に

今振り返れば、試験前日は緊張でよく眠れませんでした。このような経験は初めてだったので、自分でも驚きでした。ところが当日は、「初めての教員採用試験だから今できることをやればいいや！」と吹っ切れていた気がします。このような姿勢でいられたことが逆に良かったのかもしれません。私は教職一本で就職活動をしていなかったので、12月頃から周りが忙しくなる様子や、早くから内定をもらっている人を見ると、「このままで大丈夫なのか。」と不安になることも多々ありました。しかし、家族や友人、教員を目指す仲間、陸上競技部の方々、大学の先生方などの支えがあったからこそ合格することができました。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。この恩を忘れずに、試行錯誤しながらも充実した教員生活を送れたらと思います。



一次試験、二次試験用ノート

教員採用試験体験記

文学部歴史学科4年　清水　耕太郎

・はじめに

私は中学校の頃から将来の夢は学校の先生になると決めていました。そして、平成 27 年度から横浜市の社会の教員として働くことが決まったときは本当に嬉しいかぎりでした。周りでは現役で教師になるのは難しいと言われていましたが、心の中では「絶対に合格してやる」という強い気持ちを持って臨みました。ここでは少しばかりですが、採用試験に向けてどのようなことを行ってきたかを紹介したいと思います。

・一次試験

私は大学内で行われている東京アカデミーの講座を２年生の時から受けていました。とにかく一次試験はどれだけやったかだと思ったのでひたすら勉強しました。ただやみくもに覚えるだけでは効率が悪いので自分が受ける横浜市の過去問をチェックして出題数が多い問題を徹底的に覚えるようにしました。例えば、教育史は一般教養と教職教養合わせて 50 問出題される内、１～２問です。逆に教育法規や教育心理は６～８問出題されるので、これらに時間を割きました。横浜市は一般教養と教職教養の他に専門教養もあり、その対策に一番苦労しました。特に苦手だったのが地理と世界史で最初は基礎基本から勉強しましたが、その後は難関大学受験用の詳しい参考書や問題集を使い勉強しました。こうして、毎日資料集や教科書を読みこむうちに知識が定着していき模試などでもいい結果が出せるようになり、自信につながっていきました。試験の直前まで教育実習があり３週間全く勉強ができない時期もありましたが、それまでに完成させる気持ちで２年間勉強してきたので、本番でも不安はなく、自分の持っているものすべてを出そうと思いこれに臨みました。さらに、横浜市では一次試験の時に論文試験が行われるので論文もたくさん書いて試験に備えました。私はどんな課題が出されてもいいように自分の型（論述スタイル）を決めておき、あとは課題に合わせて対応していくというやり方をとりました。

・二次試験

二次試験は校種によって日程が異なります。社会科は約一か月も期間があったので十分に準備ができました。横浜市の二次試験の評価方法は３つあります。個人面接（ロールプレイ含む）、模擬授業・集団面接、論文（一次試験で行う）があります。私は幸運なことに実習校の副校長先生や指導教官他の先生方にたくさんの面接練習をしていただきました。とても勉強になりました。また、私は学校ボランティアや集団授業の塾講師のアルバイトを一年間はやっていたので二次試験の対策はできていたと思います。模擬授業は急にやれと言われてもなかなか難しいと思うので塾のアルバイトなどして場になれることが必要だと感じました。面接でも学校現場の様子などが聞かれるのでボランティアの経験があると自分の実体験が話せるので説得力が増した受け答えになってくると思います。細かい話はここでは書ききれませんが、とにかく面接官に大きな声で元気に受け答えをしなければ受からないといわれてきたので試験では自分の答えに自信をもってはっきり答えられるように意識しました。

・さいごに

この合格を勝ち取るまでは長い戦いの連続でした。しかし、周りの友達や先生方や家族の支えがあったからこそ最後まで頑張れたと思っています。自分一人の力では合格できなかったと思います。応援してくださった人たちに心から感謝します。来年度から横浜市の教員として働きますが、頑張って掴んだ夢なので簡単にあきらめず仕事を全うしたいと思っています。子どもたちにもあきらめない大切さを教えたいと思います。

教員採用試験体験記

経営学部経営学科4年　丹保　歩子

この度、東京都公立学校教員採用試験（高校・情報）と石川県公立学校教員採用試験（中高・社会）に合格いたしました。大学入学時から教員を目指していたので、４年間の取り組みが実を結んだことに大きな喜びを感じています。体験記ということで、採用試験に向けての私なりの対策を記します。教職を志す方々の参考に少しでもなれば幸いです。

採用試験に合格するための近道は、教員としての資質を日頃から磨いておくことだと考えています。採用試験には筆記試験と面接や模擬授業等がありますが、筆記試験は、参考書や過去問題を駆使することで誰もがある程度の点数を取ることが可能です。一方で、面接等で評価される人間性、指導力や実践力等は一朝一夕では身に付けることが難しいものです。そこで、早期から現職の教員と積極的に交流し、知識や技術を吸収していきました。その際、「生徒との信頼関係を構築すること」が、全ての指導の根本であることを恩師から教えて頂き、これを自分の信念として面接でも訴えました。

地元のパレードに吹奏楽部部員と共に参加

また、東京都の場合、面接で場面指導に関する質問があるので、過去問題を見ながら「この場合はこの対応」というパターンを作っておくようにしました。特に、保護者対応に関しては教育委員会等がハンドブックを制作しているので一読しておくと勉強になります。なお、石川県の面接ではいじめや体罰、教育実習に関して問われました。教育実習で学んだことや修得できた成果があると採用試験時には心強いものです。私は実習でICT（Information and Communication Technology）を活用した授業を展開しました。授業中の生徒の反応や学習意欲に良い影響があり、この経験を小論文で生かすことができました。最近は、多くの自治体で小論文を出題しているので、学習意欲やいじめ問題などの昨今の教育課題に対する小論文対策として「自己有用感」、「自己存在感」、「自尊感情」等の概念を押さえ、論を組み立てました。

大学では学習指導案を書いたり模擬授業をしたりする機会があります。これらを通して今の自分に不足している専門性や指導力を確認し、改善していきました。限られた時間の中で効率よく勉強できるように、PDCA（Plan Do Check Action）を意識して取り組みました。

授業にしても、生徒指導にしても、生徒１人１人に応じた指導を行うために欠かせないことは、生徒理解を深めることだと言われたことがあります。目の前の生徒の性格や考え方、友人関係や家庭環境などを把握しておくことはもちろん、何に悩み躓いているのかを瞬時に見抜く能力が教員には必要です。多様な人が集まる大学はこの能力を磨くのにうってつけの場所です。

採用試験までの道のりを振り返ると、試験勉強が捗らなくて幾度もくじけそうになったことがありました。採用試験を終えて合格発表までの長い時間を過ごしている間、不安に苛まれることもありました。しかし、先生方の丁寧な指導や周囲の励ましに支えられてここまで辿り着くことができました。春から教壇に立つことを考えると期待と同時に不安もありますが、教員として生徒と関わっていくことがこれからの私の「生き方」になるのだと思うと本当に嬉しいです。これまでご指導ご鞭撻いただきました皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。

教育実習で貰った色紙

末筆ながら、教職を目指している皆さんが、その夢を実現されることを心から願っています。

教員採用試験体験記

平成20年度法学部法律学科卒業　森　優紀

はじめに

この度平成 27 年度の東京都公立学校教員採用候補者選考（小学校全科）に合格、また、小学校教員資格認定試験に合格し、4 月から教壇に立てることとなりました。

私の採用試験合格までの体験談を、あまり参考にならないかもしれませんが紹介させて頂きたいと思います。後輩の皆様の参考に少しでもなれば幸いです。

教員採用試験受験に至るまでの経緯

私は、大学進学時は教員になることを漠然と志望しており、具体的なことまでは考えていませんでした。また、取得できる免許が中学社会、高校地歴公民なので、中学か高校の社会科の教員になるのだろうと考え教職の授業を受けていました。

ある教職の授業で模擬授業をした際に、授業スタイルや教材の使い方から、小学校も考えてみたらどうか、と先生に言われました。その時に初めて小学校の教員という選択肢を視野に入れるようになり、改めてどのような教員になるのかということを考え始めました。

小学校という選択肢は出来たものの、取得予定の教員免許は中高のみ。また、部活指導等で中高生との関わりは持ててはいたものの、小学生と関わったことが少なかったので、まずは関わってみることから、と考え始めました。

そこで卒業後、公立小学校のアフタースクール（学童）と放課後子ども教室の指導員をやることにしました。私が勤めているところは同じ建物内に小学校と学童、その他施設があるので、子ども達と関わることが出来るとともに、先生方とも関わることができ、ほんの一部ではありますが学校現場を見ることが出来るので、小学校教員になることを決める大きな材料となりました。

新たに小学校の免許を取得する手段を検討していたところ、「教員資格認定試験」の存在を知りました。これは試験に合格すれば教員免許が取れるというもので、1 次試験の科目も採用試験と共通する部分があるため、同時に受験することを決めました。

試験対策について

採用試験の 1 次試験の準備は、教職教養を中心に取り組みました。過去問に取り組むことが一番ためになったと思います。何度も何度もやりました。過去問を解き、合っているか否か確認するだけに終始するのではなく、正答以外の選択肢にも注目します。東京都の場合は全問マークですから、選択肢の中に必ず答えがあるので、間違っている選択肢を探すような問題では、正答以外はすべて正しい文章となるので、それを書き出して覚えるということをしました。

また、何年分かやっていると、形は多少違えど必ずといっていいほど出題されている問題があること等が分かってきます。過去問が一番の直接的な対策だと思いました。時間がない時などはいきなりここから始めても良いと思ったくらいです。

専門（全科）の対策は全教科の学習指導要領解説を揃え、内容と目標を中心に覚えることと、過去問に取り組んだくらいでした。中学 3 年生の家庭教師もしているので、高校受験レベルと内容的には似通っていると感じました。

論文は過去に出題されたテーマについていくつか書き、添削していただきました。試験時間内に考えて書いて推敲してというのは難しいので、「こういう系の題目ではこれを書く」というようなパターンをいくつか用意しておくようにしました。

2 次試験は、正直 1 次試験に合格できると思っていなかったので対策は 1 次合格後から始めました。もっと早くから始めるべきだったと思います。

中学年の国語・算数・理科から 1 単元を設定した単元指導計画を作成し、予め要綱に提示してある 10 テーマから 1 テーマ指定されプレゼンテーションを行います。どのテーマでもプレゼンが出来る単元を選び、全テーマについてプレゼンを用意しました。プレゼン後は、同テーマについて集団での話し合いがあります。

個人面接の対策は過去に聞かれた項目をリストアップして回答を自分なりの言葉で書いてみて、そこからさらに掘り下げられたら…ということを書き出して準備し、実際に話すときには…というイメージトレーニングをしました。回答をする時には自分の経験を織り交ぜるとグッとリアルになると思います。

1 次 2 次通して必要だと感じたのは、日頃から教育時事に関心を持つことです。文科省 HP や受験する都道府県の教育委員会 HP などのチェックは必須です。

さいごに

私の場合は、認定試験と採用試験のダブル受験だったので、双方の試験対策が双方の試験対策になりました。振り返ると甘かった部分が多々ありますが、せっかく掴んだチャンスなのでこれから受験時より一層頑張っていこうと思います。

最後に、教員を目指すみなさん、こういう教師になるという具体的なビジョンを持つと試験への準備にもやる気が出ると思います。絶対になるという熱意があれば合格できるはずです。頑張ってください！

教育実習を終えて（国語）

田上町立田上中学校　文学部日本文学文化学科4年　**車谷　友花**

私は、5月19日から6月6日までの3週間、母校である、新潟県田上町立田上中学校で教育実習を行わせて頂きました。クラス指導は2年2組を、授業は2年1組、2組を担当させてもらいました。

目の前にあることをこなすのに精いっぱいで、あっという間に過ぎてしまった3週間でした。しかし、短い期間の中でも多くのことを学び、課題を見つけることができました。先生方、生徒たちをはじめ、支えてくださった皆様には、感謝の気持ちでいっぱいです。

授業を行って学んだことのひとつは、生徒の目線に立ち、彼らの意見や気づきを中心に進める授業づくりを心がけるということです。

私が、実習にあたって、最初の教壇実習のために考えた指導案は、生徒たちに対して「教える」ことを重視した、教員主導のものでした。しかし、その指導案を見た担当の先生から、生徒たち主導の「学び」の場である授業を行うべきである、というアドバイスを頂き、はっとしました。そのアドバイスから、私が本来行いたかったのは、国語を楽しく学び、生徒自身が思考し、考えを述べ合うことのできる授業であることを思い出しました。最初はなかなかうまくいきませんでしたが、生徒たちの意見が飛び交う活発な雰囲気の授業を行う努力ができたと思います。生徒たちの意見や気づきを中心に進んでいく授業を行うことによって、生徒たち自身で授業を作り上げ、学習目標を達成したという感覚、自己肯定感を養うことができます。教師とは「教える」だけではなく、生徒たちを解答へ「導く」存在であることが求められているのではないでしょうか。

また、目標を教員と生徒で共通認識し、生徒に振り返りを記載させたことで、授業改善に役立てることもできました。どのような目標を持ち、何を学ぶのかということを明確にすることが、授業を構成するうえで大切であると学びました。

もうひとつ学んだことは、生徒理解の重要性です。

前述したような授業を行うためには、生徒たちと教師の信頼関係を築きあげることが不可欠です。私が授業を担当した2クラスは、それぞれ雰囲気が全く違います。非常に積極的で発言が多いクラスと、なかなかこちらからの問いかけに答えてくれないクラスがありました。当初はその違いに非常に戸惑い、うまく授業を進めることができませんでした。しかし、授業内外で生徒たちとコミュニケーションを取り、共に学校生活を過ごしていくうちに、彼らに対してどのようアプローチをすれば問いかけに答えてくれるのかが分かってきました。生徒たちも次第に私に心を開いてくれるようになりました。やはり生徒たちの名前や特徴などを掴み、理解する努力をし、また自分のことも理解してもらえるように積極的に関わっていくことが、一番の近道だと思います。こういった努力は授業内外で生徒たちの反応となって現れてきます。

生徒指導においても、現場でしか学べないことが多々あります。特に生徒を叱るタイミングと、その方法について、悩む機会が多くありました。学校生活すべてが教育の場であり、正すべきことは、しっかりと正すという意思を持って、指導に当たらなければならないと強く感じました。

3週間という実習期間は、長いようで非常に短いです。みなさん、教材研究など、不安なことや心配なことがたくさんあると思います。しかしまずは、生徒たちと関わることのできる時間を楽しく過ごすことが大切です。それぞれ校種や地域によって生徒たちの状況は違いますが、彼らを理解し、どのようにすれば楽しくわかりやすい授業が行えるのかをたくさん考えてください。そして現場からたくさんの経験をし、新しい知識を吸収してください。

日頃の教職や専門教科の勉強の成果を生かし、皆さんの実習が充実したものになるように祈っています。

教育実習を終えて（英語）

さいたま市立指扇中学校　文学部英語英米文学科4年　菅野　真実

私は５月下旬から６月中旬にかけての３週間、母校であるさいたま市立指扇中学校で教育実習を行いました。実習科目は英語で、担当学級は１年４組でした。一日一日がとても充実しており、たくさんのことを学ぶことができた３週間でした。

実習生は私を含めて２人でした。もう一人は美術で実習を行いました。私たちはお互いに教員になりたいという思いが強く、生徒とのかかわり方などで悩んだときは放課後に相談し合い、よりよい実習生になるよう努めました。

私は教育実習をする期間、担当学級、そして指導予定の単元のすべてを実習の２週間前に知らされ、事前準備があまりできませんでした。しかし、マグネットや厚紙など、教壇実習に必要な教具はほぼすべて学校が提供してくださいました。また、教壇実習が２週めからということもあり、見学させていただける日数もかなりありました。そのため、指導教諭の授業や他学年の先生による英語の授業を熱心に見学し、準備不足だけはないように、そして生徒にわかりやすい授業をしようという気持ちで教壇実習に臨みました。

教壇実習でもっとも学んだことは、教師の行動や言動に生徒は注目しているということです。大学の模擬授業では生徒役が「大人」だったので、子ども目線の授業が思った以上にできていなかったことが、教壇に立って初めてわかりました。教材研究も同じです。自分の中ではしっかりと行っていても、生徒たちが予想外のところでつまずいたり、私自身の行動や言動で生徒が戸惑ったりすることもありました。その度に指導教諭にどうすれば生徒にわかりやすい授業ができるのかについて相談しました。すると毎回同じ答えが返ってきました。それは「教師の動きにはすべて意味がある。そしてその一つ一つに生徒は注目している」「生徒の活躍の場を作ることが教師の仕事。いかに生徒が積極的に行動できる授業にするかが大切だ」という言葉です。この言葉は放課後の授業準備指導のときのみならず、実習日誌にも何度も書いてありました。最初は理解することに必死でしたが、授業をしていくうちに、どうすれば生徒が活躍できるのかがわかるようになりました。指導教諭からいただいた言葉はシンプルですが、それを実行することの難しさ、そして大切さを実感しました。

担当業務は本当にゼロからのスタートでした。朝や帰りの会、清掃指導、連絡帳のコメント記入、給食指導、放課後の教室整備指導…。仕事はとても多いです。それだけ生徒と触れ合えるチャンスがあると私は考え、できる限り生徒と話しました。クラスには自分から話しかけてくる子もいればそうでない子もいますが、どの子にも平等に笑顔で話しかけました。すると消極的だった生徒の数人が、連絡帳の日記欄にたくさん日記を書くようになりました。「菅野先生と話したり連絡帳のやりとりをしたりするのが毎日楽しみです」という言葉をもらい、生徒との距離が少し縮まったのがわかりました。また生徒との信頼関係が授業にも影響することもわかりました。研究授業で、普段授業に消極的な生徒がたくさん手を挙げ、発言してくれたのです。クラスとの一体感を授業で味わえ、研究授業を成功させることができました。

３週間という期間は本当に短く感じました。指導教諭からも他の先生方からも、そして生徒からも学ぶことがありました。人に何かを教えるには、頭の良さだけではなく生徒との信頼関係も必要です。生徒が授業内外で活躍できる環境づくりも教師の大切な仕事です。大変なことは多かったのですが、乗り越えた分だけ成長できました。

教育実習終了はゴールではありません。この実習をひとつのステップとして、素晴らしい教員になるために、これからも勉強を続けていきたいと思っています。

教育実習を終えて（地理歴史）

静岡市立高等学校　文学研究科歴史学専攻博士後期課程3年　奥田　真結子

実習の日々はあっという間の出来事でした。6時起床、8時前に高校へ行き、生徒が完全にいなくなる20時過ぎまで残り、毎日12～3時間は学校にいたことになります。これに加え、土日の部活動も赴くことになれば、教師という職業が、いかに拘束時間が長く、私的な時間を持てない職業であるのかを実感しました。

次に、学校内での職務ですが、これも多岐にわたるものでした。朝の会議一つをとっても、毎日非常に多くの事柄を報告、連絡しあっていました。なかには生徒の個人情報に深くかかわるものもあり、多くの守秘義務の責を負う事を学びました。教師にとって大変なのは、こういった授業「外」の時間であると思います。指導教員が私に述べた「教師はボランティア精神がなければできない」という言葉が思い起こされました。

しかし、そのように時間を費やす教師がいる一方で、仕事を引き受けず、定時になるとすぐ帰ってしまう教師もいて、教職の現場を逼迫させているように思います。誰もがはじめは熱意をもって教師になったはずですが、力を抜く、楽にこなすというやり方を覚えてしまった教師も少なからずいることに対し、これからの教育現場の行末に対して一抹の不安感を覚えました。

同時に、教師に対する風当たりは増大していく一方です。実習中は楽しい経験をしましたが、それはあくまで「責任」を伴っていないからであります。年々、教師に対する重圧は様々な局面で強くなっているように思います。

教育実習生の仲間

実際に授業をおこなった感想をいえば、非常に難しいものでした。実習校には私が通っていた当時はなかった、プロジェクターを使った電子黒板を取り入れ、パワーポイントを駆使した授業展開が望まれました。しかしながら一方では、パワーポイントに頼りすぎて板書がおろそかになることを懸念する教師もいて、両者の意見の板挟みとなることもありました。私としては、指導教員の意見を尊重し、電子黒板を使いながらも必要に応じて板書をおこなっていくという形をとりました。そのためPC操作と板書と教科書、資料集を使いながらの授業になったので、発言や動作の順序を間違えないよう注意しました。また、やはり世界史という教科にとって動きのある教材はとても有益であり、パワーポイントで資料を提示した時には生徒の反応も良かったです。

教育実習生の仲間（左が筆者）

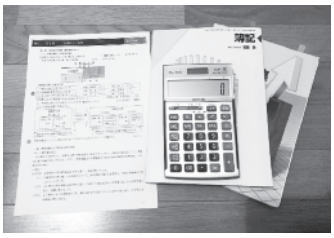
実習を通して、良い授業をおこなうことよりも重要で難しいことは、なによりも生徒との信頼関係を得ることであると学びました。生徒は「自分のためになる」と思った教師の言う事しか聞かない、と研修で聞かされた言葉もうなずけると思います。2週間という短い期間で、私が彼らに何らかのものを差し出せたのかはわかりませんが、一人でも「授業は楽しかった」と言ってくれる生徒がいたのは嬉しかったです。また、「苦手な教科であったが、面白かったので眠くならなかった」という言葉をもらった時には、つらく苦しい教師という仕事のやりがいを、肌で感じられたように思います。実習を通して、人間的に自分も成長できたとしたら、とても幸せです。

教育実習を終えて（商業）

長野県長野商業高等学校　商学部会計学科4年　近藤　佑樹

１．概要

私は、６月２日から６月 13 日の２週間、母校の長野商業高等学校で教育実習を行わせていただきました。初日から４日間は、授業見学が主でした。授業見学では、担当の先生の他、高校時代に習った先生、他の教科の先生などさまざまな授業を見学させていただきました。黒板の使い方、メリハリ、授業の組み立てを、自然に流れるように、そしてどこが大事なのかを明確にしている点は本当に感銘を受けました。教える側と教わる側の違いが感覚としてここまで違うのは驚きでした。



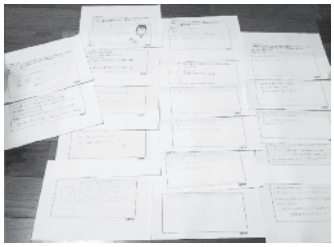
使用した教科書等

２．HR担任を通じて

初日の清掃から生徒と交流をさせてもらいました。生徒が「先生」と自然に呼んでくれるため、気を引き締めながら、先生という立場、そして高校の OB として、時と場合により分けて接することができたと思います。実習２日目からは、１年生の HR の担当をさせてもらいました。まず、 40 人の前で話すことがこれだけ勇気がいることなのかと実感しました。 SHR などは短い時間で生徒への連絡事項を伝達しなければならず、短時間で集中してもらうことに最初は苦労しました。また、２週間しかない間で、40 人全員と一言は話したいと思いこのことに臨みました。そのため、掃除の時間には常に全員に話しかけるようにし、他にも、学級日誌を２週間毎日チェックし、 SHR だけではわからない事項を生徒に教えてもらい、毎日コメントするように心がけました。３～４日目には、授業以外の会話がほとんどですが、生徒からどんどん話しかけてきてもらい、このようにして信頼の構築がされていくのだと感じました。

３．教壇実習

教壇実習では、１年生の簿記の授業を担当させてもらいました。２週目の研究授業に向け、４日目より、指導案の作成、授業プリントの準備などをしました。指導案の作成は、授業する内容をしっかり理解していないと作れないということを実感しました。奥の奥までしっかり読み取り、生徒がどこでつまずくのか、どこを疑問に思うのかをしっかり考えながらやらないとできないと感じました。



生徒に書いてもらった授業の感想

初めての授業は、前回授業の問題演習の時間としてやりました。板書の仕方もノートには書いていましたが、上手くできず、後に先生には、「生徒がだらけてしまう」という言葉をもらいました。準備が足りないまま臨んでしまったと反省しました。その後は、授業プリントを作成し、何回もロールプレイングを行い、見直し・流れを予習しました。そのことで、生徒を見ながら授業を行えたり、質問にも答えることができたりと、多少余裕が生まれたと思います。

研究授業では、たくさんの先生が来てくださり、その中での授業はとても緊張しました。指導案も授業プリントも見直し、なるべく生徒を見て話そうと意識をして行いました。授業の内容は指導案通り行うことができましたが、やはり、抑揚をつけることができずに最終日を迎えてしまいました。

４．まとめ

この２週間で、本当に教員という仕事の大変さを実感しました。今回の実習では授業を主に担当しましたが、教員の仕事は、校務が多忙であり、担当の先生もほぼ授業準備をしている時間がないとおっしゃっていました。それでも、生徒には熱くわかりやすい授業を行っており、感銘を受けました。教員という仕事はとても大変な仕事であり、教えるという本質と共に、大人としても見本として生活をしなければいけないと感じました。生徒のため、情報収集を行い、適切なアドバイスや指導をすることが大変ではありますが、生徒の一生の時間に関われるとてもやりがいのある仕事であると実感しました。

学校行事「模擬株式会社長商デパート」の看板

５．最後に

教育実習は、今までにない緊張感や雰囲気を味わえることがたくさんあります。「先生」と呼ばれることから始まり、実際に教壇に立って授業を進めるなど、本当に教員としての第一歩だと感じます。その上で、教育実習であれ、しっかり科目についての教養を身に付けることが大事だと感じました。生徒のお手本となるよう、しっかりした態度で生活し、授業の研究をしっかり行うことが大事だと思います。自分が理想とする授業を日々考えながら、先生の授業を見学することなどを行うと、自分の形も見えてくるのではないかと思いました。有意義な実習になるよう、時間を大切にして、そのための準備に頑張ってください。

教育実習を終えて（情報）

愛知県立新城東高等学校　ネットワーク情報学部ネットワーク情報学科4年　斎藤　真希

１．はじめに

私は６月２日から 13 日までの２週間、母校である愛知県立新城東高等学校にて実習を行わせて頂きました。実習科目は情報科で、ホームルームは１年２組を担当しました。私の他に実習生は５名おり、そのうち１人は私と同じ情報科の実習生だったため、１年生が４クラスあるうち半分ずつを担当することになりました。担当外のクラスの授業中は授業補助として机間指導を行いました。２週間の実習のうち１週目はパソコン室での演習授業、２週目は通常教室での座学授業を行いました。

２．実習前の準備

実習開始の約１ヶ月前である５月１日に事前打ち合わせが行われ、教科書・学習ノートなど教材一式を受け取りました。その際に指導教諭が作った年間計画も渡され、期末テストとの兼ね合いで研究授業をどの単元にするか先に話し合いました。私は実習までに、渡された教材を元に一通りの授業構成を考え、それに関連する高校生に身近な例え話を日常から見つけられるように意識して生活していました。

あとはとにかく教科書を読み込んで、自分の言葉で説明できるようにしようと努めました。

３．教壇実習

私は情報科の１週間の時間割数が少なかったこともあり初日から教壇実習を行わせて頂きました。初日は担当クラス２クラスとも授業があったため、１時間だけ授業参観させていただいた後、数時間後にはもう片方のクラスで教壇実習を行いました。事前に簡単な指導案は用意していたのですが、演習授業ということもありクラスによって計画に追い付いていないところもありました。他にも生徒たちの作業速度の違いや質問への対応など、大学の授業で行なってきた模擬授業とは全く違う現場の厳しさを実感しました。

演習授業で特に苦労した点は、やはり皆が同じ進度ではないため、全員にその授業の目標を達成させることができなかったことです。教科書にはテキストを先に入力して課題を作成しましょうと書かれていますが、タイピングの遅い生徒はテキストを入力し終えるところで授業時間のほとんどを使ってしまいます。そこで私は、授業の初めに今日できるようになって欲しいことを伝え、スライドに教師用 PC の画面を映して今日の目標を先に皆でクリアできるように全体で進めました。ここで１つ問題だったのは、パソコン室の機器が古くスライドが充分な大きさで映しだされないため、前方の席の生徒しか教師用 PC 画面を確認して作業を進める事ができなかったことです。そのため動作を事細かく説明しながら進める中で、難しい専門用語を用いないように心がけることで、生徒がつまずいてしまわないよう気をつけました。これらの結果、クラス全員が本時の目標を達成することができ、今までパソコン演習を苦手と感じていた生徒も少し自信がついたようでやり甲斐を感じました。いくら情報化社会になってきたからといって皆が普段からパソコンに触れる機会が多いわけではなく、むしろスマートフォンの操作ばかりしているせいでキーボード操作が苦手な者の方が大多数であるということもわかりました。

通常教室での座学の授業は、生徒たちが高校に入学してから初めての情報の座学授業だったため、今後のやる気に繋がっていくと思うと大変緊張しました。演習のような個人作業の授業ではないので、どのようにして授業に集中させるか多くの工夫を考え、出来る限り生徒の言語活動の時間を取りたいと考えたためプリント形式の授業を行いました。座学で特に気をつけた点は、すべて教師側から発信するのではなく、話し合いを通して生徒が気づく授業づくりをすることです。そのために話し合い中の机間指導はものすごく丁寧に行い、指名したい生徒を見つけたら「あとで指名するからね」と予告することで生徒側も心の準備ができ、研究授業においても生徒の回答から授業の核となる部分を導き出すことができました。後から思い返して上手くいったと思う部分はすべて生徒に助けられてできている部分であり、授業は生徒と共に作り上げるものであるなと感じました。

４．最後に

私は教育実習を大満足に終えることができました。もちろん至らなかった点も数多くご指摘いただき、今後に活かしていきたいと思うことばかりです。大学の教職課程の授業は教育実習に行くまでとても辛かったですが、その辛さを乗り越えたからこそ自信を持って実習に挑めたのだと思います。生徒たちは私たちを「先生」として扱ってくれるので、自信のなさを見せてはいけません。そのために自信をつけるべく、事前準備を徹底的に行なってください。私もとことん準備しましたが、それでも足りなかったと感じました。きっと万全な状態で臨むことは不可能なのかもしれませんが、自分の自信に繋がるように出来る限り準備していくと良いと思います。教育実習は成功すればとても楽しく充実した時間を過ごすことができます。そのために時間の許す限り頑張ってください。

教育実習を終えて（数学）

私立専修大学附属高等学校　ネットワーク情報学部ネットワーク情報学科4年　大澤　愛花

▼はじめに

私は 5 月 26 日から 6 月 14 日の 3 週間、母校の専修大学附属高等学校へ教育実習に行ってきました。担当学年は 2 年生で HR クラスは 2 年 I 組、授業は 2 年 C 組と 2 年 I 組を担当させていただきました。教壇実習は 3 週目から始まったため、はじめの 2 週間は授業見学を行いました。生徒とは昼休みの時間や掃除の時間、数学の演習時間を通して仲良くなることができました。

▼授業見学について

2 週間授業見学の時間があったため 40 近くの授業を見ることができました。担当の先生からは授業見学するときに先生と生徒のやり取りや板書を全てノートに書きとることと、発問やプリントを配布した時間もきちんとメモするよう指導を受けました。授業見学中は常にノートにメモすることで必死でした。ノートを見返すことによって時間配分や授業の進行が鮮明にわかったため教壇実習をするうえでの参考にすることができました。また、先生と生徒の対話を記録しておくことによって生徒の質問に対する回答や公式の説明などのアシスト方法がわかったためこの方法は授業見学をする上でとても良い方法だと思いました。

指導担当の先生からは、他の教科の先生の授業見学をすると新しい発見があると教えて頂き、他教科の見学も多く行いました。私は数学科なので文系の先生の授業を見学したのですが、どの文系の先生も生徒の発言をうまく拾い授業にうまく結びつけて展開していたため、生徒も楽しそうに授業に参加している印象を受けました。また、現代文の先生に授業を行う上で大切にしていることを聞いた時に、「生徒の目を輝かせることのできる授業」と回答を頂きました。生徒が目を輝かせて楽しく授業を受けることができるということは理想の形だと思うため、日頃の教材研究や生徒との信頼関係を築くことが大切なのだなと考えました。

最終日 HR 担当クラスと集合写真

▼教壇実習について

私が担当した教科は数学Ⅱの図形と方程式の範囲です。教壇実習は全部で 8 回ほどありました。初めから授業を楽しめる余裕が欲しかったため、教育実習が始まるまでに週に 1 回 50 分の模擬授業を行い基本的なこと（声の大きさ、板書の書き方など）は克服する努力を行いました。教育実習が始まって 3 週間目から教壇実習だったため、授業準備の時間を多く取ることができました。また、指導担当の先生が夜遅くまで教壇実習の練習を見てくれたお陰で、大きなミスもなく授業を行うことができました。

教壇実習で机間指導を行う

授業を行った上で教科担当の先生から頂いたアドバイスは、グラフの書き方の綿密さや、数学的にわかりにくい説明や公式をいかにわかりやすく説明するかというところです。1 つの授業を行う上で、何が一番伝えたいかこだわりをもつことが大切だと教わりました。公式などの説明を行うときは、物事を順序立てて説明にストーリー性を持たせることによって生徒の理解が深まるとのアドバイスを頂き、ひとつの公式の説明をする際にも、まず具体的な数値で考えてから公式の説明に入るなどの改善をすることができました。反省点としては、問題を読んだあとにすぐ解説に入ってしまったことです。問題を読んだあとは、「この問題では何を求めているか」をきちんと説明しないと生徒がついていけないため、今後はそういった細かい点にも気を配っていこうと思います。

▼おわりに

教育実習の 3 週間を通して、今後社会に出ていく上で自分に足りないところを見つけると同時に、自信を持つべきところも見つけることができました。今後は社会人として働きながら数学力を身につけ、いずれは教員として教壇に立てるよう努力していきたいと思います。

教育実習を終えて（小学校）

横浜市立屏風浦小学校　文学部日本語学科4年　**井上　侑子**

私は 11 月 4 日から 4 週間、横浜市立屏風浦小学校で教育実習をさせていただき、第 3 学年を担当しました。もともと実習校には週に 1 回ボランティアに行っていたので、顔見知りの先生や児童がいたことや学校の雰囲気を知っていたこともあり、初日から落ち着いて取り組むことができました。

教育実習を振り返ってみると、教壇実習はもちろん、様々な学年・教科の授業参観や研究授業への参加、たてわり活動、工場見学の引率、その他行事への参加など貴重な経験を沢山させていただき、その中で様々なことを学ぶことができました。

まず、小学校の授業では中学校や高校と違い、自分の担当クラスで 1 回しか授業ができず、また教科も 1 教科だけではないのでとにかく大変です。展開や発問の仕方を工夫したり、児童の実態や反応に合わせて臨機応変に対応していく必要もあります。そのためには、まず授業準備をしっかり行うことが大切だとわかりました。このような発問をしたら児童からどのような答えが返ってくるか、このような展開をしたら児童はどんな反応を示すかなどを自分なりにしっかり想定しておく必要があると感じました。また、理科の実験や図画工作、書道の授業では事前に自分で行ってみることで、どのような点に気を付けるとよいかがわかり、よりよい授業へと繋がっていったと思います。このように、授業準備をしっかり行うことで自信をもって授業に臨むことができると思うので、しっかり取り組むと良いと思います。

また、児童と積極的にコミュニケーションを取ることも大切だと思いました。私は、担当の先生の計らいにより、クラス全員の名前を覚えてテストをする時間を設けていただき、そのおかげで実習 2 日目にはクラス全員の顔と名前を一致させることができました。名前を覚えてもらえると児童も喜びますし、コミュニケーションをとりやすくなるのでなるべく早く顔と名前を一致させると良いと思います。また、名前を覚えるだけではなく、その子がどういう子なのかということを知っていくことも大切だと思いました。授業中の態度や発言を観察したり、休み時間には校庭に出てドッジボールやなわとび、鬼ごっこなどを一緒にしたり、給食の時間には毎日、各グループをまわって一緒に給食を食べるなどの交流をすることで、児童の個性をとらえていくことができました。積極的に話しかけてくれる児童もいますが、そうでない児童もいるので、そういう児童には自ら積極的にコミュニケーションをとることが必要になってきます。そうして児童と交流を深めることで、児童一人一人に合わせた指導や対応ができるので自然と児童との信頼関係も築いていけると思いました。さらに、児童は実習生の発言や行動をしっかり観察していますし、しっかりと覚えています。いつでも児童に見られているという意識をもち、行動や発言には責任をもって過ごすと良いと思います。

最後に、これから実習を受けるみなさん。教育実習は初めてのことばかりで、戸惑うことやわからないことが多いですが、失敗を恐れず、積極的に行動することが大切であると思います。ただ与えられたことをこなすのではなく、自ら考え行動し、わからないことは先生方に聞いたり、アドバイスをもらったりして、努力する姿勢が必要であると思います。実習を受け入れてくださった学校の校長先生をはじめ、先生方への感謝の気持ちを忘れず、謙虚な態度で臨むことも大切であると思います。4 週間と聞くと長いように感じますが、実際はあっという間に過ぎます。1 日 1 日を大切に過ごし、楽しんで実習に臨んでください。

「なぜ数学を学ぶのか」に対する答えの先にあるもの

ネットワーク情報学部　兼任講師　大塚　慎太郎

１．なぜ数学を学ぶのか

「子どもに『なぜ数学を勉強するのですか』と質問された場合、あなたならどのように答えますか。」

誰もが学校で数学を学ぶ際に「なぜ数学を勉強しなければならいないのか」ということを考えたことがあるのではないだろうか。この問いは、将来、教師としてあるいは親として向き合うことになる可能性の高い質問である。「計算ができれば日常生活には困らない」や「受験のために仕方なく勉強している」といったことを思っている人も少なくないだろう。

実は、この問いは、私が担当している講義「数学科教育研究１」の初回に必ず学生に聞いている質問である。この質問の意図は、将来、教師になって子どもに質問されたときにどのように答えるべきか、ということではなく、学生自身が数学を学ぶ理由をどのように思っているのか自分で考えてもらうことにある。学生自身に考えてもらうことで、何を考えて数学を勉強してきたか再認識してもらうというねらいもある。

質問に対する学生の回答は様々であり、「将来のため」や「思考力をつけるため」、「受験のため」などの回答がある。学生一人一人の回答は異なるが、授業ではさらに全体の回答をまとめて「数学教育の目的」は何か考察する。目的については過去にも多くの人々が様々なことを述べているが、あくまで自分たちが考える「数学教育の目的」を明らかにする。そして、先人たちの考える目的と比較することで、我々の考える「数学教育の目的」の特徴を捉える。このような活動を通して学生は「なぜ数学を学ぶのか」に対する答えを見つけ、それを「数学教育の目的」として昇華していく。

ただし、その質問に対する答えがすべて「数学教育の目的」につながるわけではない。「なぜ数学を学ぶのか」の答えの一つに「後から数学を勉強するのは大変だから」という答えがある。これは、数学という学問が系統性の高い学問であるが故に、後で数学が必要になった場合に一から学び直すには多くの時間と労力がかかるという意味である。数学の系統性には、以前学習したことを基にして新しい内容を学習できるという良い面がある一方で、以前学習したことを忘れてしまったり理解が不十分だったりした場合、その先の学習が困難になってしまうという面もある。

「なぜ数学を学ぶのか」に対する答えの先には、「数学教育の目的」だけでなく、どのような内容を教えるべきか、それをどのような方法で教えるべきか、そしてどのように評価すべきか、ということも考えなければならない。これらの問題に対して答えを出していく学問が「数学教育学」といえる。数学の教師になるためには、「数学教育学」を学び、優れた実践家にならなければならない。

２.「なぜ数学を学ぶのか」の答えの先にあるもの

私が研究者を志したきっかけは、教育実習での経験である。それまでは、中学校あるいは高等学校の数学の教員になろうと考えており、数学教育の研究をしようなどとは微塵も思っていなかった。数学の教員になろうと思ったのは、数学を学ぶことが楽しいからであり、その楽しさを生徒に伝えてあげたいと思ったからである。しかし、いざ教育実習になってみると、自分が楽しいと思っていることが生徒には伝わらない。数学にはこんなに楽しいところがあるのに、どうしてその楽しさが伝わらないのだろうか。どうすればよいか考えても何もアイデアが出てこない。結局、教育実習期間中にはその解決策は見つからなかった。この経験から私は、このまま教師になったとしても数学の楽しさは伝えられないと思い、大学院で数学教育について一から学ぼうと決意した。

大学院で数学教育について学び始めた私が初めに疑問に思ったことは「なぜ数学を学ぶのか」ということだった。多くの研究者がこ

のことについて意見を述べていたが、どれも自分が納得するものではなかった。遂には、「数学を学ぶ必要はないのではないか」と思うようにもなった。しかし、このように考えたことがきっかけとなり、数学から一歩離れることで、数学のよさを他の学問と比較することで認識できた。そして、改めて別の観点から「なぜ数学を学ぶのか」ということを考えるようになった。それは、数学教育の目的として論理的思考力の育成が掲げられているが、数学を学習することでしか育成できない論理的思考力とは何かということである。この問いに答えることが「なぜ数学を学ぶのか」に対する答えになると考えている。

私以外にも多くの人が「なぜ数学を学ぶのか」という問いを考え続けている。その人たちの中には研究者もいるし、学校の教員もいる。研究者の中には、直接「数学教育の目的」について研究している人もいるし、私のように直接ではなく、他のテーマを研究することでその答えを見つけようとしている人もいる。学校の教員の中には、日々の実践を通して子どもたちにその答えを見つけてもらおうとしている教師もいる。取り組み方は異なるが、これらの人はすべて「なぜ数学を学ぶのか」という答えの先にあるものに取り組んでいる。そして、その取り組みから問いの答えを明らかにしようとしている。

３．これからの教育を担う若人たちへ

以上が、私が講義で冒頭の質問をしている意味である。講義の中ではこのような意味までは話していないが、この質問に対する答えを考えることが数学教育学の研究に一歩足を踏み入れることになると思っている。講義を受講したすべての学生が数学の教師になるわけではないし、ましてや研究者になるわけでもない。しかし、質問に答えようとすることで、それは何らかの形で数学教育学の研究につながっているはずである。

もし、今後、「なぜ数学を学ぶのか」ということを疑問に思い、その答えを知りたいと思ったら、そのような学生には是非とも大学院での研究を勧めたい。大学院修了後は、研究者になるか教師になるかは本人次第だが、研究対象として数学教育と接することで、答えを導くための新しい視点を得ることができるはずである。そして、その経験をすることができる場所が大学院である。また、大学院では、数学教育学を学ぶだけではなく、自分の疑問を自分で解消することもできる。そのような疑問が生じた場合には誰かに答えを教えてもらうのではなく、自ら答えを探し出してほしい。

最後に、ある先生から聞いた「なぜ数学を勉強するのですか」と質問をする子どもの本音を紹介しよう。

「そのように聞いてくる子どもは数学を好きじゃないからそう言うのだ。数学を楽しんでいる子どもはそのようなことは聞いてこない。そのように聞かれたらあなた（教師）が教えている数学がつまらないということだ。」

教師を目指す学生諸君には、是非とも「なぜ数学を勉強するのか」と質問をされない教師になってもらいたい。

介護等の体験を終えて

文学部英語英米文学科4年　池田　綾子

「介護等の体験」と聞いて、はじめは福祉施設では「介護」を、特別支援学校でも生活の補助などを想像していましたが、実際には施設や学校で１日ともに生活するという印象でした。学ぶことが非常に多かった７日間をそれぞれまとめました。

１．社会福祉施設

桜寿園での５日間はデイサービス利用者の方々とお会いし、施設にお迎えするところからお見送りするまでを体験させていただきました。体験中とくに心がけたことが、利用者の方の名前を覚えてコミュニケーションをとることでした。毎日違った利用者の方にお会いすることもあり、名前を覚えることに苦戦しましたが、話しかけるときやお食事・お茶を出す際にもいきなり話しかけるのではなく名前をお呼びすることが大切であることに気付かされました。

また、体験中に利用者の方と体操をしたり、手作業をしたりと日々の活動に多く参加させていただきました。その中で、食に好みがあることと同じように、絵を描くことが好きな人や昼休みは一人でゆっくり過ごしたい人など、利用者の方々の一人ひとりの個性とその対応の違いを実感しました。

５日間の体験を通じて、職員の方々にはもちろんのこと、利用者の方々にも施設での過ごし方や作業の内容、ご自身の話など毎日たくさんのことを教えていただきました。体験が始まった時には何をしたらよいかわからず黙って立っていると逆に利用者の方から話しかけてくださるという場面が何度かありましたが、忙しい毎日のデイサービスの中で体験させていただいているので、出来ることを自分から積極的に見つけて行動することで経験できる幅がぐっと広がります。人生の先輩と接する中で、普段忘れてしまいがちなコミュニケーションの大切さを改めて感じた５日間でした。

２．特別支援学校

神奈川県立高津養護学校では、知的障害のある中学部１年生のクラスの中で２日間体験をさせていただきました。特別支援学校での体験は初めてだったこともあり、生徒と対面するまでは「どのように接したらよいのか」「何を話したらよいのか」と心配ばかりしていました。しかし、登校してくる生徒の明るさや質問に圧倒されたと同時に、無意識に作ってしまっていた壁を実感しました。教室に入ると、さらに生徒たちとの距離が縮まり、日々の生活をとても間近に感じることができました。また、２日目の放課後には体験中交流することのできなかった高等部の生徒たちの課外活動に参加させていただきました。グラウンドで好きなことに打ち込み、挑戦する生徒たちの姿が非常に印象的でした。

体験中に児童・生徒たちと接するにあたって、頭でしっかりと考えて行動することも大切ですが、それ以上に自分から彼ら彼女らの輪の中へ入っていくことが生徒への理解を深めるためには大切なことであると感じました。たった２日間の体験では学校のことや生徒のことを 100 % 理解できず、生徒と一対一になった時にどうしたらよいか戸惑い、急いで担任の先生を呼びに行く場面もあり、自分の不甲斐なさを感じることもありました。体験を指導してくださった先生の「児童、生徒の行動には必ず理由がある」という言葉の通り、毎日同じ感情で生活している人はいません。だからこそ変化をしっかりと見つめて生徒と向き合うことが非常に大切なことであると感じた２日間でした。

社会福祉施設と特別支援学校での体験を通して、教職課程で学ぶことの枠を超えた「個人と向き合うこと」の大切さや難しさ、またやりがいを実感することができました。人生の中での貴重な体験としてこの先の進路にしっかりと生かしていきたいと思います。

前列右から２番目が筆者

専修大学教育学会に参加して

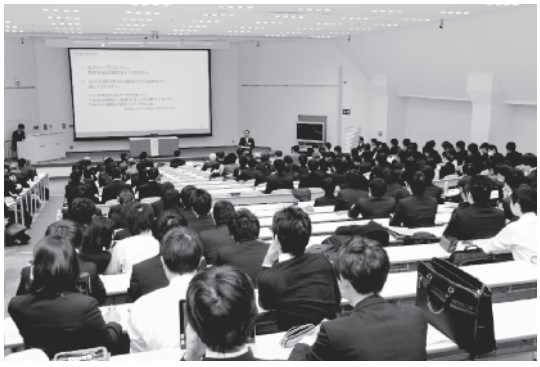
法学部政治学科4年　小林　甲偉

１．はじめに～AL 型授業構想発表を踏まえて～

私は、教育実習においてアクティブ・ラーニング型（以下、AL 型）の授業は行わず、一斉教授型の授業を行ったため、教職実践演習の授業内で行った公民グループの AL 型授業構想において生じた課題と疑問を記していきたい。

私たちのグループでは AL 型の授業をグループワーク（以下、GW）として取り扱うこととし、生徒に裁判員裁判を経験させるという授業構想を発表した。この発表に対し、「１時間で実際にできるのか。前の時間に役割分担等をしていなければ厳しい」との指摘をしてもらった。教育実習での経験から、この範囲は１時間で終わらせなければならないと考え、２時間配当したうち、最初の１時間を一斉教授型の授業、もう１時間を今回の授業構想としたのであった。

現場では教科書を終わらせることに苦労している。GWを通して、そのような時間的余裕のない中でどのように AL 型授業を行っているかということ、AL 型授業において能力を発揮できない生徒にはどうアプローチしているかという２つの疑問が生じた。



２．自己の課題や疑問点に対しての先生方のご意見

まず、「時間的余裕のない中でどのように AL 型授業を行っているか」という疑問についてである。これは小林先生がお答えくださったが、非常に驚いた。全てを AL 型授業とし、その授業で教科書の内容が 11 月中には終わるということであった。それでは生徒の理解も進まないのではと思ったが、生徒が「振り返り」をし、生徒同士で教え合うことで着実に理解は進んでいるということだった。実際にデータを見てもその効果ははっきりと表れていたように思える。ただし、すべての授業において AL 型授業を行うには教師が知識を持ち理解していることが前提ということでもあった。

そして、「AL 型授業で能力を発揮できない生徒に対してのアプローチ」である。そういった生徒には授業外で個別に呼び出しを行って参加しない理由を問いかけ、そして、対処の仕方を考え、まずは他の生徒に質問するのではなく、教師への１回の質問に留めるなどの提案をし、そこからコミュニケーション能力を育成するとのことだった。

３．新たに生じた課題

新たに生じた課題は、正直なところ AL 型授業を構想しただけであり、実感がつかめていないが、AL 型授業と一斉教授型の授業の境界線をしっかりと張り、混同した授業とならないように、しっかりと授業の計画、運営をしていくこと、AL 型授業にどのように公民分野を取り入れていくかが課題となった。

４．先生方の発言で印象に残ったこと

「教師、生徒双方の振り返りが大事」という言葉である。やはり、生徒は振り返りをしなければ、復習をせずに授業でやったことをそのまま放置し、知識の定着等にはつながらないと感じる。他方で、教師も振り返りを毎回しているということには驚かされた。現場の教師は次回の授業への事前準備に苦労しているからだ。にもかかわらず振り返りが大事であるということは授業改善を訴える少数の生徒にも目を向けて改善に改善を重ねることが重要であると私なりに解釈をした。一斉教授型の授業を今後行っていく場合でも振り返りをしっかりとしていきたい。

５．「教育学会大会」で実施してほしい点

午後の部は各教室に分かれて各科目ごとに講演などをしてもらいたい。あまりにも情報量が多く、かつ各先生方が話す時間が短いという点において私は頭の中が整理できていないというのが現状である。学会のため難しいかもしれないが午後の部は分けてほしいと感じる次第である。

教職総仕上げ「教職実践演習」

文学部歴史学科4年　大村　友香

１．「教職実践演習」を受けて

「教職実践演習」―教職課程の総仕上げとして位置づけられるこの授業を履修するにあたって、ただ必修科目だから、という心づもりで受けてほしくないと私は強く思う。なぜならばこの授業内容は、１～３年生まで受けてきたどの授業よりも濃密で且つ深く考えさせられるテーマを扱うからだ。私は、神山安弘先生の授業を履修した。神山先生は、実際に教員として学校現場で働き、そして教育委員会や校長先生としても仕事をされていた経験から、毎時の授業で取り扱うテーマには、とても切実な思いと身に染みるほどの緊張感が込められていた。授業スタイルは、前半は教育に関わるテーマについて神山先生の経験談と今の学校現場の現状を講義形式で聴く、後半は新聞記事を読んで、グループで意見を交わし発表する、という二部構成である。特に後半のグループ活動で、教職を志す人たちと教科の枠を超えて、様々な意見を交わすことは、視野や考え方を広げる良い刺激となった。講義で印象的なのは、「学校教育の現状と課題」について取り上げた最初の授業での、**「教師が変わる時、授業が変わる。授業が変わる時、子どもが変わる。子どもが変わる時、学校が変わる。」**という言葉で、私は、教育実習の時の自分の姿が目に浮かんだ。

２．「教育実習」の振り返り

教育実習は自分の母校である高校に行き、授業面では世界史を担当し、生活面では２年生のクラスの担当となった。世界史の授業は、あまり気乗りしない生徒が多いということを指導教員から説明されていたが、私は、私が受け持つ授業の時だけでも世界史に対して興味関心を持ってもらおうと強く思い、私なりの授業づくりに励んだ。工夫したのは、世界史の授業を含めて社会科の授業は暗記科目だという意識を軽減させるために、図や写真資料を用いたり、地図を描かせ地理的感覚を養わせたり、そして手作りの実物資料を用いて、過去の出来事でありながらも現実味を味わえるように心がけた。多くの失敗もあったが、こうした授業づくりに励んだ努力が実り、指導教員からは「授業中に寝る生徒を見なくなった。ノートをきちんととっていた。」という言葉をもらえた。また、生徒からは「世界史に少し興味がもてた。」「地図を描くのは大変だったけど、今後も描いていきたい。」という反応をもらえた。したがって、**「教師が変わる時、授業が変わる。授業が変わる時、子どもが変わる。」**に一歩近づくことが出来たと思った。しかし、重要なのは、いずれも教師が主体的に生徒たちに働きかけたという点である。教師は、生徒からの自発性で動くのを待つ、受け身の状態でいるのではなく、生徒が自発的に動くように導いていく必要がある。私が担当したクラスのある女子生徒は、あいさつしても話しかけても反応が無かった。しかし私は、普段通りに対応した。この女子生徒との関係が改善したのは「一分間スピーチ」という毎時のホームルーム中に行っている活動だった。「一分間」話すというのは、簡単そうだが大勢の前に立って話すことに慣れていないととても難しい。この女子生徒も恥ずかしがって言えなかった時、私が、「ダンスどれぐらいやっているの？」と声をかけた。体育祭で有志の団体演目で笑顔一杯で踊っている姿を観たためだ。この一声で「先生、見てくれていたの？」と照れながら笑顔で反応し、その後気軽に話しかけてくるようになった。

実習を終えて、私は一つ心残りに思う事がある。それは、実践演習の授業で強い印象を受けた**「子どもが変わる時、学校が変わる」**のを観ていない事である。この言葉の実践を観るために、私は教員を目指し、そして教員として学校現場で働いた時に長い目で観ていこうと思っている。

最後に、全ての「教職実践演習」の履修生が、次世代の子どもたちの将来や生命、豊かな学力そして笑顔を創っていくために「教育」に対する情を大切にしてほしいと私は願っている。

府中高校2年5組の生徒たちと

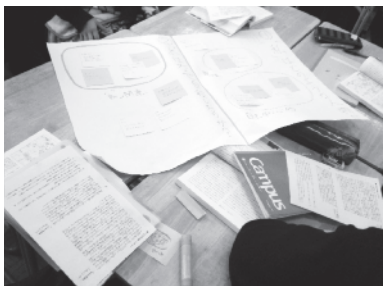
教科研修生体験レポート

文学部日本文学文化学科3年　**大村　龍貴**

私は 2014 年 10 月から専修大学附属高等学校にて、教科研修生として毎週木曜日の一時限目に参加させていただいています。担当の先生は一人でしたが、その先生の計らいと、私自身の希望によって、他の先生が行う授業にも参加させていただく機会がありました。というのも、用語を、年号を、公式を暗記するものではなく、文法を重点的に学ぶわけでもない現代文という科目をどのように人に教えるのかに興味があったからです。短い期間でしたがそのぶん集中して三者三様の教え方を学びました。そして、どのように教えるのか、という点においては明確な答えはなく、先生方も苦悩している場面が見て取れました。そしてまた、教員という教える立場だからこそ、日々学んで教壇に立っているのだと強く感じました。これは生徒の視点では気付くことのできないことです。

先生は生徒に私のことを教職を志している大学生で、研修生だと紹介しました。曖昧な立場なので呼び方も苗字に敬称をつけたものでいいだろうと呼びやすいように配慮もしていただきました。しかし、生徒はその説明を理解しているのかしていないのか、みんな私のことを「先生」と呼びました。最初呼ばれたときは、その呼びかけが私に対してされたものだとは気付きませんでした。そして先生と呼ばれていることに気付くと同時に、彼らにとっては私は先生なのだと、気を引き締めました。今までは呼ぶ側として、生徒として慣れ親しんだ「先生」という呼称。擬似的であるにしろ、「先生」と呼ばれる側となったときに初めてこの呼称に重みを感じ、私がその立場として見られていることが、気恥ずかしくもあり、嬉しくもありました。

授業中に机間指導していると、私に対して現代文の用語や古文の文法についての質問が頻繁に飛んできました。まさしく先生として扱われていたのかもしれません。試されているようにも感じました。私が同じ年齢の頃に仰ぎ見た大学生がどのようなものだったのかは正確に思い出せませんが、高校生から見たら大学生というものは、大げさに言えば高校生の範囲ならばなんでも知っているような、先生のような人なのかもしれない。そう感じました。



確かに私は大学生で、日本文学を専攻しているので高校生より年齢を重ねており、国文学においては多くの知識があります。つまり答えられなければなりません。高校生の範囲なんてもう忘れた。なんて言葉は生徒に、何より専門的な知識を学んでいる自分自身に通用しません。生徒からのせっかくの質問に上手く答えることができなかったときは自身の勉強不足を恥じました。また、答えを教えることは簡単ですが、答えに通じる道を示すことの難しさは実際に教えてみないとわからないということを痛感しました。自身の常識を生徒に当てはめてはいけない。生徒がどれほどの知識を持っているのかを推し量りつつ、そのレベルに合わせて説明しないと生徒は理解するどころか考えることすら放棄してしまいます。なのでグループワークの時間では積極的に生徒の考えを聞きにいきました。その日はどのような授業で、生徒はその授業に何を感じるのか。たった 45 分間の授業でしたが、研修生の視点で見るとあまりに濃い時間でした。

私は、高校を卒業していません。高校卒業程度認定試験の合格により、大学へ進学しました。さらに専修大学は教員養成を主な目的とした大学ではありません。それらのことから、私は教職を志している者のなかでは高等学校における教育という道からおよそ最も遠い存在だといえるかもしれません。だからこそ、この研修で学んだことは枚挙に暇がありません。きっと私のような特異な立場の者でなくとも得ることはあまりに多いだろうと思います。先生から、生徒から、学校から多くのことを学びました。先生の技量に敬服し、生徒の積極性に感心し、教室の雰囲気に圧倒されました。すべてが新鮮で貴重な体験でした。教育実習の前に、高校に赴くことで私の経験不足を補おうと考えて申し込んだ今回の研修でしたが、そこで得たものは不足したものを補って余りあるものになりました。この経験は教育実習において必ず活きるものだと思うので、学んだこと、感じたことを忘れずに、自信を持って実習に臨もうと思います。

多摩区・３大学連携事業「学校教育ボランティア」体験レポート

専修大学人間科学部社会学科2年　三浦　僚哉

今年の初めに、学校教育ボランティアという体験を知った僕は短期で夏期に中野島中学校へ、長期で長尾小学校と枡形中学校へ行きました。中野島中学校では夏休みの終わり頃に宿題の手伝いや分からない事について教えていくような集中講座のような形式で、長尾小学校は普通級、枡形中学校は個別指導と支援級へのサポートです。これらのサポートを通じて、感じたこと、思った事がいくつかあります。

一つ目は、今現在も教えられる側にいる自分自身が実際に教える側に立った時の難しさ

長尾小学校４年生音楽の授業①

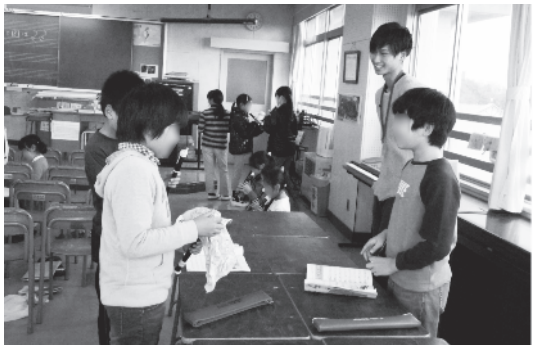
です。これは夏期の中学校で特に感じました。集中講座のような形であった為か、ボランティアに参加している人数人で行ったので、一対一で生徒に接する機会が多かったです。来てくれていた生徒は分からない事があって来ているのですから、こちらとしてもぜひその期待に答えてあげたいと思っていましたが、生徒の反応は全然良くありませんでした。「ここがこうなって…。」「こうするとどうなる？」このような言葉では生徒は首を傾げるだけでした。自分の言葉では、自身が分かっても子どもたちでは分からない事があるのだなと思いました。友達に説明する様にではなく、子どもたちの言葉に直してあげなければ理解してくれる事は難しいです。このボランティアで得たことの一つです。

二つ目は、児童や生徒との距離感が学校によって違う事です。夏期の中学校では、自分が緊張していたという事、短期という事もあってかあまり踏み込んだ話もすることなく終わった事を覚えています。小学校では子どもたちが元気です。どの学年の子どもも新しい先生という事に興味を持ってくれて向こうから話しかけてくれたり、短期の後のボランティアだったのでこちらから話しかけたりすることもありました。長期の中学校は最初こそ緊張していたのかあまり話してはくれませんでしたが、こちらが話題を振るなどすると段々向こうからのアプローチがありました。

三つ目は、物足りなさです。これはボランティアの体験記を読んでからボランティアに参加したためかもしれませんが、体験記には仕事量が多いと書かれていた事を覚えています。けれども実際にサポーターとして行う仕事というのは体力がいることでもないし、精神的に厳しいという事もありません。小学校では何か手伝えることはないかと伺ったときに、今はないので他の学年を見て下さいと言われた事もあります。帰り際にありがとうございましたと他の先生から言われますが、僕自身もっと力になりたいと思う事が多々あります。

これらはこのボランティアで得た課題であり、経験値でもあります。確かに難しさや物足りなさは感じました。が、それ以上に思う事があります。それは四つ目として、楽しさです。もともと子どもが好きということもありますが、その事を差し引いてもボランティアを体験して僕は教員になりたいと思ったでしょう。子どもの成長（分からなかった問題が解けるようになることやテストで良い点数を取ること、学習発表会で日頃の成果を発揮することなど）やささいな会話、どうしたら上手く伝わるかということを考えたり、今後この子がどんな将来を歩んでいくのかを想像したりすることがとても楽しいです。小学校の音楽の授業に参加させていただいた時には、子どもたちが笑顔でリコーダーを吹いている姿を向けてくれて、今はまだ力になれているかわからないけれど、子どもがあんな笑顔を向けてくれるような教員になれたらいいなと心から思いました。

頭では考えているけれども実際には出来なかった事、上手くいかない事、想像上との相違、他にもさまざまな事がこのボランティアで経験出来ましたし、これからももっと出来ると思っています。それは実際の現場を見てみないと分からないことだと思います。自分にとってプラスの経験になる事は間違いないと思います。



長尾小学校４年生音楽の授業②

専修大学附属高等学校から
将来を見据えて、今、学び続けよう

私立専修大学附属高等学校　教諭　安岡　充令

はじめまして、私は今年度より専修大学附属高等学校にて国語科の教諭として勤めております安岡充令と申します。私は以前、専修大学で助手として勤務していたこともあり、高校の教員となったのは遅く、高校の教員としては三年目の若輩者です。勤務校では経験豊富な先輩が沢山おり、そうした心強い諸先輩の力に助けられ、教員として悪戦苦闘している毎日です。ここではそうした日々の中で、今、自分が大切だと感じているもの、そして、学生時代に取り組んで、今の糧として活きていることについてお伝えしたいと思っております。

現在、高校の教壇に立つようになって改めて、学校というのは様々な人々が一人一人の生徒を支えているのだ、と実感することが多くなりました。自分が高校生の頃には、教員と自分とを一対一の関係で捉えていました。授業中はその担当者と、部活動は顧問と、行事はクラス担任と、各々一対一の関係でしか捉えていなかったのです。

しかし、例えばクラスをまたいだ友人関係のトラブル等があれば、各担任、学年全体、部活動顧問や生活指導部など、様々な教員が情報を共有し、相談し合い、一丸となってトラブル解消に向けて動きます。つまり、生徒の目から見える一対一の対応だけでなく、教員同士が手を繋ぐことで、それはまるで目には見えないセーフティネットの様に、時に生徒を安全に守り、安心に学校生活が送れるよう支えているのです。

そして、このことは教員自身の助けとなることもしばしばです。現在、教育現場をめぐるニュースでも伝えられているように、問題を一人の教員が抱え込んでしまうことで体をこわす教員も少なくないのです。例えば、自分の受け持ったクラスは自分一人が支えるのだ、各々クラスがあるのだから、他の教員の助けは借りられないと言うように……。しかし、実際は個人の力でできることは限られています。むしろ、問題を一人で抱え込み、解決にたどり着くことより、数人でそれに取り組むことで、ようやく乗り越えられることの方が多いと感じています。

皆さんには学生時代に、一つの課題に対しチームで取り組むことにチャレンジしてほしいと思っています。ゼミナールでも、サークルでも、あるいは友人同士でも構いません。チームで動くというのは一見楽なように見えてとても難しいことです。一人の怠慢で足を引っ張ることや、意見の対立、チームが故の様々な問題に直面するでしょう。一人でやった方が早いと思うケースもあるかも知れません。しかし、できるからと言って自分一人で作業してはチームではありません。チームで動くことの難しさを知るということも、将来教職に臨むに当たって大変役に立つ経験となるに違いありません。教員同士もチームならば、クラスもまた一つのチームなのですから。

先程、個人の力では限界があると申しましたが、それは個人の研鑽を蔑ろにせよという意味ではありません。日々の積み重ねによる努力は着実に自分自身を助ける術となるでしょう。私の専門は古典ですが、現在は古典に限らず、現代文や漢文、作文指導など、様々な授業を受け持っております。そうした中で一つの専門を持つことの強みと、専門に限らない広範な知識と教養を身につけることの必要性を日々感じています。そこで常に意識しているのは、「現在とどう繋ぐのか」に他なりません。古典は昔の出来事、昔の話で終わりではない。残された作品は時を経て今へと繋がり、そして、現在の我々が読むことで新たな問題を、価値を見つけることができる。一つの作品から作り手の思想を垣間見、時代や社会を想像し、それらと現在の繋がりについて思いをはせる。今、皆さんが大学で取り組んでいること、考えていることの一つ一つが将来、自らが教える生徒たちへの言葉となり、自信となっていくのです。今の勉強は必ず将来に繋がります。私は今も学び続けようと努力しています。皆さんも共に学び精進していきましょう。

司書・司書教諭課程

知ることの楽しさを一人でも多くの子どもたちに伝える

文学部　兼任講師　千代原　真智子

はじめに

私は、元公共図書館司書です。パソコンのない手書きと記憶だけが頼りの時代からICT革命、その後の時代の変化のすさまじいスピードに振り落とされそうになりながら長年児童奉仕を担当してきました。そんな図書館時代を経て現在、講師として司書課程の「児童サービス論」、「図書館情報資源特論（専門資料論）」、司書教諭課程の「読書と豊かな人間性」を担当しています。

また、現在居住する自治体の“学校図書館支援員”として中学校に週２日勤務していますので公共と学校の両方の図書館が体験できていることは私にとって幸運なことです。中学生と接している今、体験をリアルタイムで授業に反映できるからです。

今年度は４年間過ごした中学から他校に転出し、新しいスタートをきりましたが、前任校の離任式で生徒代表から「中学校に入ってから本をたくさん読むようになり、本が好きになることができたのは千代原さんのおかげ…」というううれしい言葉をもらいました。声をかけても無表情な生徒の内面まで知ることが難しい年代ですので、意外だっただけに２倍嬉しく感じられました。また、新しい中学の特別支援学級１年生の図書室での調べ学習の場に居合わせました。一人の生徒にしか関われませんでしたが、授業が終わって帰って行くときに自主的に「ありがとうございました。勉強になりました」と満足そうに言われました。２つの例は、図書館司書冥利につきるうれしい５月中の出来事でした。どんな仕事にも言えることですが誰かの役に立って喜んでもらえること、Itś my pleasure.

１．「児童サービス論」

本と子どもを結びつける児童図書館員の使命をどのように果たせば良いかということを習得する授業です。児童図書館史では児童図書館全盛期の活気あふれる時代に活躍された「清水正三」氏や「森崎震二」氏が専修大学で教鞭をとられ司書の使命を熱く語られていたことを知ってもらい、司書という資格にプライドを持って学んでいただきたいと思います。

毎回アンケートをとると公共図書館を利用している学生の少なさに驚かされますので、早い時期に「公共図書館施設見学」のレポートを提出してもらいます。公共図書館サービスの中の一部門が「児童サービス」という位置づけを実際の現場をみて把握できると思います。チェック項目ごとの視点で図書館を見ることで様々な気づきがあり、今まで見えていなかったことを発見したりできるようです。この見学は以降の授業をイメージするうえで役立ちます。「児童図書館施設を考える」はいうまでもなく、児童コーナーから全体のサービスも見えてきて理解しやすいと思います。

“児童図書館とは”というくくりでさらに「児童図書館員」、「事務分掌、事務分担」というように実際にどのような仕事があるのか、どういう資質が求められるのかということを具体的に資料に基づきながら、考えてみます。そして「児童図書館資料とは」では、班編成で行うブックトークの演習の中で実際に本を読み、その本にふさわしい紹介の仕方を研究し発表します。ほとんどブックトークを体験したことがない学生にとってみんなの知恵を集めてまとめること、また他の班のブックトークを聞いて学ぶ面白さを感じるようです。ブックトークで発表した資料は編纂してブックリストにします。それぞれの班の個性が出て興味深い記録になっています。（写真）

また、資料にアプローチするための方法として行事、広報（ブックリストなど）などが子どもと本を結びつける重要な役割を果たすことを知ってもらいます。

今日、子どもの読書環境を考えるとき、保育園、幼稚園、学校との連携がなくてはならないものになってきました。そういう意味で関係機関と協働するために今まで以上のコミュニケーション能力も問われることになります。本が好きだけではなく人も好き、そして調整、企画、運営にも積極的に参加でき、メディアを使いこなせる人材が求められることを知らせます。

２．「図書館情報資源特論（専門資料論）」

児童担当の専門性として一番重要な要素（能力）でもある本の選書（評価）をテキスト

を用いて行います。その方法は班編成で児童図書館の「選書会議」に参加しているつもりで１冊のテキストについて班ごとに議論します。ディスカッションでは感性の違い、考え方の違いを新鮮な感動を持って体験する場面もあり、コミュニケーションの意義を学ぶことができます。また、評価の発表を聞くことで他の班のテキストの読み取り方、違いなどを知り改めて資料への興味や関心も深まるようです。テキストはすべてのジャンルにあたることができないので児童書の構成上資料の多い、物語、絵本、科学の本と、個人でレポートを提出してもらっている伝記の評価をします。

様々な資料があるということ、評価することの難しさを知ってもらいます。

３．「読書と豊かな人間性」

人間性とは何か、豊かさとは何かという意味を本と結び付けながら考えてみることから始め、読書の意義に到達させます。

「子ども観」では司書教諭の使命である子どもと本を結びつけるために子どもを知ること、本を知ることが前提ですので、まず先人の学者たちの歴史的な子ども観に耳を傾けて彼らの考え方から、普遍的な子ども像に近づき、今の子どもの現実と照らし合わせてみます。

「読むということ」が人間にどのような恩恵を与えてきたか、根源的なリテラシーについて考えます。聞く、話すという能力も言葉を理解していることと同義ですから、「読書教育」の中では、“読書会”の実践をグループで行い、記録にまとめ発表します。テキストには絵本を使用しますが、思っていた以上に絵本の奥深さを知ることができるようです。また、本来“感想文”は主観で書く個人的なものですが、実践では「みんなで書く感想文」としてグループで仕上げます。テキストは同一の誰もが周知の昔話でも、グループごとの発表では結論が微妙に違っていて興味深さを感じるものです。楽しく書く読書指導の一方法です。

「発達段階と読書」は子どもの年齢ごとの読書能力、興味の違いなどを資料に基づき検証します。

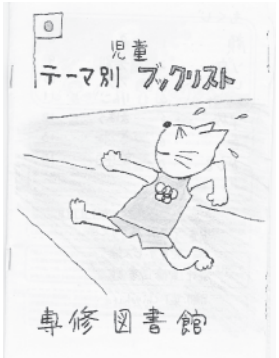
「読書資料の種類と活用」、「読書資料の特性」は具体的に絵本、物語、ノンフィクションの資料を紹介します。

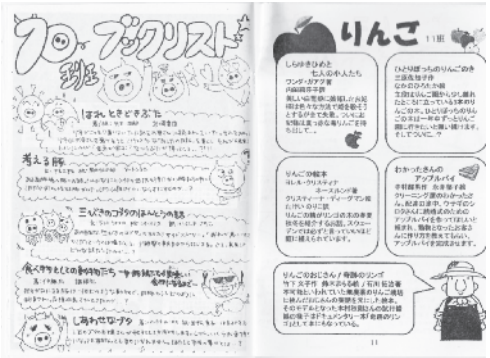
「読書の手がかりと読書体験のひろがり」では読書能力に差がある児童、生徒に本と出会うための手段、方法をブックトーク、アニマシオン、読み聞かせ、ペープサート、エプロンシアター、クイズなどで紹介します。また、エピソードなどをもとに本との出会いがどれだけ多くの影響力をもっているかということを知ってもらいます。

授業の最後の感想で「本が読みたくなった」や「読書の大切さがわかった」という感想を多くもらいます。体験や実例など具体的な話を織り込んでの授業なのでわかりやすく受け止めてもらえているのではないかと思います。

おわりに

公共図書館は不特定多数の子ども達が対象で、学校図書館は特定少数という違いがありますが、司書としての接し方は同じです。最近、公益財団法人日本図書館協会が、「子どもの利用マナーの低下」というアンケート結果を公表していましたが、図書館員の子どもの応対の仕方の研修が必要という結論を見て時代を感じました。公共図書館カウンター業務に従事する図書館員が正規、非正規、指定管理者雇用の図書館員というように多様化し、対応の共通マニュアルでもなければ子どもに注意もできないというような現状を知るにつけ、図書館員のコミュニケーション能力について考えさせられます。また、カウンターですべての年齢（おとなと子ども）を相手にすることの限界も感じます。児童のためのカウンターの設置が必要とされる時代が来ていると思います。学校図書館のようにいつも同じ図書館員がカウンターにいる安心感が公共図書館にも必要ではないかと思います。図書館の顔である「信頼できる話せる司書」が重要な存在になるでしょう。





図書館実習を終えて

むつ市立図書館　ネットワーク情報学部ネットワーク情報学科3年　**丸　夏菜恵**

私は青森県のむつ市にあるむつ市立図書館で４日間実習をさせて頂きました。むつ市立図書館は子どものための閲覧室、一般書の閲覧室等の図書館としての用途の他に、市民に解放する展示・集会等の用途に使用できるスペースを備え、平成 12 年に開館しました。市町村合併によって平成 17 年には川内、大畑、脇野沢の３つの分館も設置され、市民に広く利用されています。

まず１日目は説明を聞きながら館内見学をし、図書整理の仕方を学び、カウンター業務をさせていただきました。映画監督の川島雄三記念室があるのはこの図書館の特徴だと思います。書庫も見学させていただいたのですが、寄贈された資料であふれていました。自分で処理するよりも寄贈した方が楽だと考える人も多いようで困っているそうです。夏休みということもあり、館内には子どもがたくさん来ていました。カウンター業務では利用者と交流を持つことも出来て楽しく学ぶことが出来ました。

テラスを中央に、一般書ホール（奥）とこども書架コーナー（手前）がありました

２日目はカウンター業務に加え、配架、資料の装備を行いました。一般ホールの配架をお手伝いしたのですが、想像以上に集中力と体力を使う作業でした。一般ホールだけでも 30 の棚がありその中から配架場所を見つけ館内を歩き回るので、一通り配架し終わると汗をかいていました。また、むつ市立図書館は火曜日に業者から送られてくる新刊を装備・配架するそうで、私は登録の済んだ資料に新刊の目印となるシールを貼り、配架する作業をさせていただきました。新刊コーナーには簡単な POP も展示するため、その作成やコーナー作りがとても楽しかったです。

３日目はホームページに載せる書籍紹介の原稿を書かせていただきました。取り組んでみると、200 字以内という制限の中で要点をまとめて紹介するということに苦戦しました。パソコンを使っての資料の登録も行い、講義で学んだコピーカタロギングとオリジナルカタロギングを経験することが出来ました。作業を通して、資料に ISBN がついているのといないのでは登録作業量に大分差があることを知りました。机上ではわからなかったことをたくさん知ることが出来ました。

４日目は図書館で万華鏡を作る工作教室が行われるため、まずその準備のお手伝いに加わりました。子どもたちがビーズの取り合いをしないように１つ１つ均等に色と量を配分したり、ばらまくことが無いように進行手順を考えたりと、細部に行き渡る企画がされていて感銘を受けました。職員の方々が知恵を出し合って企画していったそうで、準備を通して私はサービスを提供する姿勢を学ぶことが出来ました。工作教室には定員一杯のたくさんの子どもたちが来てくれていて、嬉しそうな子どもたちの顔をカウンターで見ることができました。他に、製本のりや溶解液を使った本の修理もさせていただきました。

実家に近いし帰省するついでに、と思い特に大きな目的も無く図書館実習に応募した私ですが、実習を終えた今はやって良かったと心から思っています。講義で学んだ知識を実際に経験してみることで以前より理解が深まったと感じています。実践に勝るものは無いと思いました。何より、とても楽しかったです。あっという間の４日間でした。

図書館の方々には大変お世話になりました。通常業務がある忙しい中にもかかわらず、様々なことを教えてくださったおかげで貴重な経験が出来ました。この経験を自分の力にしていきたいと思います。担当の方、むつ市立図書館の皆様、本当にありがとうございました。

自然を眺めながらゆったり読書することができるスペースが設けられています

卒業生から
自然科学系大学図書館での日常業務

日本獣医生命科学大学付属図書館　司書　平成24年度法学部法律学科卒業　**鈴木　菜海**

司書課程の授業では、自然科学系の大学図書館について取り上げる機会があまりないので、図書館員となって２年目の鈴木さんの日常業務を紹介していただくことにしました。色々な事を吸収しながら、生き生きと過ごしていらっしゃる様子がわかります。これからの成長を楽しみにしています。（専修大学司書課程　荻原幸子）

１．図書館の概要

私が現在働いている日本獣医生命科学大学は、獣医学部獣医学科・獣医保健看護学科と応用生命科学部動物科学科・食品科学科の二学部四学科で、図書館の蔵書もこの学部学科構成に沿った主題で構成されています。資料の分類には日本十進分類法（NDC)を採用していますが、獣医学だけは獣医（649）で請求記号を取っていない点が本学図書館の大きな特徴です。NDC を独自に応用し、人間の医学に対応させた上で、記号の後ろに V(獣医学＝veterinary）をつけて請求記号を取っています。そうすることで医学書と獣医学書をあわせて症状毎に配架でき、獣医学書と並び図書館の蔵書の大部分を占める医学書を、相互に効率よく利用できるようにしています。

２．業務について

現在の私のメイン業務は雑誌業務で、書店や各学会等から毎日のように届く雑誌をシステムに登録し、雑誌架に並べるのが主な仕事です。国内で発行された雑誌はもちろん英語をはじめ様々な言語で書かれた海外の雑誌も扱っています。雑誌は出版流通のスピードが速く、一度入手し損なうともう手に入らないことが多々あるので、未着・欠号状況にも気を配っています。扱う雑誌は専門的なものばかりで、例えば動物の腫瘍に特化したものや食肉の専門誌など、世の中にこういった雑誌まであったのか、と驚くほどです。近年雑誌の電子化が大幅に進んでおり、主に理系の外国語雑誌などはそのほとんどが電子化していて、雑誌は即時性も求められるためオンラインで閲覧できるものに関しては徐々に紙媒体から電子ジャーナルに切替わっています。また、サブ業務として月に一度更新される新着図書の装備も私の仕事です。装備とは購入した図書や視聴覚資料に判子を押したりラベルを作成し貼ったりと利用できる状態にする作業で、月に約 70－80 点の資料を扱います。加えて、オンライン本棚サービスを使って、装備を終えて書架に並べた図書の PR もしています。

上記に挙げた個人で行う業務とは別に、全員で行うのがカウンター対応をはじめとした閲覧業務です。図書館によっては閲覧業務専任の職員がいる所や、カウンター業務を外部の業者に委託している所もありますが、本学では皆が交代で閲覧業務にあたっています。そうすることで、利用者のニーズを直接感じることができ、資料の構築や運営にも大きなメリットがあるからです。閲覧業務は、貸出しやレファレンスはもちろん、論文複写の受付や依頼、図書館内に設置してあるコンピューターの使い方のヘルプといったところまで多岐に渡っています。一番大変だと感じているのが大学図書館の特徴的な業務のひとつである、自館にない資料を他館から取り寄せたり他館からの求めに応じて資料を送付したりする大学図書館間で協力して行う業務です。恥ずかしながら大学時代はこのサービスを利用し資料を取り寄せたことがなく、働き始めてその実態を把握しました。主に複写物を融通しあうのですが、著作権の制約などでスムーズに行かないことも多々あります。また、サービス加盟の大学に当該資料所蔵館がないときは国立国会図書館に、それでも見つからない場合は大英図書館に問い合わせるなどします。貴重な資料であればあるほど一筋縄ではかないことが多いですが、資料を見つけ出し利用者に提供できた際には大きな達成感が味わえる業務です。

３．おわりに

自然科学系の図書館、理系の図書館と言うと、文系の自分とは無縁の世界だろうと考えてしまうかもしれませんが、一概にそうとは言えません。たとえば獣医というキーワードで検索をかけてみると、獣医療をとりまく様々な視点がみえてきます。動物病院の”経営”についてなどもその視点のひとつ。私の場合は、獣医療に関わる”法律”や動物の”権利”などの分野に対して、大学時代に法学を学んだ経験から親しみやすさを覚えました。他にも動物の出てくるエッセイや小説などもあります。少し視点を変えてみるだけで、どの分野にも興味を持てる部分や取っ付きやすい部分がきっとあります。自分は文系だから理系の話はムリだ！などと思わず、ぜひ自然科学系図書館の世界に飛び込んでみてください。

館内にさり気なく動物の剥製があるのも本学図書館の特色です

学芸員課程

博物館と関連領域の連携

筑波大学大学院図書館情報メディア研究科図書館情報メディア専攻博士前期課程在学中　小貫　智晴（平成25年度文学部人文・ジャーナリズム学科卒業）

１．はじめに

私は専修大学文学部人文・ジャーナリズム学科を平成 25 年度に卒業し、現在は筑波大学大学院図書館情報メディア研究科博士前期課程に所属しています。私が卒業研究として取り組み、また現在も研究対象としているのは「MLA 連携」です。

２．「MLA 連携」とは何か

MLA 連携とは、文部科学省によれば「ミュージアム（Museum）・図書館（Library）・文書館（Archives）の連携のこと。それぞれの頭文字をとって MLA と呼ばれる。いずれも文化的情報資源を収集・蓄積・提供する公共機関であるという共通点を持ち、情報資源のアーカイブ化等の課題を共有していることから、近年、連携の重要性が認識されてきている。」と定義されています。しかしこの定義では、MLA 連携というのがどのような活動なのか具体的に示されていません。それというのも、MLA 連携が日本に入ってきたのは 1990 年代の前半、本格的に議論されるようになったのは 2007 年頃とつい最近の事であり、まだまだ研究の蓄積が薄いためです。

現在の日本では様々な連携の形が模索されている段階であり、本当に連携が必要なのかも含め、研究が必要な分野なのです。

MLA 連携という単語を使ってしまうと、さも特別な事を主張しているように聞こえるかもしれませんが、実際には至極当たり前の事を言っているだけです。

例えば自分の住んでいる地域の歴史を知りたいと考えたとき、地域史に関する図書を使えば自分の住んでいる地域についてまとめられた情報に触れる事ができます。これは MLA で言えば L に当たります。また、民具を見れば実際にこの地域ではどのような生活が営まれてきたのかがわかります。これは MLA の M、博物館資料になります。また、文書資料は人びとの生活の記録であり、地域の歴史を詳細に知る事ができます。これは MLA の A、文書館資料です。このように、私たちが何かを知りたいと考えた時、情報は MLA それぞれの分野にありますし、MLA がそれぞれ持っている情報に基づいて新しい資料が作られたりもします。

写真１．民具

また、博物館の中に図書館が設置されていたり、図書館で文書類を扱っていたり、MLA は完全に機能として分かれているわけではありません。MLA とは互いに密接に関係しているのです。

ここで少し注意してほしいのは、MLA 連携であって、MLA 融合ではないということです。MLA は重なり合う部分があるとは言え、あくまで別々の機能を持った機関です。博物館の貴重な資料を図書館のように誰にでも貸し出すことはできませんし、反対に図書館の一般図書を展示ケースに入れることも普通しません。MLA は資料の収集基準や機能の方向性に違いがあり、完全に統一してしまうと問題が起きてしまいます。

３．MLA 連携の現状

ここからは具体的に MLA 連携にどのような形があるのかを見ていきます。

MLA 連携には大きく分けて、現在 3 つのパターンがあります。

①プログラムの協同作成

まずはプログラムの協同作成です。この形はとても幅が広く、目的に合わせて様々な形が採られています。

例えば、展示協力は広く行われています。MLA が同時期に同じテーマで特集を組む事例もあれば、巡回展示を行う例や資料を貸し出す形もあります。最近の例では、平成 26 年度に埼玉県立歴史と民俗の博物館で県立 MLA が連携した特別展が開かれました。この他にも、講座を協同で開催するプログラムや調査活動での協力、地域の公共図書館で近隣の博物館の無料入館証を貸し出す等の割引プログラムもあります。また、2011 年の震災によって被災した MLA 施設のために、多くの MLA が参加した支援プログラムも存在します。

プログラムの協同作成は、それぞれの機関の抱える事情に合わせて柔軟に行うことができます。

②電子資源での協同

次に電子資源での協同です。この形は 3 パターンの中でも最も活発かつ大規模に行われている形式です。

電子資源での協同は、共通データベースの作成や、横断検索システムの構築といった情報検索面での連携が主に行われており、一部では学習用ウェブページを協同作成する動き

もあります。この形の事例で最大規模のものに「世界デジタル図書館」があります。この連携はユネスコや世界各国の MLA 機関、大学等の学術機関が参加しており、名前の通り世界規模となっています。また日本国内では、国レベルの大規模連携として「国立国会図書館サーチ」があり、小規模では小布施町のように基礎自治体レベルで取り組んでいるところもあります。

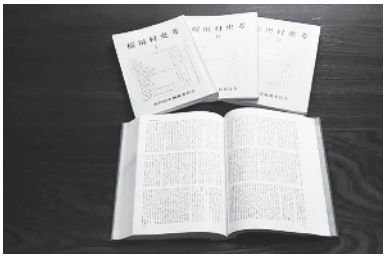


写真２．地域史関連図書（＊）

電子資源での協同は今や世界規模で進められる連携であり、今後さらに活性化するでしょう。

③施設の複合化

最後に挙げるのは MLA を 1 つの施設内に設置する施設の複合化です。この形は MLA 連携の中で最も強く 3 者を結びつけるものになります。

施設の複合化は日本の場合、実は海外に比べて早い段階から行われています。最も早いものに、1963 年開館の「京都府総合資料館」があります。世界的にも初期に作られた施設であり、MLA 連携という言葉ができる前から日本では連携が行われていた事がわかります。京都府総合資料館以外にも、茨城県立歴史館等多くの施設で博物館・図書館と文書館の複合施設が多く設置されています。最近の事例としては「芳賀町総合情報館」が 2008 年に開館しました。

施設の複合化によって MLA は直接的に結びつき、例えば日常的な展示であっても MLA 間で資料の相互利用ができるようになったり、利用者からの質問への総合的で迅速な対応が期待できます。これから新しく施設を設置する自治体にとって、施設の複合化は 1 つの選択肢になります。

４．MLA 連携のこれから

ここまで MLA 連携について書いてきましたが、近年では MLA だけの連携では足りなくなっています。

MLA 連携の発展型として「MALUI 連携」があります。MALUI とは、MLA に大学＝ University と産業＝ Industry を含め、さらに広い範囲で連携していこう、という動きです。大学は研究・教育機関ということで様々な学術情報や人的資源を持っていますし、近年では大学の社会貢献が求められています。地域の発展には産業が大きく影響しており、地域の歴史や文化を語る上で産業の存在は無視できません。これらと連携することで、より充実したプログラムの作成や情報の充実が期待できます。

MALUI 連携は、まだほとんど実践事例がありません。その数少ない事例に、国立国会図書館の東日本大震災アーカイブ「ひなぎく」があります。この活動には MLA 以外の機関も中核として参加しています。近年は大雨や地震、火山活動など、様々な大規模災害が発生し、全国各地に大きな被害を与えています。これらの災害に関する情報を如何に保存・活用していくかは社会全体が抱える大きな課題でもあり、私のこれからの研究課題でもあります。

５．おわりに

最後に資格課程を履修する皆さんへのアドバイスとして、在学中に多くの事に興味を持ち、積極的にチャレンジしてください。MLA 連携のように、社会のあらゆる部分は周囲との関係性で成り立っています。皆さんが大学で興味を持って経験したことは、どこかで繋がり役立ちます。資格課程は学部学科とはまた違ったことに関心を持つきっかけとなります。資格課程で得られる様々な経験を大学生活の刺激にしてください。あっという間の大学生活が、皆さんにとって充実したものであることを願っています。

写真３．家文書資料

＊写真 2 の図書

中山信名　修, 栗田寛　補. 1976.『宮崎報恩会版　新編常陸国史　全』. 崙書房
桜川村史編纂委員会. 1979.『桜川村史考Ⅰ』. 桜川村教育委員会
桜川村史編纂委員会. 1980.『桜川村史考Ⅱ』. 桜川村教育委員会
桜川村史編纂委員会. 1982.『桜川村史考Ⅲ』. 桜川村教育委員会

博物館実習を終えて

武蔵野音楽大学楽器博物館　文学部日本語学科3年　**日野　有紀子**

私は６月23日（月）から７月５日（土）の約２週間、武蔵野音楽大学楽器博物館で博物館実習を行いました。この博物館は大学付属の博物館で、入間キャンパス、江古田キャンパス、パルナソス多摩（教育研究施設）のそれぞれに博物館または楽器展示室があります。江古田キャンパスと入間キャンパスでは常設展示、パルナソス多摩では特別展示が行われていて、私が実習させていただいた入間キャンパスは、１階がピアノやチェンバロなどの鍵盤楽器、２階が和楽器、３階が世界の楽器となっています。

実習では、キャプション作成、館内点検、館員の前での博物館ガイド、ケース清掃、倉庫整理など様々な体験をさせていただきました。

主な仕事は、現在江古田キャンパスの新キャンパスプロジェクトにより江古田キャンパスの楽器博物館もリニューアルに向けて楽器がほとんど入間キャンパスに移動しているため、移動された楽器の整理を行うことでした。楽器博物館の展示物には沢山のピアノ、ハープなどといったかさばる物も多く、博物館の倉庫には入りきらないため、使われなくなった施設の倉庫や図書館の一部を借りて楽器を種類別に移動させて新たな位置台帳を作成しました。展示物には一つ一つに登録番号があり、かなり細かい楽器の備品にも登録番号がついています。博物館として資料を保存するということは、時代ごとに誕生した資料を次の世代へと残していくために大変重要な作業であり、展示物が紛失することはあってはならないことなので慎重な行動を心掛けました。

音楽系の大学附属博物館ならではの仕事として、東京大学病院七夕コンサートの補助も行いました。このコンサートでは武蔵野音楽大学のハープ奏者とフルート奏者が演奏するということで、取り扱いの難しいハープの運搬が主な仕事でした。今回は私物のハープでしたが、博物館の楽器を演奏会で使うこともあるそうです。博物館の楽器は見学案内の時以外は触れることが禁止されているので、資料をこういった形で活用し、本来の楽器の役割を果たし喜んでもらえることは、非常にやりがいのある仕事だと思います。同時に博物館の楽器を演奏するということは、楽器の保存状態を維持して演奏に備えた状態でいなければならないということに気づき、保存することの大切さを再認識することができました。

最も印象的だった実習内容は、見学案内を博物館職員の前で行ったことです。今回は一つ自分の好きな楽器を選び、実際に展示されたその楽器を５～10分で説明する形式で、私は「シタール」というインド楽器を選びました。楽器に関して初心者の人にも分かりやすく、専門家が聞いても面白いと思える説明を心掛けた結果、「わかりやすい説明であった」とよい評価をいただくことができました。反面、質問を行われた際に調査不足のために答えられなかった場面があり、学芸員として業務を行う際にはあらゆる質問に対して回答できるように多くの知識が必要になることを痛感しました。ここの学芸員の方々はほぼ全ての展示楽器の説明ができて、更に見学者の反応や雰囲気を感じ取ってガイドルートを毎回変えていて、博物館ガイドにマニュアルはなくそれぞれ自分の個性を出したガイドをしているそうです。知識を沢山持っているだけでなく、さらにその知識を取捨選択する能力も実務において必要だということを学びとりました。

博物館実習で実際に学芸員の仕事を肌で感じ博物館の展示物を取り扱うことにより、学校の講義だけでは気づかなかったようなことに気づき、新たな観点から見た博物館を知ることができました。

これから先どのような人生を歩んだとしても、このような経験は何回もできるものではなく大変貴重な財産となると思います。

博物館実習を終えて

かすみがうら市水族館　文学部環境地理学科4年　**平沼　茂晃**

私は、９月２日から９月17日の期間に、茨城県のかすみがうら市水族館で実習を受け入れていただきました。

かすみがうら市水族館は、1989年（平成元年）に同市内（旧新治郡出島村）の歩崎公園内に開館しました。コイ、ギンブナ等の霞ヶ浦に生息する淡水魚を中心に、アリゲーターガー、ピラルク等の熱帯魚、タツノオトシゴ、サビウツボ等の海水魚等の魚貝類、オオサンショウウオ、メキシコサンショウウオ等の両生類、フトアゴヒゲトカゲ、アルダブラゾウガメ等の爬虫類、ヘラクレスオオカブト、ゲンゴロウ等の昆虫類、ダイオウグソクムシ等の節足動物等、魚介類に限らない多種多様な生物が展示されています。

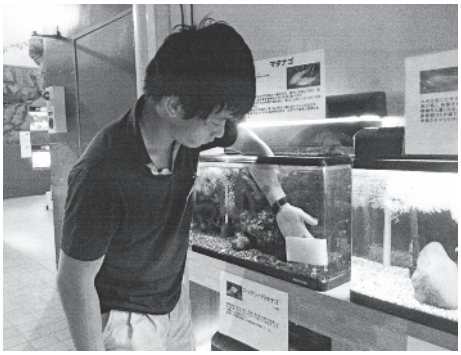
水族館という生きた資料を扱う仕事であり、専門的な学問の出身でなく、実習に臨むまでは不安であった反面、希望分野の実習ということもあり、専門的な実習が出来ることに期待をしていました。

実習では、水槽の清掃、水槽内の管理、飼料の準備と給餌、展示生物の管理、飼育器具の取り付けの補助等の仕事の体験をさせていただきました。具体的には、資料及び飼料収集、水槽内の塩分濃度の計測方法、水槽ごとの適正水温、塩分濃度の維持、飼育生物の健康状態のチェックポイント等、水槽管理の指導、水温飼料のプランクトン等の準備、飼料を食べない生物に飼料を食べさせる方法や同一の水槽内で均等に飼料を与える方法等の給餌の指導、水槽、生物ごとの注意点、水槽内の構造物のレイアウトのポイント等水槽清掃の指導など、大学の学芸員の講義では扱われない専門的な実習内容でした。初めて体験することばかりで、実習序盤は緊張してしまいましたが、資料への向き合い方や資料を第一に考え大切に扱う点など、考え方の基礎は講義で取り上げられた点と同じであることを再確認し、以降は資料に対して落ち着いて実習に取り組み、知識の吸収に努めることが出来ました。

実習の中でも、給餌の指導をして頂いた体験は、とても印象に残りました。水槽ごとの飼料の量について質問をしたところ、「平沼君は魚一匹一匹に対して愛情を注げるか」と返され、私は質問の意図を理解しかねてしまいました。与える量に決まりは無く、その日の魚一匹一匹の状態を見て、給餌の量を決め、またその時の捕食の様子から健康状態を把握するとのことでした。資料である生物に対する愛情や、それに基づく観察力や生物にかかわる知識への探求心が自分には不足していると痛感しました。

また、館内には、箱型の小型水槽だけでなく、大型の箱型水槽、中、大型魚やオオサンショウウオの展示されている大水槽、飼育ケージや陸ガメ用の飼育スペース等、バックヤードのものを含め100以上の飼育容器があります。毎朝、すべての展示水槽のガラス拭きを行い、平日はほぼ毎日一つづつ水槽の清掃を行うほか、水槽の配置の変更等、デスクワーク以外の仕事が多く、学芸員の仕事には体力も要求される事も実感しました。

これらの資料に関わる仕事に加え、館内外の清掃、受付業務も実習中に行い、学芸員の仕事に対する考え方が大きく改められました。大学での講義を受けて、学芸員は専門分野に対し、プロフェッショナルであり、また一般の人に対しそれを理解しやすくして広める仕事であると考えていました。しかし、今回の実習を通して、それらの事を理解してもらうには、老若男女を問わない来館者に、いかに気持ちよく館内を巡ってもらうか、いかに資料に興味を持ってもらうかが大切であり、そのために現場で求められる学芸員は、専門分野以外にも多くの知識とコミュニケーション能力、そして体力が必要であると実感し、実際の学芸員の現場に触れるという貴重な体験をさせて頂くことが出来きました。



データ編

平成26年度　資格課程履修者数

教職

学部	学科	1年 1部	1年 2部	2年 1部	2年 2部	3年 1部	3年 2部	4年 1部	4年 2部	小計 1部	小計 2部	合計
経済	経済	32	9	69	7	50	6	32	6	183	28	211
	国際経済	10	−	16	−	9	−	8	−	43	−	43
法	法律	40	12	35	11	26	8	19	11	120	42	162
	政治	19	−	16	−	4	−	8	−	47	−	47
経営	経営	27	−	58	−	44	−	30	−	159	−	159
商	マーケティング	28	8	34	3	31	4	31	11	124	26	150
	会計	2	−	11	−	7	−	11	−	31	−	31
文	日本語日本文	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
	日本語	22	−	31	−	21	−	18	−	92	−	92
	日本文学文化	30	−	31	−	20	−	20	−	101	−	101
	英語英米文	29	−	29	−	26	−	26	−	110	−	110
	人文	−	−	−	−	−	−	3	−	3	−	3
	哲学	13	−	13	−	6	−	5	−	37	−	37
	歴史学	50	−	70	−	32	−	28	−	180	−	180
	環境地理	10	−	10	−	11	−	4	−	35	−	35
	人文・ジャーナリズム	5	−	4	−	7	−	5	−	21	−	21
	心理	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
ネットワーク情報	ネットワーク情報	20	−	20	−	25	−	25	−	90	−	90
人間科	心理	3	−	3	−	3	−	5	−	14	−	14
	社会	10	−	10	−	8	−	6	−	34	−	34
大学院		9	−	−	−	−	−	−	−	9	−	9
科目等履修生		−	16	−	−	−	−	−	−	−	16	16
小計		359	45	460	21	330	18	284	28	1,433	112	1,545
合計		404		481		348		312		1,545		

司書

学部	学科	1年 1部	1年 2部	2年 1部	2年 2部	3年 1部	3年 2部	4年 1部	4年 2部	小計 1部	小計 2部	合計
経済	経済	−	2	2	2	5	2	2	4	9	10	19
	国際経済	2	−	−	−	−	−	2	−	4	−	4
法	法律	14	1	5	7	9	2	9	1	37	11	48
	政治	2	−	1	−	3	−	3	−	9	−	9
経営	経営	1	−	2	−	2	−	−	−	5	−	5
商	マーケティング	2	−	3	2	2	1	8	3	15	6	21
	会計	−	−	1	−	−	−	5	−	6	−	6
文	日本語日本文	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
	日本語	9	−	11	−	11	−	17	−	48	−	48
	日本文学文化	29	−	34	−	39	−	37	−	139	−	139
	英語英米文	3	−	2	−	3	−	2	−	10	−	10
	人文	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
	哲学	7	−	5	−	10	−	4	−	26	−	26
	歴史学	19	−	21	−	18	−	11	−	69	−	69
	環境地理	1	−	1	−	1	−	1	−	4	−	4
	人文・ジャーナリズム	6	−	6	−	3	−	10	−	25	−	25
	心理	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
ネットワーク情報	ネットワーク情報	2	−	1	−	16	−	7	−	26	−	26
人間科	心理	3	−	6	−	2	−	3	−	14	−	14
	社会	5	−	3	−	11	−	4	−	23	−	23
大学院		2	1	−	−	−	−	−	−	2	1	3
科目等履修生		−	4	−	−	−	−	−	−	−	4	4
小計		107	8	104	11	135	5	125	8	471	32	503
合計		115		115		140		133		503		

司書教諭

学部	学科	1年 1部	1年 2部	2年 1部	2年 2部	3年 1部	3年 2部	4年 1部	4年 2部	小計 1部	小計 2部	合計
経済	経済	−	−	−	−	4	−	−	−	4	−	4
	国際経済	−	−	−	−	−	−	1	−	1	−	1
法	法律	8	1	1	1	1	−	4	1	14	3	17
	政治	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
経営	経営	−	−	3	−	3	−	−	−	6	−	6
商	マーケティング	2	1	1	1	−	−	1	−	4	2	6
	会計	−	−	1	−	−	−	−	−	1	−	1
文	日本語日本文	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
	日本語	1	−	9	−	7	−	2	−	19	−	19
	日本文学文化	4	−	7	−	4	−	3	−	18	−	18
	英語英米文	−	−	−	−	1	−	1	−	2	−	2
	人文	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
	哲学	1	−	−	−	1	−	1	−	3	−	3
	歴史学	2	−	1	−	−	−	2	−	5	−	5
	環境地理	−	−	−	−	−	−	1	−	1	−	1
	人文・ジャーナリズム	−	−	1	−	−	−	1	−	2	−	2
	心理	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
ネットワーク情報	ネットワーク情報	−	−	−	−	1	−	6	−	7	−	7
人間科	心理	1	−	2	−	−	−	2	−	5	−	5
	社会	−	−	1	−	1	−	−	−	2	−	2
大学院		2	−	−	−	−	−	−	−	2	−	2
科目等履修生		−	2	−	−	−	−	−	−	−	2	2
小計		21	4	27	2	23	−	25	1	96	7	103
合計		25		29		23		26		103		

学芸員

学部	学科	1年 1部	1年 2部	2年 1部	2年 2部	3年 1部	3年 2部	4年 1部	4年 2部	小計 1部	小計 2部	合計
経済	経済	−	−	−	−	1	−	1	2	2	2	4
	国際経済	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
法	法律	1	−	1	−	1	1	1	−	4	1	5
	政治	3	−	−	−	−	−	2	−	5	−	5
経営	経営	1	−	1	−	1	−	−	−	3	−	3
商	マーケティング	1	−	2	1	4	−	5	2	12	3	15
	会計	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
文	日本語日本文	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
	日本語	1	−	1	−	2	−	−	−	4	−	4
	日本文学文化	3	−	7	−	4	−	3	−	17	−	17
	英語英米文	1	−	−	−	−	−	−	−	1	−	1
	人文	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
	哲学	5	−	2	−	3	−	1	−	11	−	11
	歴史学	22	−	31	−	22	−	2	−	77	−	77
	環境地理	4	−	1	−	2	−	2	−	9	−	9
	人文・ジャーナリズム	2	−	−	−	3	−	2	−	7	−	7
	心理	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
ネットワーク情報	ネットワーク情報	1	−	−	−	−	−	1	−	2	−	2
人間科	心理	−	−	3	−	−	−	−	−	3	−	3
	社会	2	−	−	−	5	−	−	−	7	−	7
大学院		3	1	−	−	−	−	−	−	3	1	4
科目等履修生		−	3	−	−	−	−	−	−	−	3	3
小計		50	4	49	1	48	1	20	4	167	10	177
合計		54		50		49		24		177		

平成26年度　教員免許状取得状況一覧

区分	学部	学科[専攻]	取得人数	中学1種 教科	中学1種 件数	高校1種 教科	高校1種 件数	中学専修 教科	中学専修 件数	高校専修 教科	高校専修 件数	合計
一部	経済	経済	9(2)	社会	8(2)	地理歴史	8(2)	−	−	−	−	23(5)
						公民	7(1)					
						商業	0					
		国際経済	6(3)	社会	5(3)	地理歴史	4(1)	−	−	−	−	14(7)
						公民	5(3)					
						商業	0					
	法	法律	14(5)	社会	11(4)	地理歴史	13(4)	−	−	−	−	33(11)
						公民	9(3)					
		政治	6(3)	社会	5(3)	地理歴史	5(2)	−	−	−	−	14(7)
						公民	4(2)					
	経営	経営	6(2)	社会	5(2)	公民	4(2)	−	−	−	−	11(5)
						商業	1(0)					
						情報	1(1)					
	商	マーケティング	13(1)	社会	7(1)	地理歴史	9(0)	−	−	−	−	26(1)
						公民	4(0)					
						商業	5(0)					
						情報	1(0)					
		会計	2(1)	−	−	商業	2(1)	−	−	−	−	2(1)
	文	日本語文語 [日本語学]	1(0)	国語	0	国語	1(0)	−	−	−	−	1(0)
		日本語文語 [日本文学文化]	0	国語	0	国語	0	−	−	−	−	0
						書道	0					
		日本語	14(10)	国語	10(8)	国語	14(10)	−	−	−	−	24(18)
		日本文学文化	20(16)	国語	16(13)	国語	20(16)	−	−	−	−	39(31)
						書道	3(2)					
		英語英米文	18(7)	外国語(英語)	16(7)	外国語(英語)	18(7)	−	−	−	−	34(14)
		人文 [哲学人間学]	1(0)	社会	1(0)	地理歴史	0	−	−	−	−	2(0)
						公民	1(0)					
		人文 [歴史学]	0	社会	0	地理歴史	0	−	−	−	−	0
						公民	0					
		人文 [環境地理学]	0	社会	0	地理歴史	0	−	−	−	−	0
						公民	0					
		人文 [社会学]	0	社会	0	地理歴史	0	−	−	−	−	0
						公民	0					
		哲	2(0)	社会	2(0)	地理歴史	1(0)	−	−	−	−	5(0)
						公民	2(0)					
		歴史	20(6)	社会	16(4)	地理歴史	20(6)	−	−	−	−	53(14)
						公民	17(4)					
		環境地理	3(0)	社会	3(0)	地理歴史	3(0)	−	−	−	−	7(0)
						公民	1(0)					
		人文・ジャーナリズム	3(1)	社会	2(1)	地理歴史	1(0)	−	−	−	−	5(1)
						公民	2(0)					
		心理	0	社会	0	公民	0	−	−	−	−	0
	ネットワーク情報	ネットワーク情報	14(3)	数学	11(1)	数学	11(2)	−	−	−	−	28(5)
						情報	6(2)					
	人間科	心理	3(2)	社会	1(1)	公民	3(2)	−	−	−	−	4(3)
		社会	2(0)	社会	1(0)	地理歴史	1(0)	−	−	−	−	2(0)
						公民	0					
	小計		157(62)	−	120(50)	−	207(73)	−	−	−	−	327(123)
二部	経済	経済	2(0)	社会	1(0)	地理歴史	1(0)	−	−	−	−	4(0)
						公民	2(0)					
						商業	0					
	法	法律	3(2)	社会	2(1)	地理歴史	2(1)	−	−	−	−	7(4)
						公民	3(2)					
	商	マーケティング	2(0)	社会	1(0)	地理歴史	0	−	−	−	−	3(0)
						公民	0					
						商業	2(0)					
	小計		7(2)	−	4(1)	−	10(3)	−	−	−	−	14(4)
科目等履修生			9(0)	国語	0	国語	0	国語	−	国語	−	13(0)
						書道	0					
				外国語(英語)	1(0)	外国語(英語)	1(0)	外国語(英語)	−	外国語(英語)	−	
				社会	4(0)	地理歴史	1(0)	社会	−	地理歴史	−	
						公民	5(0)			公民	−	
						商業	0			商業	−	
						情報	1(0)			−	−	
				数学	0	数学	0			−	−	
小計			9(0)	−	5(0)	−	8(0)	−	−	−	−	13(0)
大学院生			3(0)	−	−	−	−	国語	0	国語	0	4(0)
				−	−	−	−	外国語(英語)	0	外国語(英語)	0	
				−	−	−	−	社会	1(0)	地理歴史	2(0)	
										公民	1(0)	
										商業	0	
										情報	0	
小計			3(0)	−	−	−	−	−	1(0)	−	3(0)	4(0)
合計			176(64)	−	129(51)	−	225(76)	−	1(0)	−	3(0)	358(127)

1．（ ）内は、女子で内数である。
2．この表は、教員免許状一括申請をした数である。

平成26年度　教育実習先一覧（生田）

	所在地	実習校名	実習教科	実習学生		
				学部	学科	専攻
北海道・東北	岩手県	専修大学北上高等学校	公民	経済	経済	
	宮城県	仙台市立将監中学校	社会	商	マーケティング	
	宮城県	東北生活文化大学高等学校	英語	文	英語英米文	
	山形県	東海大学山形高等学校	地理歴史・公民	経済	国際経済	
	山形県	河北町立河北中学校	社会	経営	経営	
	福島県	福島県立郡山高等学校	地理歴史(日本史)	経済	国際経済	
	福島県	福島県立白河高等学校	英語	文	英語英米文	
	福島県	いわき市立中央台南中学校	社会	文	歴史	
関東	茨城県	茨城県立水戸桜ノ牧高等学校	国語	文	日本文学文化	
	茨城県	桜川市立桃山中学校	英語	文	英語英米文	
	茨城県	水戸市立内原中学校	英語	文	英語英米文	
	茨城県	日立市立大久保中学校	社会	文	歴史	
	茨城県	清真学園高等学校中学校	社会	文	人文・ジャーナリズム	
	茨城県	龍ケ崎市立城南中学校	数学	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	茨城県	茨城県立古河第三高等学校	数学	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	栃木県	大田原市立若草中学校	国語	文	日本語	
	群馬県	群馬県立伊勢崎高等学校	公民	経済	経済	
	群馬県	群馬県立前橋商業高等学校	商業	商	会計	
	群馬県	群馬県立前橋商業高等学校	商業	商	会計	
	群馬県	群馬県立館林高等学校	地理歴史	文	歴史	
	埼玉県	埼玉栄高等学校	地理歴史	経済	経済	
	埼玉県	さいたま市立指扇中学校	英語	文	英語英米文	
	埼玉県	埼玉県立坂戸高等学校	英語	文	英語英米文	
	埼玉県	狭山市立柏原中学校	社会	文	環境地理	
	埼玉県	ふじみ野市立大井西中学校	数学	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	埼玉県	埼玉県立草加高等学校	数学	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	埼玉県	和光市立大和中学校	社会	人間科	社会	
	千葉県	野田市立第二中学校	社会	商	マーケティング	
	千葉県	多古町立多古中学校	国語	文	日本語	
	千葉県	千葉県立柏陵高等学校	国語	文	日本文学文化	
	千葉県	南房総市立三芳中学校	国語	文	日本文学文化	
	千葉県	千葉市立泉谷中学校	英語	文	英語英米文	
	千葉県	千葉県立匝瑳高等学校	英語	文	英語英米文	
	千葉県	千葉県立匝瑳高等学校	公民	文	哲	
	千葉県	西武台千葉中学校・高等学校	地理歴史	文	歴史	
	千葉県	市川市立第六中学校	社会	文	歴史	
	千葉県	千葉県立大多喜高等学校	地理歴史	文	歴史	
	千葉県	千葉県立千葉女子高等学校	公民	文	人文・ジャーナリズム	
	東京都	八王子学園八王子高等学校	公民	経済	経済	
	東京都	東京都立雪谷高等学校	地理歴史	経済	国際経済	

	所在地	実習校名	実習教科	実習学生		
				学部	学科	専攻
関東	東京都	専修大学附属高等学校	公民	経営	経営	
	東京都	朋優学院高等学校	公民	経営	経営	
	東京都	専修大学附属高等学校	公民	商	マーケティング	
	東京都	府中市立府中第二中学校	社会	商	マーケティング	
	東京都	東京都立南平高等学校	地理歴史	商	マーケティング	
	東京都	目黒区立東山中学校	国語	文	日本語	
	東京都	専修大学附属高等学校	国語	文	日本語	
	東京都	北区立桐ケ丘中学校	国語	文	日本語	
	東京都	東京都立杉並総合高等学校	国語	文	日本語	
	東京都	葛飾区立桜道中学校	国語	文	日本文学文化	
	東京都	専修大学附属高等学校	国語	文	日本文学文化	
	東京都	専修大学附属高等学校	英語	文	英語英米文	
	東京都	板橋区立高島第一中学校	英語	文	英語英米文	
	東京都	専修大学附属高等学校	英語	文	英語英米文	
	東京都	専修大学附属高等学校	地理歴史	文	哲	
	東京都	東京都立東大和南高等学校	地理歴史(日本史)	文	歴史	
	東京都	東京都立調布北高等学校	地理歴史(日本史)	文	歴史	
	東京都	淑徳中学・高等学校	社会・地理歴史・公民	文	歴史	
	東京都	郁文館中学・高等学校	社会	文	歴史	
	東京都	淑徳中学・高等学校	社会・地理歴史・公民	文	歴史	
	東京都	修徳高等学校	地理歴史	文	歴史	
	東京都	東京都立府中高等学校	地理歴史	文	歴史	
	東京都	専修大学附属高等学校	地理歴史	文	人文・ジャーナリズム	
	東京都	東京都立調布南高等学校	公民	文	人文・ジャーナリズム	
	東京都	練馬区立上石神井中学校	数学	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	東京都	専修大学附属高等学校	数学	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	東京都	専修大学附属高等学校	情報	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	東京都	専修大学附属高等学校	数学	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	東京都	東京成徳大学中学校・高等学校	数学	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	東京都	帝京中学高等学校	数学	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	東京都	東京都立井草高等学校	公民	人間科	心理	
	東京都	淑徳巣鴨中学・高等学校	英語	文学研究科		英語英米文学
	神奈川県	横浜市立瀬谷中学校	社会	経済	経済	
	神奈川県	神奈川県立伊志田高等学校	地理歴史	経済	経済	
	神奈川県	神奈川県立百合丘高等学校	地理歴史・公民	経済	経済	
	神奈川県	神奈川県立瀬谷高等学校	公民	経済	経済	
	神奈川県	神奈川県立西湘高等学校	地理歴史	経済	経済	
	神奈川県	神奈川県立新城高等学校	地理歴史	経済	経済	
	神奈川県	鎌倉市立御成中学校	社会	経済	国際経済	
	神奈川県	神奈川県立百合丘高等学校	公民	経済	国際経済	

平成26年度　教育実習先一覧（生田）

	所在地	実習校名	実習教科	実習学生		
				学部	学科	専攻
関東	神奈川県	横浜市立中和田中学校	社会	経営	経営	
	神奈川県	座間市立栗原中学校	社会	商	マーケティング	
	神奈川県	横浜市立南戸塚中学校	社会	商	マーケティング	
	神奈川県	伊勢原市立中沢中学校	社会	商	マーケティング	
	神奈川県	厚木市立睦合東中学校	国語	文	日本語	
	神奈川県	川崎市立稲田中学校	国語	文	日本語	
	神奈川県	横浜市立浜中学校	国語	文	日本語	
	神奈川県	横浜市立屏風浦小学校	全科	文	日本語	
	神奈川県	横浜市立富岡中学校	国語	文	日本語	
	神奈川県	神奈川県立生田高等学校	国語	文	日本語	
	神奈川県	神奈川県立平塚中等教育学校	国語	文	日本語	
	神奈川県	鎌倉女子大学中等部・高等部	国語	文	日本語	
	神奈川県	川崎市立大師中学校	国語	文	日本語	
	神奈川県	神奈川県立湘南台高等学校	国語	文	日本文学文化	
	神奈川県	横浜市立泉が丘中学校	国語	文	日本文学文化	
	神奈川県	神奈川県立大船高等学校	国語	文	日本文学文化	
	神奈川県	横浜市立日限山中学校	国語	文	日本文学文化	
	神奈川県	神奈川県立横浜平沼高等学校	国語	文	日本文学文化	
	神奈川県	神奈川県立横須賀高等学校	国語	文	日本文学文化	
	神奈川県	神奈川県立生田東高等学校	英語	文	英語英米文	
	神奈川県	立花学園高等学校	英語	文	英語英米文	
	神奈川県	神奈川県立海老名高等学校	英語	文	英語英米文	
	神奈川県	川崎市立犬蔵中学校	英語	文	英語英米文	
	神奈川県	神奈川県立瀬谷高等学校	英語	文	英語英米文	
	神奈川県	神奈川県立市ケ尾高等学校	地理歴史(世界史)	文	哲	
	神奈川県	横浜市立戸塚高等学校	地理歴史	文	歴史	
	神奈川県	鎌倉市立岩瀬中学校	社会	文	歴史	
	神奈川県	横浜市立大綱中学校	社会	文	歴史	
	神奈川県	神奈川県立希望ケ丘高等学校	地理歴史	文	歴史	
	神奈川県	桐光学園中学・高等学校	社会・地理歴史	文	環境地理	
	神奈川県	横浜市立岡村中学校	数学	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	神奈川県	平塚市立旭陵中学校	数学	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	神奈川県	神奈川県立生田東高等学校	情報	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	神奈川県	逗子開成高等学校	情報	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	神奈川県	厚木市立南毛利中学校	社会	人間科	心理	
	神奈川県	横浜市立万騎が原中学校	社会	人間科	社会	
	神奈川県	神奈川県立二宮高等学校	地理歴史・公民	人間科	社会	
甲信越	新潟県	糸魚川市立糸魚川中学校	社会	商	マーケティング	
	新潟県	新潟県立十日町高等学校	国語	文	日本語	
	新潟県	新潟県立高田北城高等学校	国語	文	日本語	

	所在地	実習校名	実習教科	実習学生		
				学部	学科	専攻
甲信越	新潟県	田上町立田上中学校	国語	文	日本文学文化	
	新潟県	新潟県立巻高等学校	地理歴史(世界史)	文	歴史	
	新潟県	新潟県立加茂高等学校	英語	文学研究科		英語英米文学
	新潟県	阿賀町立三川中学校	英語	文学研究科		英語英米文学
	山梨県	山梨市立山梨北中学校	国語	文	日本文学文化	
	山梨県	笛吹市立春日居中学校	英語	文	英語英米文	
	長野県	長野県中野西高等学校	公民	経済	経済	
	長野県	長野県穂高商業高等学校	商業	商	マーケティング	
	長野県	長野県長野商業高等学校	商業（簿記）	商	会計	
	長野県	長野県上田染谷丘高等学校	国語	文	日本文学文化	
	長野県	伊那市立高遠中学校	国語	文	日本文学文化	
	長野県	長野県須坂高等学校	英語	文	英語英米文	
	長野県	中川村立中川中学校	英語	文	英語英米文	
北陸	富山県	富山県立滑川高等学校	地理歴史・公民	経済	経済	
	石川県	金沢市立泉中学校	社会	経済	経済	
	石川県	石川県立輪島高等学校	公民	経営	経営	
	石川県	七尾市立能登香島中学校	国語	文	日本文学文化	
	石川県	石川県立七尾高等学校	地理歴史(日本史)	文	歴史	
東海	岐阜県	岐阜県立中津商業高等学校	商業	商	マーケティング	
	静岡県	静岡県立富士宮西高等学校	国語	文	日本文学文化	
	静岡県	静岡県立浜名高等学校	英語	文	英語英米文	
	静岡県	沼津市立大岡中学校	社会	文	歴史	
	静岡県	静岡市立高等学校	地理歴史	文学研究科		歴史学
	愛知県	名古屋高等学校	国語	文	日本語	
	愛知県	名古屋市立緑高等学校	地理歴史(日本史)	文	歴史	
	愛知県	愛知県立新城東高等学校	情報	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	三重県	亀山市立中部中学校	数学	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
近畿	奈良県	天理高等学校	地理歴史(日本史)	商	マーケティング	
	和歌山県	和歌山県立新宮高等学校	地理歴史・公民	商	マーケティング	
中国	鳥取県	米子市立弓ヶ浜中学校	国語	文	日本文学文化	
	広島県	東広島市立高屋中学校	国語	文	日本文学文化	
	広島県	銀河学院高等学校	公民	文	歴史	
	山口県	宇部市立東岐波中学校	社会	文	歴史	
	山口県	山口県立萩高等学校	地理歴史(地理)	文	環境地理	
四国	愛媛県	済美平成中等教育学校	公民（倫理）	人間科	心理	
九州・沖縄	福岡県	福岡県立武蔵台高等学校	地理歴史(世界史)	文	歴史	
	福岡県	福岡県立福島高等学校	地理歴史	文	環境地理	
	熊本県	長洲町立長洲中学校	社会	経営	経営	
	沖縄県	興南高等学校	地理歴史	経済	経済	
	沖縄県	興南高等学校	国語	文	日本文学文化	

平成26年度　教育実習先一覧（一部神田）

	所在地	実習校名	実習教科	実習学生	
				学部	学科
北海道	北海道	東海大学付属第四高等学校	公民	法	法律
	北海道	旭川市立明星中学校	社会	法	政治
関東	茨城県	笠間市立友部中学校	社会	法	政治
	茨城県	水城高等学校	地理歴史	法	政治
	埼玉県	正智深谷高等学校	地理歴史(世界史)	法	法律
	埼玉県	栄東高等学校	地理歴史(日本史)	法	法律
	埼玉県	蓮田市立蓮田南中学校	社会	法	政治
	東京都	昭和第一学園高等学校	地理歴史	法	法律
	東京都	専修大学附属高等学校	公民	法	法律
	東京都	専修大学附属高等学校	地理歴史(世界史)	法	法律
	東京都	専修大学附属高等学校	地理歴史	法	法律

	所在地	実習校名	実習教科	実習学生	
				学部	学科
関東	東京都	江戸川区立瑞江中学校	社会	法	法律
	東京都	三輪田学園中学校	社会	法	法律
	東京都	専修大学附属高等学校	地理歴史	法	法律
	東京都	上野学園中学校	社会	法	法律
	東京都	東京都立小川高等学校	公民(政治経済)	法	政治
	神奈川県	神奈川県立横浜立野高等学校	地理歴史	法	法律
	神奈川県	神奈川県立横浜緑ヶ丘高等学校	地理歴史(世界史)	法	法律
	神奈川県	横浜創英高等学校	地理歴史(世界史)	法	政治
甲信越	山梨県	甲斐市立竜王北中学校	社会	法	法律
東海	静岡県	御殿場市立原里中学校	社会	法	法律
近畿	大阪府	吹田市立片山中学校	社会	法	法律

平成26年度　教育実習先一覧（二部神田）

	所在地	実習校名	実習教科	実習学生	
				学部	学科
東北	青森県	十和田市立十和田中学校	社会	科目等履修生	
	秋田県	聖霊女子短期大学付属高等学校	数学	科目等履修生	
関東	茨城県	茨城県立結城第一高等学校	地理歴史	法	法律
	千葉県	渋谷教育学園幕張高等学校・付属中学校	社会	法	法律
	千葉県	千葉県立津田沼高等学校	英語	科目等履修生	
	東京都	大成高等学校	地理歴史	法	法律
	東京都	東京都立深川高等学校	公民	法	法律

	所在地	実習校名	実習教科	実習学生	
				学部	学科
関東	東京都	日の出町立大久野中学校	社会	法	法律
	東京都	東京都立六本木高等学校（定時制）	商業	商	マーケティング
	東京都	豊島区立千登世橋中学校	社会	商	マーケティング
	神奈川県	横浜市立野庭中学校	社会	経済	経済
甲信越	長野県	茅野市立長峰中学校	社会	経済	経済
	長野県	長野県田川高等学校	公民	科目等履修生	
中国	岡山県	岡山県作陽高等学校	公民	科目等履修生	

平成26年度　図書館実習先一覧

	所在地	実習館名	実習学生		
			学部	学科	専攻
東北	青森県	むつ市立図書館	ネットワーク情報	ネットワーク情報	

	所在地	実習館名	実習学生		
			学部	学科	専攻
関東	神奈川県	横浜市旭図書館	文	哲学	

平成26年度　博物館（館務）実習先一覧

	所在地	実習館名	実習学生		
			学部	学科	専攻
東北	秋田県	秋田市立赤れんが郷土館	法	法律	
関東	茨城県	古河歴史博物館	文	歴史	
	茨城県	かすみがうら市水族館	文	環境地理	
	栃木県	宇都宮美術館	文	哲	
	栃木県	栃木県立美術館	文	歴史	
	栃木県	栃木県立博物館	文	歴史	
	栃木県	小山市立博物館	文	歴史	
	群馬県	高崎市観音塚考古資料館	文	歴史	
	群馬県	高崎市少年科学館	経済	経済	
	埼玉県	武蔵野音楽大学楽器博物館	文	日本語	
	埼玉県	戸田市立郷土博物館	文	歴史	
	埼玉県	埼玉県立さきたま史跡の博物館	文	歴史	
	埼玉県	埼玉県こども動物自然公園	文	人文・ジャーナリズム	
	埼玉県	春日部市郷土資料館	人間科	社会	
	埼玉県	獅子博物館	商学研究科		商学
	千葉県	鎌ケ谷市郷土資料館	文	哲	
	千葉県	船橋市飛ノ台史跡公園博物館	文	歴史	
	東京都	日野市郷土資料館	経済	経済	
	東京都	進化生物学研究所	経営	経営	
	東京都	江東区中川船番所資料館	商	マーケティング	
	東京都	調布市郷土博物館	文	日本文学文化	
	東京都	進化生物学研究所	文	日本文学文化	
	東京都	家具の博物館	文	日本文学文化	
	東京都	弥生美術館	文	日本文学文化	
	東京都	野球殿堂博物館	文	日本文学文化	
	東京都	科学技術館	文	歴史	

	所在地	実習館名	実習学生		
			学部	学科	専攻
関東	東京都	町田市立自由民権資料館	文	歴史	
	東京都	くにたち郷土文化館	文	歴史	
	東京都	進化生物学研究所	文	環境地理	
	東京都	秩父宮記念スポーツ博物館	文	人文・ジャーナリズム	
	東京都	日本カメラ博物館	文	人文・ジャーナリズム	
	東京都	東京都井の頭自然文化園	人間科	社会	
	東京都	東京おもちゃ美術館	人間科	社会	
	東京都	科学技術館	商	マーケティング	
	東京都	進化生物学研究所	商	マーケティング	
	神奈川県	神奈川県立神奈川近代文学館	文	日本語	
	神奈川県	川崎市立日本民家園	文	日本文学文化	
	神奈川県	神奈川県立公文書館	文	日本文学文化	
	神奈川県	三溪園	文	哲	
	神奈川県	すどう美術館	文	歴史	
	神奈川県	大和市つる舞の里歴史資料館	文	歴史	
	神奈川県	平塚市博物館	文	歴史	
	神奈川県	秦野市立桜土手古墳展示館	文	歴史	
	神奈川県	シルク博物館	文	歴史	
	神奈川県	電車とバスの博物館	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	神奈川県	かわさき宙と緑の科学館	人間科	社会	
	神奈川県	はまぎんこども宇宙科学館	人間科	社会	
	神奈川県	神奈川県立歴史博物館	文学研究科		歴史学
甲信越	長野県	上田市立博物館	文	歴史	
北陸	石川県	小松市立宮本三郎美術館	商	マーケティング	
九州沖縄	佐賀県	佐賀県立名護屋城博物館	文	哲	

主な教員就職先一覧

就職年度	卒業年・学部・学科	就職先	職名	教科
平成22年度	平15 法・法律	小山市立間々田小学校	専任	全科
	平22 法・政治	学校法人中央学院（中央学院大学中央高等学校）	非常勤	
	平20 経営・経営	埼玉県立伊奈学園総合高等学校	非常勤	数学・情報
	平22 経営・経営	専修大学松戸高等学校	非常勤	情報
	平17 商・商業	神奈川県立相原高等学校	常勤	商業
	平22 商・マーケティング	横浜市立富士見中学校	非常勤	社会
	平22 商・会計	岐阜県立岐阜商業高等学校	常勤	商業
	平14 文・国文	学校法人明星学園（浦和学院高等学校）	常勤	英語
	平22 文・日本語日本文	神奈川県立厚木北高等学校	常勤期限付	国語
	平22 文・日本語日本文	学校法人麹町学園（麹町学園女子中学・高等学校）	常勤	国語
	平22 文・日本語日本文	専修大学玉名高等学校	常勤	国語
	平22 文・日本語日本文	学校法人明星学苑（明星中学高等学校）	非常勤	国語
	平22 文・日本語日本文	学校法人翔英学園（米子北高等学校）	非常勤	国語
	平22 文・日本語日本文	神奈川県立高等学校	常勤臨時的任用	国語
	平22 文・英語英米文	岐阜県立益田清風高等学校	常勤	英語
	平22 文・英語英米文	相模原市立二本松小学校	非常勤	全科
	平22 文・英語英米文	学校法人明徳学園（相洋中学校・相洋高等学校）	非常勤	英語
	平22 文・英語英米文	横浜市立大曽根小学校	専任	全科
	平22 文・英語英米文	学校法人国本学園（国本女子高等学校）	非常勤	英語
	平22 文・英語英米文	山梨県立都留高等学校	非常勤	英語
	平22 文・英語英米文	学校法人松韻学院（松栄高等学校）	専任	英語
	平22 文・英語英米文	学校法人明星学園（浦和学院高等学校）	常勤	英語
	平19 文・人文	白井市立南山中学校	専任	社会
	平21 文・人文	米子市立住吉小学校	専任	全科
	平22 文・人文	秋田県立横手清陵学院高等学校	常勤	地理歴史
	平21 ネットワーク情報・ネットワーク情報	柏崎市立柏崎小学校	産休代理	全科
	平22 ネットワーク情報・ネットワーク情報	埼玉県立三郷北高等学校	常勤期限付	数学
	平22 院経営・修士	学校法人北鎌倉女子学園（北鎌倉女子学園中学校・高等学校）	非常勤	情報
	平22 院商・修士	東京都立浅草高等学校　東京都立大崎高等学校 東京都立八王子桑志高等学校　東京都立新宿山吹高等学校 東京都立葛飾ろう学校　東京都立篠崎高等学校 埼玉県立富士見高等学校	非常勤	商業
	平22 院文・修士	学校法人川村学園（川村中学校・川村高等学校）	期限付	国語
	平22 院文・修士	海老名市立大谷中学校	専任	英語
平成23年度	平20 経済・経済	埼玉県立坂戸西高等学校	専任	情報
	平21 経済・経済	東京都立清瀬特別支援学校	期限付	社会
	平23 経済・経済	長野原町立西中学校	期限付（マイタウンティーチャー）	
	平17 経営・経営	埼玉県立志木高等学校	専任	情報
	平17 商・商業	横浜市立戸塚高等学校	臨時的任用	地理歴史
	平23 商・マーケティング	甲府市立甲府商業高等学校	期限付	商業・情報
	平22 文・日本語日本文	東京都立大崎高等学校	専任	国語
	平22 文・日本語日本文	川崎市立宮前平中学校	臨時的任用	国語
	平23 文・日本語日本文	学校法人嘉悦学園（かえつ有明中学校・高等学校 ）	非常勤	国語
	平23 文・日本語日本文	神奈川県立湘南高等学校	非常勤	国語
	平23 文・日本語日本文	上田市立第五中学校	臨時的任用	国語
	平23 文・日本語日本文	練馬区立南が丘中学校	期限付	国語
	平23 文・日本語日本文	千葉県立館山総合高等学校	期限付	国語
	平23 文・日本語日本文	学校法人錦城学園（錦城学園高等学校）	非常勤	国語
	平23 文・日本語日本文	東京都立南平高等学校	常勤	国語
	平17 文・英語英米文	千葉県立松戸向陽高等学校	専任	英語
	平20 文・英語英米文	神奈川県立座間総合高等学校	専任	英語
	平21 文・英語英米文	神奈川県立茅ヶ崎北陵高等学校	専任	英語
	平22 文・英語英米文	学校法人豊昭学園（豊島学院高等学校）	専任	英語
	平22 文・英語英米文	神奈川県立相模原青陵高等学校	専任	英語

主な教員就職先一覧

就職年度	卒業年・学部・学科	就職先	職名	教科
平成23年度	平22　文・英語英米文	学校法人東海大学（東海大学付属高輪台高等学校）	非常勤	英語
	平23　文・英語英米文	足立区立伊興中学校	期限付	英語
	平23　文・英語英米文	学校法人明泉学園（鶴川高等学校）	常勤	英語
	平23　文・英語英米文	横須賀市立横須賀総合高等学校	非常勤	英語
	平23　文・英語英米文	習志野市立第四中学校	常勤	英語
	平23　文・英語英米文	学校法人松韻学園（福島高等学校）	常勤	英語
	平23　文・英語英米文	横須賀市立鴨居中学校	専任	英語
	平21　文・人文	横浜市立藤が丘小学校	専任	全科
	平23　文・人文	学校法人明泉学園（鶴川高等学校）	非常勤	地理歴史・公民
	平23　文・人文	君津市立周西小学校	指導補助教員	
	平23　文・人文	河内町立河内中学校	常勤	社会
	平18　ネットワーク情報・ネットワーク情報	埼玉県立北本高等学校	専任	情報
	平23　ネットワーク情報・ネットワーク情報	朝霞市立朝霞第五中学校	専任	数学
	平23　ネットワーク情報・ネットワーク情報	神奈川県立鶴見総合高等学校	専任	情報
	平19　院経営・修士	東京都立杉並総合高等学校	専任	情報
	平23　院文・修士	静岡県立伊東商業高等学校	専任	英語
	平23　院文・修士	神奈川県立釜利谷高等学校	臨時的任用	英語
平成24年度	平21　経済・経済	厚木市立戸室小学校	専任	全科
	平21　経済・経済	東京都立清瀬特別支援学校	専任	特支小全科
	平24　経済・経済	学校法人淑徳学園 淑徳SC　中等部・高等部	非常勤	社会
	平24　経済・経済	鴨川市立鴨川中学校	臨時的任用	社会
	平20　経済・国際経済	学校法人大乗淑徳学園（淑徳巣鴨中学高等学校）	常勤	英語
	平23　法・法律	江東区立数矢小学校	専任	全科
	平23　法・法律	下妻市立下妻東部中学校	非常勤	社会
	平23　法・法律	川口市立青木中央小学校	臨時的任用	全科
	平24　法・法律	流山市立八木中学校	非常勤	社会
	平24　法・法律	射水市立小杉中学校	臨時的任用	社会
	平24　法・政治	横浜市立緑が丘中学校	専任	社会
	平24　法・政治	高崎市立中尾中学校	専任	社会
	平24　法・政治	宇都宮市立清原中学校	非常勤	社会
	平21　経営・経営	足立区立渕江小学校	専任	全科
	平16　商・商業	学校法人佐野日本大学学園（佐野日本大学中等教育学校）	専任	社会
	平21　商・商業	船橋市立習志野台中学校	専任	社会
	平24　商・マーケティング	千葉市教育センター	家庭訪問相談員	全科
	平24　商・会計	静岡県立相良高等学校	非常勤	商業
	昭62・文・国文	神奈川県教育委員会	専任	特支小全科
	平21　文・日本語日本文	日の出町立平井小学校	専任	全科
	平22　文・日本語日本文	神奈川県立寒川高等学校	専任	国語
	平22　文・日本語日本文	神奈川県立茅ヶ崎高等学校	専任	国語
	平22　文・日本語日本文	川崎市立宮前平中学校	専任	国語
	平23　文・日本語日本文	神奈川県立大和南高等学校	専任	国語
	平23　文・日本語日本文	練馬区立南が丘中学校	専任	国語
	平24　文・日本語日本文	沼津市立大岡中学校	専任	国語
	平24　文・日本語日本文	町田市立小山田中学校	期限付	国語
	平24　文・日本語日本文	君津市立八重原中学校	その他（指導補助教員）	
	平24　文・日本語日本文	学校法人加藤学園 加藤学園高等学校	非常勤	国語
	平24　文・日本語日本文	新潟県立羽茂高等学校	常勤	国語
	平24　文・日本語日本文	長野県蟻ヶ崎高等学校 長野県松本美須々ヶ丘高等学校	非常勤	国語
	平22　文・英語英米文	学校法人豊昭学園　豊島学院高等学校	専任	英語
	平23　文・英語英米文	神奈川県立山北高等学校	専任	英語
	平24　文・英語英米文	茨城県立盲学校	常勤	英語
	平24　文・英語英米文	神栖市立波崎第三中学校	専任	英語
	平24　文・英語英米文	横浜市立庄戸中学校	専任	英語

主な教員就職先一覧

就職年度	卒業年・学部・学科	就職先	職名	教科
平成24年度	平24　文・英語英米文	学校法人矢野学園 （八王子実践中学・高等学校）	常勤	英語
	平24　文・英語英米文	学校法人富田学園 岐阜東中学校・高等学校	常勤	英語
	平24　文・英語英米文	茅ケ崎市立赤羽根中学校	専任	英語
	平24　文・英語英米文	専修大学附属高等学校	非常勤	英語
	平23　文・人文	千葉市立朝日ヶ丘中学校	専任	社会
	平24　文・人文	菊川市立菊川西中学校	専任	社会
	平24　ネットワーク情報・ネットワーク情報	千葉県立袖ヶ浦高等学校	専任	情報
	平24　ネットワーク情報・ネットワーク情報	学校法人玉川学園 玉川学園中・高等部	常勤	数学
	平24　院経済・修士	神奈川県立生田高等学校	非常勤	公民
	平22　院経営・修士	神奈川県立茅ヶ崎高等学校	専任	情報
	平24　院文・修士	学校法人早稲田高等学校 早稲田中学校	非常勤	社会
	平24　院文・修士	神奈川県立平塚湘風高等学校	非常勤	国語
平成25年度	平23　経済・経済	青梅市立今井小学校	専任	図工
	平24　経済・経済	茂原市立南中学校	非常勤	社会
	平25　経済・経済	千葉県立我孫子東高等学校	専任	公民
	平25　経済・経済	須賀川市立西袋第二小学校	臨時的任用	全科
	平23　法・法律	学校法人武陽学園（西武台高等学校）	非常勤	社会・地理歴史・公民
	平23　法・法律	大田区立徳持小学校	専任	全科
	平25　法・法律	相模原市立相陽中学校	非常勤	社会
	平24　法・政治	神奈川県立横浜南養護学校	専任	社会
	平23　経営・経営	学校法人日本体育大学　柏日体高等学校	非常勤	地理歴史
	平25　経営・経営	学校法人白樺学園（白樺学園高等学校）	非常勤	商業
	平25　経営・経営	学校法人田中学園（水戸葵陵高等学校）	非常勤	公民
	平23　商・マーケティング	北九州市立青葉小学校	専任	全科
	平25　商・マーケティング	石川県立宝達高等学校	常勤	地理歴史・公民
	平25　商・マーケティング	栃木県立高根沢高等学校	常勤	商業
	平25　商・マーケティング	茨城県立水戸商業高等学校	常勤	商業
	平25　商・マーケティング	長野県阿智高等学校	非常勤	情報・商業
	平22　文・日本語日本文	長崎県立国見高等学校	常勤	国語
	平24　文・日本語日本文	町田市立小山田中学校	専任	国語
	平25　文・日本語日本文	川崎市立末長小学校	指導補助教員	
	平25　文・日本語日本文	学校法人中延学園（朋優学院高等学校）	非常勤	国語
	平25　文・日本語日本文	富山県立高岡工芸高等学校	非常勤	国語
	平25　文・日本語日本文	静岡市立高松中学校	常勤	国語
	平25　文・日本語日本文	能美市立辰口中学校	常勤	国語
	平25　文・日本語日本文	神奈川県立愛川高等学校	非常勤	国語
	平25　文・日本語日本文	神奈川県立横須賀大津高等学校	非常勤	国語
	平25　文・日本語日本文	那須町立黒田原中学校	期限付	国語
	平25　文・日本語日本文	学校法人成田山教育財団（成田高等学校）	非常勤	国語
	平25　文・日本語日本文	長崎県立波佐見高等学校	常勤	国語
	平25　文・日本語日本文	群馬県立富岡東高等学校	常勤	国語
	平19　文・英語英米文	神奈川県立城山高等学校	専任	英語
	平20　文・英語英米文	東京都立国際高等学校	専任	英語
	平21　文・英語英米文	川口市立仲町中学校	専任	英語
	平23　文・英語英米文	品川区立東海中学校	専任	英語
	平23　文・英語英米文	新潟県立十日町高等学校	専任	英語
	平25　文・英語英米文	横浜市立鶴ケ峯中学校	専任	英語
	平23　文・人文	横浜市立上白根小学校	専任	全科
	平24　文・人文	神奈川県教育委員会	専任	地理歴史
	平25　文・人文	静岡市立長田西中学校	常勤	社会
	平25　文・人文	学校法人國學院大學（國學院大学久我山中学・高等学校） 学校法人東洋高等学校（東洋高等学校）	非常勤	社会・地理歴史・公民
	平25　文・人文	川崎市立川崎中学校	非常勤	社会・特別支援
	平24　文・心理	大田区立馬込第二小学校	専任	全科

主な教員就職先一覧

就職年度	卒業年・学部・学科	就職先	職名	教科
平成25年度	平22 ネットワーク情報・ネットワーク情報	埼玉県立桶川高等学校	専任	数学
	平25 ネットワーク情報・ネットワーク情報	学校法人大森学園（大森学園高等学校）	非常勤	数学
	平25 ネットワーク情報・ネットワーク情報	東京都立東高等学校	非常勤	情報
	平25 ネットワーク情報・ネットワーク情報	館山市立第二中学校	期限付	数学
	平25 院経営・修士	学校法人立教学院（立教新座中学校・高等学校）	非常勤	情報
	平23 院文・修士	神奈川県立小田原城北工業高等学校	専任	英語
	平24 院文・修士	学校法人向上学園（自修館中等教育学校）	常勤	英語
	平25 院文・修士	学校法人専修大学附属高等学校（専修大学附属高等学校）	非常勤	国語
	平25 院文・修士	川崎市立南加瀬中学校	非常勤	社会
平成26年度	平26 経済・経済	真岡市立真岡中学校	常勤	社会
	平23 法・法律	蕨市立北小学校	専任	全科
	平24 法・法律	松田町立松田中学校	専任	社会
	平26 法・法律	南伊豆町立南伊豆東中学校	常勤	社会
	平24 法・政治	白山市立美川中学校	専任	社会
	平24 法・政治	伊勢崎市立あずま小学校	専任	全科
	平26 経営・経営	相模原市立相陽中学校	非常勤	社会
	平26 経営・経営	大磯町立大磯中学校	常勤	社会
	平26 商・会計	福島県立福島商業高等学校	常勤	商業
	平24 文・日本語日本文	横浜市立寺尾中学校	専任	国語
	平25 文・日本語日本文	川北町立川北中学校	専任	国語
	平25 文・日本語日本文	東庄町立東庄中学校	専任	国語
	平25 文・日本語日本文	川崎市立川崎高等学校	非常勤	国語
	平26 文・日本語	学校法人美萩野学園（美萩野女子高等学校）	常勤	国語
	平26 文・日本語	学校法人創志学園（クラーク記念国際高等学校）	常勤	国語
	平26 文・日本語	茅ヶ崎市立円蔵中学校	常勤	国語
	平26 文・日本文学文化	玉名市立伊倉小学校 玉名市立梅林小学校	臨時的任用	理科・算数 全科
	平26 文・日本文学文化	富士宮市立富士宮第二中学校	非常勤	国語
	平26 文・日本文学文化	岩手県立花泉高等学校	常勤	国語
	平26 文・日本文学文化	川崎市立中野島中学校	臨時的任用	国語
	平26 文・日本文学文化	学校法人専修大学附属高等学校（専修大学附属高等学校）	非常勤	国語
	平26 文・日本文学文化	学校法人日本大学（日本大学櫻丘高等学校）	非常勤	国語
	平26 文・日本文学文化	学校法人福島成蹊学園（福島成蹊学園中学校・高等学校）	常勤	国語
	平22 文・英語英米文	相模原市立相陽中学校	専任	英語
	平23 文・英語英米文	伊勢原市立山王中学校	専任	英語
	平23 文・英語英米文	南足柄市立南足柄中学校	専任	英語
	平23 文・英語英米文	学校法人獨協学園（獨協中学・高等学校）	専任	英語
	平24 文・英語英米文	川崎市立中野島小学校	臨時的任用	全科
	平26 文・英語英米文	学校法人翔光学園（横浜創学館高等学校）	非常勤	英語
	平26 文・英語英米文	学校法人郁文館夢学園（郁文館高等学校）	常勤	英語
	平26 文・英語英米文	学校法人翔光学園（横浜創学館高等学校）	常勤	英語
	平26 文・英語英米文	学校法人二松學舎（二松學舎大学附属柏中学校・高等学校）	非常勤	英語
	平26 文・英語英米文	学校法人日本大学（日本大学鶴ヶ丘高等学校）	非常勤	英語
	平25 文・人文	学校法人自然学園（自然学園高等学校　神奈川学習センター栄眞学園高等部）	常勤	地理歴史
	平26 文・哲	埼玉県立本庄特別支援学校	期限付(介護休暇代替)	
	平26 文・歴史	東京都立田柄高等学校	専任	地理歴史
	平25 ネットワーク情報・ネットワーク情報	館山市立船形小学校	専任	全科
	平26 ネットワーク情報・ネットワーク情報	学校法人常磐大学（常磐大学高等学校）	専任（期限付）	情報
	平26 人間科・社会	府中市立府中第六小学校	専任	全科
	平26 人間科・社会	相模原市立大沢中学校	専任	社会
	平26 人間科・社会	前橋市立箱田中学校	専任	社会
	平24 院文・修士	神奈川県立伊志田高等学校	専任	国語
	平25 院文・修士	川崎市立塚越中学校	専任	社会

司書課程・司書教諭課程主な就職先一覧（図書館／図書関係）

勤　　務　　先	
日本獣医生命科学大学付属図書館	藤沢市総合市民図書館（神奈川県）
信州大学附属図書館	日本原子力研究所研究情報部情報メディアライブラリー
大和市立図書館	長岡市立中央図書館（新潟県）
武蔵大学図書館	（株）雄松堂書店
東京大学法学部図書館	青山学院女子短期大学図書館
日外アソシエーツ（株）	国士舘大学鶴川図書館
見附市立図書館（新潟県）	追手門学院大学附属図書館
（株）有隣堂	学校法人橘学苑（橘学苑中学校・高等学校）
女子栄養大学図書館	相模原市立相模大野図書館（神奈川県）
公立はこだて未来大学情報ライブラリー	神奈川県立川崎高等学校
東京医科大学図書館	横須賀市立中央図書館
杉並区中央図書館（東京都）	（株）三省堂書店
横浜市立図書館	神奈川県立図書館
土木学会附属土木図書館	江東区立亀戸図書館
専修大学図書館	横浜総合リハビリテーションセンター図書室
八街市立図書館（千葉県）	法政大学多摩図書館

学芸員課程主な就職先一覧

勤　　務　　先	
宮城県栗原市役所	逓信総合博物館
行田市郷土博物館	（財）山武郡市文化財センター
下妻市ふるさと博物館	（株）乃村工藝社
さいたま市浦和くらしの博物館民家園	調布市郷土博物館
行方市玉造公民館（資料館）	日本民藝館
野田市郷土博物館	東京国際美術館
東京都埋蔵文化財センター	町田市フォトサロン
すみだ郷土文化資料館	栃木県立博物館
群馬県埋蔵文化財調査センター	山梨県立考古博物館
町立湯河原美術館	福井県立歴史博物館
高山市立郷土館	新発田市教育委員会
国際航業株式会社	入間市郷土博物館
鳥羽水族館	静岡市立登呂博物館
秋田県埋蔵文化財センター	松戸市立博物館
埼玉県埋蔵文化財センター	箱根美術館
栃木県埋蔵文化財センター	大牟田市三池カルタ・歴史資料館
由利本荘市矢島郷土文化保存伝習施設	東京都教育委員会
富岡市立美術博物館　福沢一郎記念美術館	青森県教育委員会
（東京）電力館	高知県教育委員会
ＭＯＡ美術館	愛媛大学東アジア古代鉄文化研究センター
九州国立博物館	八街市郷土資料館
高松市歴史資料館	鳥取県教育委員会
臼杵市教育委員会	愛知県大口町歴史民俗資料館
飯田市教育委員会	新潟県教育委員会
佐渡市教育委員会	紅ミュージアム
（公財）メトロ文化財団	埼玉県立さきたま史跡の博物館

平成26年度　資格課程年間行事表

課程		教職課程		司書課程		司書教諭課程		学芸員課程	
月		行事	対象年次	行事	対象年次	行事	対象年次	行事	対象年次
4月	上旬	教職・司書・司書教諭・学芸員課程履修ガイダンスおよび各種納金（全学年）※ 一部３月 履修科目登録および履修修正（全学年）							
		介護等の体験事前オリエンテーション	3・4						
	中旬	実習希望校との内諾交渉	3						
		介護等の体験事前講習会	3・4						
5月	上旬	教育実習事前ガイダンス	4						
		教育実習 （5月～11月）	4						
	下旬							館務実習事前ガイダンス	3・4
								博物館見学実習	3・4
								博物館実習（館務実習） （5月～12月）	3・4
6月	上旬	教育実習登録ガイダンス	3						
		教育実習内諾書の提出	3						
		介護等の体験開始 （6月上旬～3月上旬）	3・4			司書教諭修了証書申請ガイダンス （3年次までに司書教諭の単位をすべて修得した者）	4		
	下旬	教員免許状一括申請ガイダンス	4						
7月	下旬	前期試験（全学年）							
8月		夏期休暇（8月上旬～9月中旬） 前期追試験（全学年）							
				図書館実習 （8月～10月）	3・4				
		夏期休暇							
9月	下旬	教員免許状授与申請書確認ガイダンス	4			司書教諭修了証書申請ガイダンス （4年次で司書教諭の科目を履修した者）	4	館務実習登録ガイダンス （第1回）	2・3
10月	上旬	教職公開講座	1～4						
11月	中旬							学芸員資格取得証明書交付申請手続き	4
								館務実習登録ガイダンス （第2回）	2・3
	下旬	教育学会	1～4					実習希望博物館との内諾交渉	2・3
12月	上旬			司書課程就職（進路）懇談会	1～4				
1月	中旬	後期試験（全学年）							
2月	中旬	後期追試験（全学年）							
								館務実習承諾書の提出	2・3
3月	22日	教員免許状の交付	4					学芸員資格取得証明書の交付	4

平成26年度　教職公開講座開催結果

1．開 催 日　　平成２６年１０月４日(土)
2．時　　間　　13 時 00 分 ～ 17 時 10 分
3．場　　所　　専修大学生田校舎１号館
4．参加人数　　Ⅰ部： 128 名　　Ⅱ部： 251 名
5．内　　容

（１）採用試験体験談および優れた教育実践に学ぶ ① ー 今の教育現場について ー（専大ＯＢ・ＯＧ）

講師（卒業年・学部・学科）	勤務先	科目
小泉有沙 先生（平成24年3月　文学部　日本語日本文学科　卒業）	成田山教育財団　成田高等学校	国語
斎藤麻美 先生（平成23年3月　文学部　英語英米文学科　卒業）	南足柄市立南足柄中学校	英語
荒井未来 先生（平成26年3月　人間科学部　社会学科　卒業）	相模原市立大沢中学校	社会
山崎大輔 先生（平成12年3月　文学部　人文学科　歴史学専攻　卒業）	佐藤栄学園　栄東中学・高等学校	地理歴史・公民
進士勇介 先生（平成22年3月　商学研究科　商学専攻　修了）	新名学園　旭丘高等学校	商業
岩谷　結 先生（平成22年3月　ネットワーク情報学部　ネットワーク情報学科　卒業）	神奈川県立相模向陽館高等学校	情報
吉田友里 先生（平成24年3月　法学部　政治学科　卒業）	伊勢崎市立あずま小学校	小学校

（２）優れた教育実践に学ぶ ② ー 求められる教師像 ー

講師	専修大学 文学部　特任教授　神山安弘 先生

（３）タイムテーブル

	時間	内容	場所
Ⅰ部 13：00 〜 13：55	13：00〜13：05	講師の紹介	該当教室
	13：05〜13：25 （20分）	採用試験体験談 ① 国語　小泉有沙 先生 社会　荒井未来 先生 商業　進士勇介 先生 小学校　吉田友里 先生	 １２４教室 １１７教室 １２１教室 １２２教室
	13：35〜13：55 （20分）	採用試験体験談 ② 英語　斎藤麻美 先生 地理歴史・公民　山崎大輔 先生 情報・数学　岩谷　結 先生	 １２４教室 １１７教室 １２１教室
Ⅱ部 14：00 〜 17：00	14：00〜14：15	オリエンテーション	１１４教室
	14：15〜14：55 （40分）	優れた教育実践に学ぶ ① ー今の教育現場についてー 国語　小泉有沙 先生 英語　斎藤麻美 先生 社会　荒井未来 先生 地理歴史・公民　山崎大輔 先生　吉田友里 先生 商業　進士勇介 先生 情報・数学　岩谷　結 先生	 １２１教室 １１７教室 １２５教室 １２４教室 １２２教室 １２３教室
	14：55〜15：05	質問用紙の提出	該当教室
	15：05〜15：35 （30分）	ー現職教員とのディスカッションー 国語　小泉有沙 先生 英語　斎藤麻美 先生 社会　荒井未来 先生 地理歴史・公民　山崎大輔 先生　吉田友里 先生 商業　進士勇介 先生 情報・数学　岩谷　結 先生	 １２１教室 １１７教室 １２５教室 １２４教室 １２２教室 １２３教室
	15：35〜15：50	休憩	
	15：50〜16：50 （60分）	優れた教育実践に学ぶ ② ー求められる教師像ー 神山安弘 先生	１１４教室
	16：50〜17：10	まとめ	１１４教室

平成26年度　司書課程就職（進路）懇談会開催結果

1．開 催 日：平成 26 年 12 月 2 日（火）

2．時　　間：16：30 ～ 18：00

3．場　　所：専修大学生田校舎　ゼミ 101Ｂ教室（ 10 号館）

4．ゲ ス ト：嶋田茉里子さん（本学ネットワーク情報学部卒業生）

5．参加者数：14 名

6．内　　容：東京都立中央図書館で司書として働く嶋田氏より、東京都立図書館の概要、ご自身の業務内容（カウンターや電話で利用者から寄せられる様々なレファレンス質問への対応、法律情報に関するトピック展示やレファレンス研修の準備など）や一日の仕事の流れについて、及び、公共図書館における司書職採用の現状、採用試験の合格に必要な要素、公務員（司書職）試験の時期や仕組み、求人情報の収集方法などのお話を伺った。また、仕事で必要な知識はどのようにして身につけるのか、専門試験対策で役に立つ図書は何か、具体的な勉強方法などの質問に対して、ご自身の経験にもとづいて丁寧に回答していただいた。参加した学生間でのやり取りもあり、終始和やかな懇談であった。

平成26年度　資格課程教員紹介

《教職》

所属学部	職　名	氏　名	主要な担当科目
経済学部	教　授	矢吹　芳洋	公民科教育研究１・２
経済学部	講　師	角田真紀子	教育相談の理論と方法
法 学 部	准 教 授	鈴木　秀光	法律学ａ・ｂ
法 学 部	准 教 授	森田　司郎	道徳教育指導論
経営学部	教　授	嶺井　正也	教育原論
商 学 部	教　授	蔭山　雅博	地理歴史科教育研究１・２
商 学 部	教　授	中野　育男	商業科教育研究１・２
文 学 部	教　授	新井　勝紘	日本史ａ・ｂ
文 学 部	教　授	上原　秀明	人文地理学概論ａ
文 学 部	教　授	江崎　雄治	人文地理学概論ｂ
文 学 部	教　授	大庭　　健	倫理学ａ・ｂ
文 学 部	教　授	片桐　一彦	英語科教育研究１・２
文 学 部	教　授	鐘ケ江晴彦	教育社会学
文 学 部	教　授	上村　妙子	英語科教育研究３・４
文 学 部	教　授	苅谷　愛彦	自然地理学概論ａ
文 学 部	教　授	小峰　直史	教職入門
文 学 部	教　授	高橋　龍夫	国語科教育研究１・２
文 学 部	教　授	仲川　恭司	書道科教育研究１・２
文 学 部	教　授	貫　　成人	哲学ａ
文 学 部	教　授	廣瀬　玲子	中国文学講義ａ・ｂ
文 学 部	教　授	福島　義和	地誌学ａ・ｂ
文 学 部	教　授	山本　　充	地理学ａ・ｂ
文 学 部	講　師	赤坂　郁美	自然地理学概論ｂ
文 学 部	特任教授	神山　安弘	教職実践演習
ネットワーク情報学部	教　授	砂原　由和	教育方法論
ネットワーク情報学部	准 教 授	望月　俊男	情報科教育研究１
経済学部	兼任講師	崔　　玉芬	心身の発達と学習の過程
経済学部	兼任講師	種藤　　博	社会科教育研究１・２
経済学部	兼任講師	増田　純一	社会科教育研究１・２
法 学 部	兼任講師	荒井　明夫	教育課程論
法 学 部	兼任講師	金ヒョン淑	教育課程論
法 学 部	兼任講師	高田　貫太	日本史ａ・ｂ
法 学 部	兼任講師	中村　文夫	教育行政学
法 学 部	兼任講師	松村　芳明	法律学ａ・ｂ
法 学 部	兼任講師	宮崎　孝治	教育原論
経営学部	兼任講師	大和田雄一	教育原論
経営学部	兼任講師	杉田かおり	道徳教育指導論
商 学 部	兼任講師	前川　明彦	人文地理学概論ａ・ｂ
商 学 部	兼任講師	泉　　貴久	地理学ａ・ｂ
商 学 部	兼任講師	岩田　公夫	教職入門
商 学 部	兼任講師	高崎　　彰	生徒・進路指導論
商 学 部	兼任講師	藤本　一美	地理学ａ・ｂ
文 学 部	兼任講師	岡　　秀一	地誌学ａ・ｂ
文 学 部	兼任講師	小長野航太	倫理学ａ・ｂ
文 学 部	兼任講師	小林　克則	外国史ａ・ｂ
文 学 部	兼任講師	角田　清美	地誌学ａ・ｂ
文 学 部	兼任講師	滝澤　　武	英語科教育研究１
文 学 部	兼任講師	田口　博子	宗教学ａ・ｂ
文 学 部	兼任講師	田中　禎昭	日本史ａ・ｂ
文 学 部	兼任講師	富永　裕子	英語科教育研究２
文 学 部	兼任講師	根本　欣哉	国語科教育研究３・４
文 学 部	兼任講師	服部あさこ	教育社会学
文 学 部	兼任講師	正野　泰周	倫理学ａ・ｂ
文 学 部	兼任講師	三ツ野陽介	哲学ｂ
文 学 部	兼任講師	村松　弘一	外国史ａ・ｂ
文 学 部	兼任講師	山下　　直	国語科教育研究１・２
ネットワーク情報学部	兼任講師	飯塚　久男	教育方法論
ネットワーク情報学部	兼任講師	大木　　博	情報と職業
ネットワーク情報学部	兼任講師	大塚慎太郎	数学科教育研究１・２
ネットワーク情報学部	兼任講師	脇本　健弘	情報科教育研究２

《司書・司書教諭》

所属学部	職　名	氏　名	主要な担当科目
経営学部	教　授	大曽根　匡	図書館情報技術論
文 学 部	教　授	荻原　幸子	図書館概論
文 学 部	教　授	野口　武悟	学校経営と学校図書館
文 学 部	特任教授	岩崎　貞明	コミュニケーション論
経済学部	兼任講師	御園生　純	生涯学習概論
法 学 部	兼任講師	斎藤憲一郎	情報メディアの活用
経営学部	兼任講師	中山美由紀	学校図書館メディアの構成
経営学部	兼任講師	廣澤　敏夫	図書館情報技術論
経営学部	兼任講師	渡辺　暢恵	学習指導と学校図書館
文 学 部	兼任講師	石原　眞理	図書館サービス概論
文 学 部	兼任講師	太田　順子	図書館情報資源特論
文 学 部	兼任講師	汐崎　順子	児童サービス論
文 学 部	兼任講師	須賀　千絵	図書館制度・経営論
文 学 部	兼任講師	千代原真智子	児童サービス論
文 学 部	兼任講師	中川　恭一	図書館制度・経営論
文 学 部	兼任講師	中島　玲子	情報サービス演習２
文 学 部	兼任講師	成松　一郎	図書館サービス特論
文 学 部	兼任講師	長谷川昭子	図書館サービス概論
ネットワーク情報学部	兼任講師	気谷　陽子	情報資源組織論
ネットワーク情報学部	兼任講師	竹村　和子	学校図書館メディアの構成
ネットワーク情報学部	兼任講師	日向　良和	情報サービス演習１

《学芸員》

所属学部	職　名	氏　名	主要な担当科目
経営学部	教　授	内田　欽三	博物館概論
文 学 部	准 教 授	高島　裕之	博物館実習
法 学 部	兼任講師	水上　和則	博物館情報・メディア論
経営学部	兼任講師	小瀬戸　恵美	博物館資料保存論

編集後記 ～資格課程年報編集委員より～

今号の編集に際し、教育現場や各種公共文化機関などで活躍されているOB・OGの皆様、在学生諸君、諸先生方のご協力を頂きました。厚く御礼を申し上げます。

周知のとおり、少子高齢化社会の到来に伴って、初等・中等教育機関のみならず、高等教育機関・大学のあり様も大きく変化しようとしています。当然のことながら、大学資格課程のあり様も、文部科学省の要請との関係において変革が求められていると言ってよいでしょう。今号に掲載させて頂いた様々な論攷や実践報告などにもそれらが反映しているように思われます。概して、児童・生徒の個性的発達の保障、智識・技能の効率的且つ合理的修得方法、およびこれらの表現方法や活用方法はどうあるべきか、これらの模索に苦しむOB・OG教員や教育実習生の姿が随所に描かれているようです。

また、今号では長く教育行政に携わっているOB・OG教員の仕事ぶりを取り上げさせて頂きました。教育委員会の使命と権限範囲を正しく理解して頂ければ幸いです。

編集委員長
陰山　雅博
編集委員
角田真紀子
内田　鉄三
野口　武悟

平成26年度　専修大学
資格課程年報『パッソ　ア　パッソ』

発行日　平成27年4月1日
編　集　専修大学
生田校舎　教務課　資格課程係
〒214-8580　神奈川県川崎市多摩区東三田2-1-1
TEL　044-911-1259　FAX　044-911-7163
神田校舎　教務課・二部事務課
〒101-8425　東京都千代田区神田神保町3-8
TEL　03-3265-5843・8359　FAX　03-3265-7084
URL　http://www.senshu-u.ac.jp/sc_grsc/shikaku/

印　刷　有限会社米田印刷
〒140-0002　東京都品川区東品川1-21-4
TEL　03-3474-9791

専修大学